

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画  
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

前田村遺跡 G・H・I 区  
(中 卷)

平成 11 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

210.231

Y67

NK

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

# 伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画 整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

前田村遺跡 G・H・I区  
(中 卷)

平成 11 年 3 月

寄	贈
歴史・人類学系	平成
	年
	月
	日

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

00603030

# 目 次

## — 中 巻 —

第4節 H区の遺構と遺物	397
1 縄文時代の遺構と遺物	397
(1) 竪穴住居跡	398
(2) 土坑墓	432
(3) 土坑	433
(4) 焼土遺構	563
(5) 埋設遺構	564
2 古墳時代の遺構と遺物	565
(1) 竪穴住居跡	565
3 中・近世の遺構と遺物	590
(1) 方形竪穴状遺構	591
(2) 長方形土坑	599
(3) 地下式構	604
(4) 井戸	610
(5) 堀	613
(6) 溝	616
(7) ビット群	618
4 遺構外出土遺物	619
第5節 I区の遺構と遺物	633
1 縄文時代の遺構と遺物	634
(1) 竪穴住居跡	634

## 插图目次

### H区

第341图	H区南东部遺構配置図	397	第373图	第2463号土坑実測図	432
第342图	第419号住居跡・出土遺物実測図	398	第374图	第2357号土坑・出土遺物実測図	433
第343图	第421号住居跡実測図	399	第375图	第2361号土坑・出土遺物実測図	434
第344图	第421号住居跡出土遺物実測図	400	第376图	第2364号土坑・出土遺物実測図(1)	436
第345图	第422号住居跡・出土遺物実測図	402	第377图	第2364号土坑出土遺物実測図(2)	437
第346图	第424号住居跡・出土遺物実測図	403	第378图	第2364号土坑出土遺物実測図(3)	438
第347图	第425号住居跡実測図	404	第379图	第2364号土坑出土遺物実測図(4)	439
第348图	第427・428号住居跡実測図	405	第380图	第2365号土坑・出土遺物実測図(1)	441
第349图	第427号住居跡出土遺物実測図	406	第381图	第2365号土坑出土遺物実測図(2)	442
第350图	第428号住居跡出土遺物実測図	407	第382图	第2366号土坑・出土遺物実測図	443
第351图	第429号住居跡実測図	408	第383图	第2370号土坑・出土遺物実測図	444
第352图	第429号住居跡出土遺物実測図	409	第384图	第2372号土坑・出土遺物実測図	445
第353图	第430号住居跡・出土遺物実測図	410	第385图	第2374号土坑・出土遺物実測図	446
第354图	第431号住居跡実測図	411	第386图	第2375号土坑・出土遺物実測図	447
第355图	第431号住居跡出土遺物実測図(1)	413	第387图	第2376号土坑・出土遺物実測図	448
第356图	第431号住居跡出土遺物実測図(2)	414	第388图	第2377号土坑・出土遺物実測図	449
第357图	第432号住居跡・出土遺物実測図	415	第389图	第2378号土坑・出土遺物実測図	450
第358图	第433・435・436号 住居跡実測図(1)	416	第390图	第2380号土坑・出土遺物実測図	451
第359图	第433・435・436号 住居跡実測図(2)	417	第391图	第2383号土坑・出土遺物実測図	451
第360图	第433号住居跡出土遺物実測図	418	第392图	第2388号土坑・出土遺物実測図	453
第361图	第435号住居跡出土遺物実測図	419	第393图	第2389号土坑・出土遺物実測図	454
第362图	第436号住居跡出土遺物実測図	420	第394图	第2390・2392号土坑実測図	454
第363图	第437・438号住居跡実測図	421	第395图	第2390号土坑出土遺物実測図	455
第364图	第438号住居跡出土遺物実測図	422	第396图	第2392号土坑出土遺物実測図	456
第365图	第439号住居跡・出土遺物実測図	423	第397图	第2394号土坑・出土遺物実測図	457
第366图	第440号住居跡実測図	423	第398图	第2396・2397号土坑実測図	458
第367图	第452号住居跡・出土遺物実測図	424	第399图	第2396号土坑出土遺物実測図	459
第368图	第478号住居跡・出土遺物実測図	425	第400图	第2397号土坑出土遺物実測図	459
第369图	第499号住居跡・出土遺物実測図	426	第401图	第2399号土坑・出土遺物実測図	461
第370图	第500号住居跡・出土遺物実測図	427	第402图	第2401号土坑・出土遺物実測図(1)	463
第371图	第501号住居跡実測図	429	第403图	第2401号土坑出土遺物実測図(2)	464
第372图	第501号住居跡出土遺物実測図	430	第404图	第2408号土坑・出土遺物実測図	465
			第405图	第2415号土坑・出土遺物実測図	467
			第406图	第2418号土坑・出土遺物実測図	467
			第407图	第2427号土坑・出土遺物実測図	468

第408图	第2429号土坑·出土遗物实测图	……	469	第446图	第2772号土坑·出土遗物实测图	……	507
第409图	第2432号土坑·出土遗物实测图	……	470	第447图	第2773号土坑·出土遗物实测图	……	508
第410图	第2433号土坑·出土遗物实测图	……	471	第448图	第2775号土坑·出土遗物实测图	……	509
第411图	第2444、2445号土坑实测图	……	471	第449图	第2799号土坑·出土遗物实测图	……	510
第412图	第2444号土坑出土遗物实测图	……	472	第450图	第2807号土坑·出土遗物实测图	……	511
第413图	第2445号土坑出土遗物实测图	……	473	第451图	第2811号土坑·出土遗物实测图	……	512
第414图	第2446号土坑·出土遗物实测图	……	474	第452图	第2826、2827号土坑实测图	……	512
第415图	第2451号土坑·出土遗物实测图	……	475	第453图	第2826号土坑出土遗物实测图	……	513
第416图	第2456号土坑·出土遗物实测图	……	476	第454图	第2839号土坑·出土遗物实测图	……	514
第417图	第2459号土坑·出土遗物实测图	……	477	第455图	第2840号土坑·出土遗物实测图	……	515
第418图	第2461、2462号土坑实测图	……	478	第456图	第2841号土坑·出土遗物实测图	……	516
第419图	第2461号土坑出土遗物实测图	……	478	第457图	第2844号土坑·出土遗物实测图(1)	……	518
第420图	第2462号土坑出土遗物实测图	……	479	第458图	第2844号土坑出土遗物实测图(2)	……	519
第421图	第2465号土坑·出土遗物实测图	……	480	第459图	第2848号土坑·出土遗物实测图	……	520
第422图	第2468号土坑·出土遗物实测图	……	481	第460图	第2853号土坑·出土遗物实测图(1)	……	521
第423图	第2472号土坑·出土遗物实测图	……	482	第461图	第2853号土坑出土遗物实测图(2)	……	522
第424图	第2474号土坑·出土遗物实测图	……	483	第462图	第2854、2856号土坑实测图	……	523
第425图	第2475号土坑·出土遗物实测图	……	484	第463图	第2854号土坑出土遗物实测图	……	523
第426图	第2486号土坑·出土遗物实测图	……	486	第464图	第2856号土坑出土遗物实测图	……	524
第427图	第2492号土坑·出土遗物实测图	……	487	第465图	第2858号土坑·出土遗物实测图	……	525
第428图	第2493号土坑·出土遗物实测图(1)	……	488	第466图	第2859号土坑·出土遗物实测图	……	527
第429图	第2493号土坑出土遗物实测图(2)	……	489	第467图	第2862号土坑·出土遗物实测图	……	529
第430图	第2495号土坑·出土遗物实测图	……	490	第468图	第2867号土坑·出土遗物实测图	……	531
第431图	第2497号土坑·出土遗物实测图	……	491	第469图	第2870号土坑·出土遗物实测图	……	532
第432图	第2498号土坑·出土遗物实测图	……	493	第470图	第2871、2875号土坑实测图	……	533
第433图	第2499号土坑·出土遗物实测图	……	494	第471图	第2871号土坑出土遗物实测图	……	533
第434图	第2502号土坑·出土遗物实测图	……	495	第472图	第2899号土坑·出土遗物实测图	……	535
第435图	第2507号土坑·出土遗物实测图	……	497	第473图	第2900号土坑·出土遗物实测图	……	536
第436图	第2510号土坑·出土遗物实测图	……	497	第474图	第2905号土坑·出土遗物实测图	……	537
第437图	第2512号土坑·出土遗物实测图	……	498	第475图	第2910号土坑·出土遗物实测图	……	538
第438图	第2514号土坑·出土遗物实测图	……	499	第476图	第2912号土坑·出土遗物实测图	……	539
第439图	第2515号土坑·出土遗物实测图	……	500	第477图	第2914号土坑·出土遗物实测图	……	539
第440图	第2516号土坑·出土遗物实测图	……	500	第478图	第2918号土坑·出土遗物实测图	……	540
第441图	第2521号土坑·出土遗物实测图	……	501	第479图	第2920号土坑·出土遗物实测图	……	541
第442图	第2524号土坑·出土遗物实测图	……	503	第480图	第2927号土坑·出土遗物实测图	……	542
第443图	第2541号土坑·出土遗物实测图	……	504	第481图	第2931号土坑·出土遗物实测图	……	543
第444图	第2567号土坑·出土遗物实测图	……	505	第482图	第2932号土坑·出土遗物实测图	……	544
第445图	第2764号土坑·出土遗物实测图	……	506	第483图	第2934号土坑·出土遗物实测图	……	545

第484図	第2937号土坑・出土遺物実測図	……	546	第520図	第5・6・8号方形竪穴状遺構実測図	……	592
第485図	第2939号土坑・出土遺物実測図	……	547	第521図	第7号方形竪穴状遺構実測図	……	593
第486図	第2945号土坑・出土遺物実測図(1)	…	549	第522図	第9号方形竪穴状遺構実測図	……	594
第487図	第2945号土坑出土遺物実測図(2)	……	550	第523図	第10号方形竪穴状遺構実測図	……	595
第488図	第2946号土坑・出土遺物実測図	……	551	第524図	第11号方形竪穴状遺構実測図	……	597
第489図	第2952号土坑・出土遺物実測図	……	552	第525図	第11号方形竪穴状遺構出土遺物実測図	……	598
第490図	第2954号土坑・出土遺物実測図	……	553	第526図	第2756・2759・2761・2879・2883・2940号土坑実測図	……	600
第491図	第2960号土坑・出土遺物実測図	……	554	第527図	第2940号土坑出土遺物実測図	……	602
第492図	第2966号土坑・出土遺物実測図	……	555	第528図	第25号地下式墳実測図	……	604
第493図	第1号焼土遺構実測図	……	563	第529図	第25号地下式墳出土遺物実測図	……	605
第494図	第2号焼土遺構実測図	……	564	第530図	第26号地下式墳実測図	……	606
第495図	第2号土器埋設遺構・出土遺物実測図	……	564	第531図	第27号地下式墳実測図	……	607
第496図	第485号住居跡実測図	……	565	第532図	第28号地下式墳実測図	……	608
第497図	第485号住居跡出土遺物実測図	……	566	第533図	第29・30号井戸実測図	……	610
第498図	第486号住居跡実測図	……	567	第534図	第29号井戸出土遺物実測図	……	611
第499図	第486号住居跡出土遺物実測図	……	568	第535図	第1号堀実測図	……	613
第500図	第488号住居跡・掘り方実測図	……	569	第536図	第1号堀出土遺物実測図	……	614
第501図	第488号住居跡出土遺物実測図	……	571	第537図	第2A・B号堀実測図	……	615
第502図	第489号住居跡・出土遺物実測図	…	572	第538図	第2A・B号堀出土遺物実測図	……	615
第503図	第490号住居跡・出土遺物実測図	…	573	第539図	第137号溝出土遺物実測図	……	616
第504図	第491号住居跡実測図	……	574	第540図	第130・131・134A・135~139・141号溝実測図	……	616
第505図	第491号住居跡出土遺物実測図	……	575	第541図	第1号ピット群実測図	……	618
第506図	第492号住居跡実測図	……	576	第542図	遺構外出土遺物実測図(1)	……	620
第507図	第492号住居跡掘り方実測図	……	577	第543図	遺構外出土遺物実測図(2)	……	621
第508図	第492号住居跡出土遺物実測図	……	578	第544図	遺構外出土遺物実測図(3)	……	622
第509図	第494号住居跡実測図	……	579	第545図	遺構外出土遺物実測図(4)	……	623
第510図	第494号住居跡出土遺物実測図	……	580	第546図	遺構外出土遺物実測図(5)	……	624
第511図	第495号住居跡実測図	……	581	第547図	遺構外出土遺物実測図(6)	……	625
第512図	第495号住居跡掘り方実測図	……	582	第548図	遺構外出土遺物実測図(7)	……	626
第513図	第495号住居跡出土遺物実測図	……	584	第549図	遺構外出土遺物実測図(8)	……	627
第514図	第496号住居跡実測図	……	585				
第515図	第496号住居跡出土遺物実測図	……	586				
第516図	第498号住居跡実測図	……	587				
第517図	第498号住居跡出土遺物実測図	……	588				
第518図	第3号遺構群配置図	……	590				
第519図	第4号方形竪穴状遺構実測図	……	591				

## I 区

第550图	I 区全体图 .....	633	第570图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(1) .....	662
第551图	第441号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	635	第571图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(2) .....	663
第552图	第446号住居跡実測図 .....	636	第572图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(3) .....	664
第553图	第446号住居跡出土遺物実測図 .....	638	第573图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(4) .....	665
第554图	第447号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	639	第574图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(5) .....	666
第555图	第448号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	641	第575图	第464 A · B 号住居跡 出土遺物実測図(6) .....	667
第556图	第450号住居跡実測図 .....	642	第576图	第464 B 号住居跡出土遺物実測図 ...	669
第557图	第450号住居跡出土遺物実測図 .....	644	第577图	第467号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	670
第558图	第451号住居跡実測図 .....	645	第578图	第471号住居跡実測図 .....	671
第559图	第453号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	646	第579图	第475号住居跡実測図 .....	673
第560图	第454号住居跡 · 出土遺物実測図(1) .....	648	第580图	第475号住居跡出土遺物実測図(1) ...	674
第561图	第454号住居跡出土遺物実測図(2) ...	649	第581图	第475号住居跡出土遺物実測図(2) ...	675
第562图	第456号住居跡実測図 .....	649	第582图	第475号住居跡出土遺物実測図(3) ...	676
第563图	第457号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	650	第583图	第476号住居跡実測図 .....	677
第564图	第458号住居跡 · 出土遺物実測図 ...	652	第584图	第477号住居跡実測図 .....	679
第565图	第463号住居跡実測図 .....	654	第585图	第477号住居跡出土遺物実測図 .....	680
第566图	第463号住居跡出土遺物実測図(1) ...	656			
第567图	第463号住居跡出土遺物実測図(2) ...	657			
第568图	第463号住居跡出土遺物実測図(3) ...	658			
第569图	第464 A · B 号 住居跡実測図 .....	659 · 660			

## 表 目 次

表9	前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覧表	431
表10	前田村遺跡H区縄文時代土坑一覧表	556
表11	前田村遺跡H区古墳時代住居跡一覧表	589
表12	前田村遺跡H区方形竪穴状遺構一覧表	598
表13	前田村遺跡H区中世土坑一覧表	602
表14	前田村遺跡H区その他の土坑一覧表	603
表15	前田村遺跡H区地下式墳一覧表	609
表16	前田村遺跡H区溝一覧表	617
表17	前田村遺跡I区住居跡一覧表	680

## 付 図

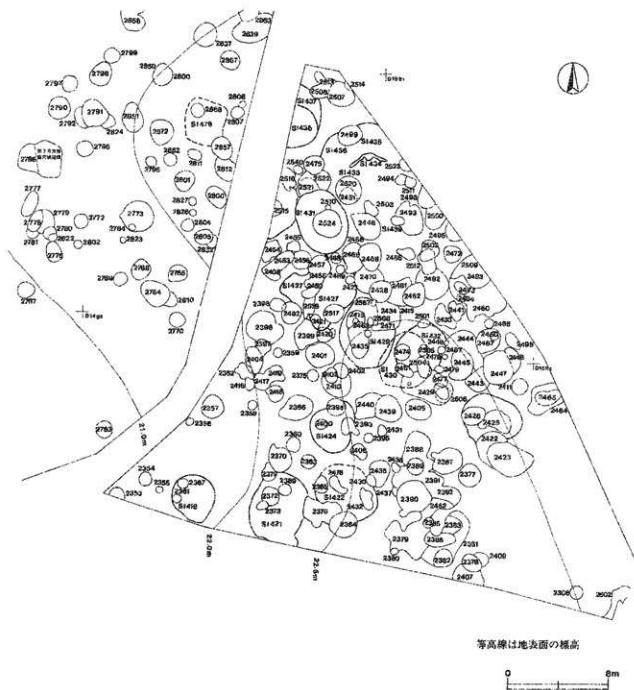
付図1	前田村遺跡G区全体図
付図2	前田村遺跡H区全体図
付図3	前田村遺跡I区全体図



## 第4節 H区の遺構と遺物

### 1 縄文時代の遺構と遺物

H区は、当遺跡のほぼ中央部、南側から北側に向けて入り込む谷津の先端部の台地上に位置し、南部から南東部は谷津に向けて標高差約1.5mで緩やかに傾斜している。南東部は平成9年に報告されたD区と隣接しており、同時期の遺構が存在している。また、縄文時代の遺構の重複が著しい。遺構は壑穴住居跡23軒、土坑壙1基、土坑334基が検出されている。土坑については、出土遺物の残存状況が良好なもの及び形態に特徴を持つものを取り上げ、それ以外は一覧表で表記した。なお、遺構番号はD区東側に隣接するG区からの続きである。



第341図 H区南東部全体図

(1) 竪穴住居跡

第419号住居跡 (第342図)

位置 調査区の南東部, D14j7区。

重複関係 西壁を第2361号土坑, 第2367号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径3.61m, 短径3.40mの楕円形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は約8~20cmで, 外傾して立ち上がる。

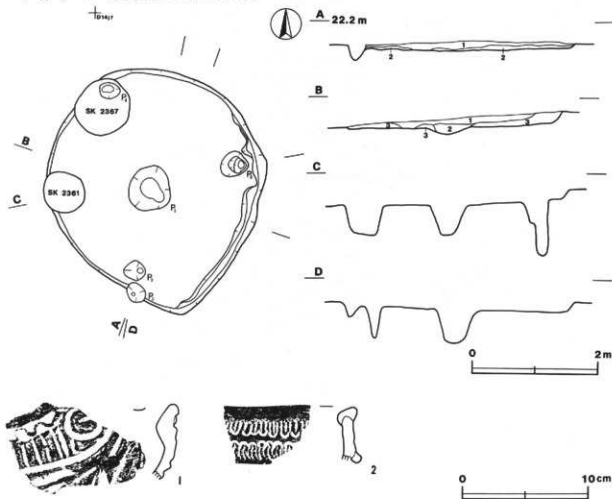
床 平坦である。

ピット 5か所。P<sub>1</sub>は住居跡の中央に位置し, 径70cmの円形で, 深さは53cmである。P<sub>2</sub>は, 径42cmの円形で, 深さは88cmである。P<sub>3</sub>は径33cmの円形で, 深さは52cmである。P<sub>4</sub>は, 長径33cm, 短径26cmの楕円形で, 深さは88cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は長径32cm, 短径26cmの楕円形で, 深さは18cmである。性格は不明である。

覆土 3層に分層される。3層にロームブロックが含まれるが, その堆積状況とみるに壁の崩落及び周囲の土の流れ込みによるものと思われることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム少ブロック少量                  |
| 3 褐色  | ローム粒子多量, ローム大ブロック中量               |



第342図 第419号住居跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片37点、獣骨片が出土している。第342図1は沈線区画内に渦巻文及び縦位の沈線が施され、口縁部直下に交互刺突文が施されている。2は半截竹管による刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉(中鈴式期)と考えられる。

#### 第421号住居跡 (第343図)

位置 調査区の南東部, D14is区。

重複関係 第2373号土坑を掘り込み、北側を第2371号土坑に掘り込まれ、中央北寄り部分の炉を第2369号土坑、第2372号土坑に掘り込まれている。

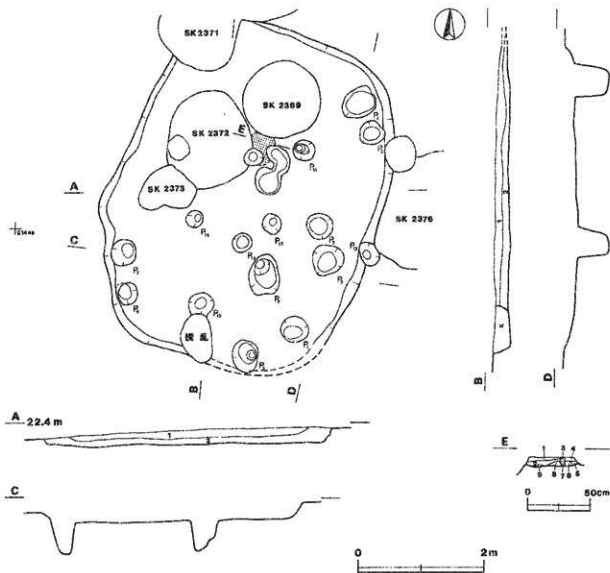
規模と平面形 長軸5.37m, 短軸4.25mの隅丸長方形である。

主軸方向 [N-20°-E]

壁 壁高は16~26cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 15か所。P<sub>1</sub>~P<sub>7</sub>は径35~55cmの円形で、深さは20~60cmである。規模と配列から支柱穴と考えられ



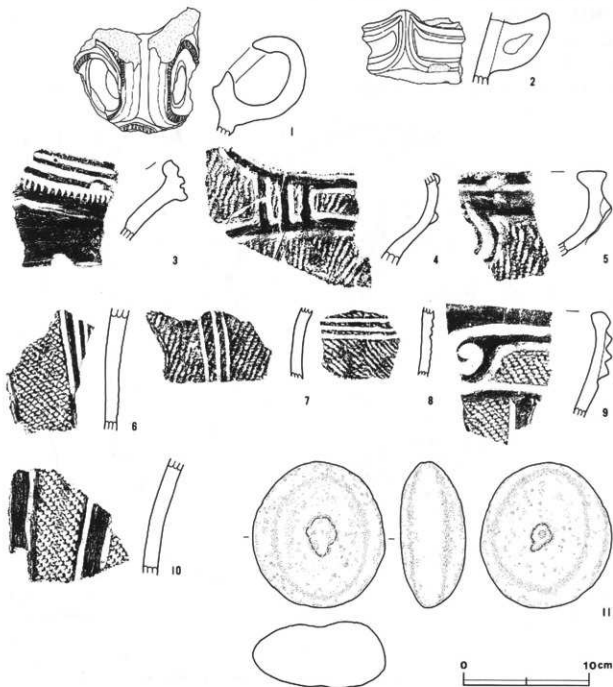
第343図 第421号住居跡実測図

る。Psは長径62cm、短径48cmの楕円形で、深さは50cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉 中央より北側に付設されている。ピット及び土坑に掘り込まれているため、形態は不明である。床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- |      |                           |       |                             |
|------|---------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量       | 7 明褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子微量           |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、焼土粒子少量 | 8 明褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック微量、焼土ブロック少量       | 9 明褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック中量          |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土ブロック微量     |       |                             |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量              |       |                             |
| 6 褐色 | ローム粒子微量                   |       |                             |



第344図 第421号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。各層にロームブロックを含み、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量

遺物 縄文土器片662点、磨石1点、獣骨片が出土している。第344図1、2の深鉢把手及び11の磨石は覆土から出土している。3はキザミが施され、沈線を送らしている。4はR1の単節縄文を地文とし、陸帯により区画文を施している。5は沈線有する陸帯文が施されている。6～8は深鉢の胴部片である。6は複節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。7、8は単節縄文を地文に3本一組の沈線が施されている。9は深鉢の胴部片で、陸帯により区画文及び渦巻文が施され、区画内にLRの単節縄文が施されている。10は深鉢の胴部片で、複節縄文を地文に、幅広い沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ～Ⅱ式期）と考えられる。

第421号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	径/高さ(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第344図1	深鉢 縄文土器	B (10.0)	器縁状把手。孔に沿って陸帯及び沈線が施され、陸帯にはキザミが施されている。	赤粒・石灰・スコリア にふい褐色 普通	P1 5% 覆土 加曾利EⅠ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.5)	器縁状把手。沈線有する陸帯文が施されている。	赤粒・石灰・スコリア 黒褐色 普通	P2 10% 覆土 加曾利EⅠ式

図版番号	器 種	規 寸			石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
第344図11	磨 石	11.6	10.5	5.3	(769 g)	安山岩 Q1 覆土 凹形磨石

第422号住居跡（第345図）

位置 調査区の南東部、D14j区。

重複関係 南側部分を第2364号土坑、第2376号土坑に掘り込まれ、西側部分を第2365号土坑に、東側部分を第2430号土坑、第2432号土坑に、中央部分を第2476号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径(5.11)m、短径(3.90)mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-33'-E

壁 北壁と東壁が残存しており、壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径45cmの円形で、深さは61cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P<sub>2</sub>は径33cmの円形で、深さは93cmである。性格は不明である。

炉 東側に付設されている。焼土が確認されたのみで、東半分を土坑に掘り込まれているため形態は不明である。

覆土 6層に分層される。各層にロームブロックを含み、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

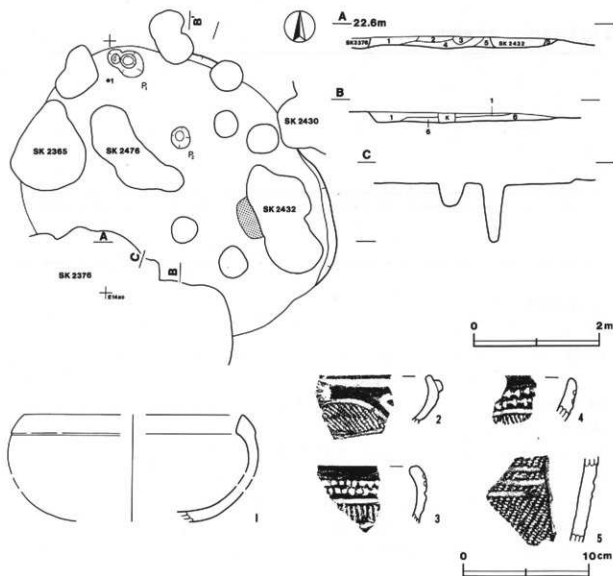
- 1 赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒中量  
2 赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒中量  
3 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土粒子少量  
4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小・大ブロック微量、焼土粒中量  
5 褐色 ローム粒子・焼土粒少量  
6 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片626点が出土している。第345図1の浅鉢は覆土から出土している。2～4は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内にRLの単節縄文が施されている。3, 4は熱糸文を地文とし、刺突文が施されている。5は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を地文に3本単位の沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I～II式期)と考えられる。

### 第422号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 1	鉢 縄文土器	A (17.4) B (8.4)	胴部から口縁部にかけて内彎する。口縁部はわずかに厚みをもつ無文である。赤彩痕。	母粒・長石 にふい焼色 普通	F3 30% 覆土 加曾利E I式



第345図 第422号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡（第346図）

位置 調査区の南東部，D1419区。

重複関係 北壁際部分を第2394号土坑，東側部分を第2393号土坑，西側部分を第2400号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径〔3.65〕m，短径〔3.37〕mの楕円形と推定される。

主軸方向 〔N-44°-W〕

壁 西壁と東壁が残存しており，壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは88cmである。P<sub>2</sub>は長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さは82cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

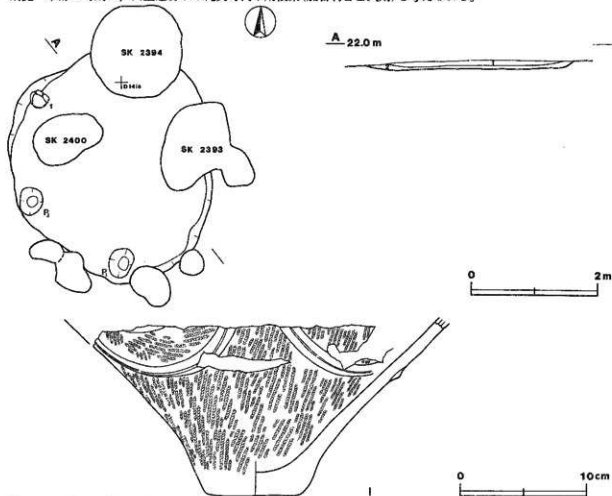
覆土 2層に分層される。削平されているため床面近くの土層の確認だけであるが，堆積状況を見ると自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量，ローム大ブロック少量

遺物 縄文土器片2点が出土している。第346図1の深鉢の底部から胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第346図 第424号住居跡・出土遺物実測図

### 第424号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第346図 1	深鉢 縄文土器	A (14.5) C 8.0	胴部から底割片。底部は小さく、外傾して立ち上がる。胴部にはR1の準部縄文及び斜向三角形の御陵船縄文が施されている。	砂粒・灰石・石灰 赤丹 にふい赤褐色 普通	F4 30% PLS1 覆土 加賀料EⅢ式 普通

### 第425号住居跡 (第347図)

位置 調査区の南東部, D15i3区。

重複関係 西側部分を第2426号土坑に, 東側部分を第2425号土坑に, 南壁部分を第2422号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径4.46m, 短径3.58mの楕円形である。

主軸方向 [N-7°-E]

壁 壁高は30~41cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径40cmの円形で, 深さは48cmである。P<sub>2</sub>は長径66cm, 短径54cmの楕円形で, 深さは96cmである。位置と規模から主柱穴と思われる。

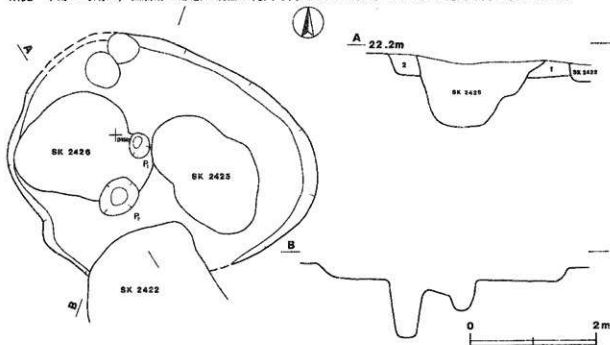
覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片183点が出土している。

所見 本跡の時期は, 住居跡の形態と覆土が縄文時代のものと類似することから縄文時代と考えられる。



第347図 第425号住居跡実測図



第427号住居跡（第348図）

位置 調査区の南東部，D14f9区。

重複関係 第428号住居跡を掘り込んでおり，中央部分を第2457号土坑，第2458号土坑，第2459号土坑に，南側部分を第2517号土坑，第2518号土坑に，西側部分を第2456号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸[5.00]m，短軸[3.44]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-33°-E]

壁 東側部分と西側部分に残存しており，壁高は8～30cmで，外傾して立ち上がる。

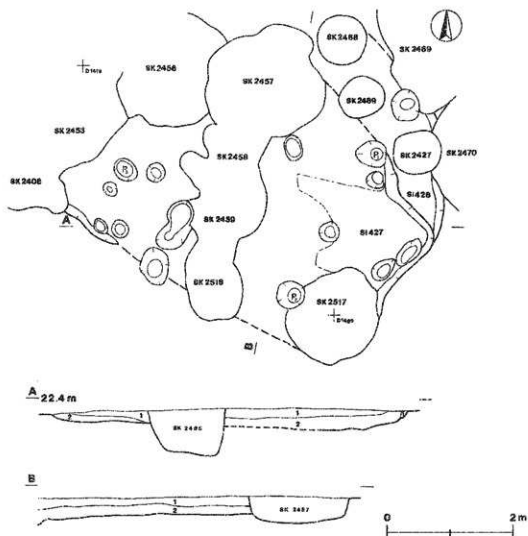
床 ほほ平坦で，全面に硬化面がみられ，特に東壁付近が硬い。

ピット 13か所。P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>は径30～40cmの円形で，深さは40～70cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土 2層に分層される。他の遺構に掘り込まれており，本跡の覆土は一部だけの確認であるが，堆積状況を見ると自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量，炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒中量，ローム中ブロック少量



第348図 第427・428号住居跡実測図

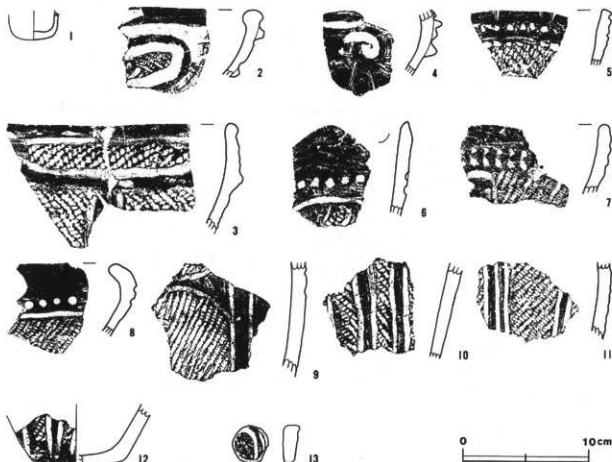
遺物 縄文土器片150点が出土している。第349図1はミニチュア土器の底部片で、覆土から出土している。2～8は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内にR Lの単節縄文が施され、3は沈線区画内に複節縄文が施されている。4は隆帯による渦巻文が施されている。5～8は口縁部に円形刺突文が施され、沈線が施されている。9、11は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文に、磨消懸垂文が施されている。10はL Rの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。12は深鉢の底部片で、R Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。13は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ～Ⅲ式期)と考えられる。

#### 第427号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第349図1	ミニチュア土器 縄文土器	B (2.3) C 2.0	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒 黒褐色 普通	P7 40% PLS1 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第349図13	土器片円盤	3.0	2.8	1.3	(11.0)	95	沈線及び磨消文。	DP2 覆土



第349図 第427号住居跡出土遺物実測図

### 第428号住居跡（第348・350図）

位置 調査区の南東部，D14f0区。

重複関係 第427号住居跡に掘り込まれ，東側部分を第2427号土坑，第2488号土坑，第2489号土坑に掘り込まれている。

壁 東側に一部残存しており，壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床 東壁付近に硬化面がみられる。

覆土 壁側の1層のみの確認で，ローム粒子を多量に含む。堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片1250点，土器片円盤1点，獣骨片が出土している。第350図1の深鉢の頸部片及び2の把手を有する口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文で，補修孔がみられる。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。

#### 第428号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第350図 1	深鉢 縄文土器	B (9.0)	突起をもつ頸部片。突起につながる隆帯により口縁部文様帯が作られている。突起及び隆帯には沈線が施されている。	砂粒・バミス にふい褐色 普通	P5 5% 覆土 加曾利EⅠ式
2	深鉢把手 縄文土器	B (4.6)	三角形の把手を有する口縁部片。片面に円形の穴が開けられ，穴に沿って沈線が施されている。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P6 5% 覆土 加曾利EⅠ式



第350図 第428号住居跡出土遺物実測図

### 第429号住居跡（第351図）

位置 調査区の南東部，D14g0区。

重複関係 北壁際部分を第2428号土坑，第2471号土坑，第2567号土坑に，中央西側部分を第2415号土坑，第2435号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸 [5.35]m，短軸4.42mの隅丸長方形と推定される。

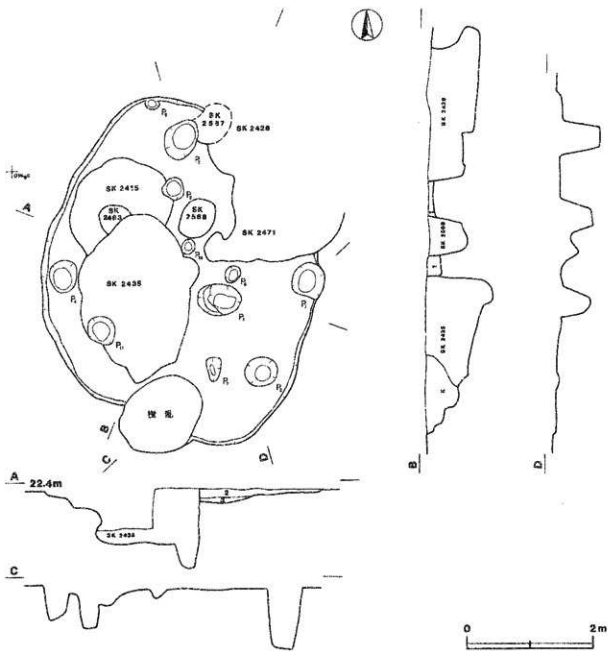
主軸方向 N-17°-E

壁 西壁と東壁が残存しており，壁高は6~10cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 11か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は長径53~70cm，短径44~52cmの楕円形で，深さは53~104cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P<sub>6</sub>~P<sub>8</sub>は長径28~40cm，短径23~35cmの楕円形で，深さは15~60cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土 3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。



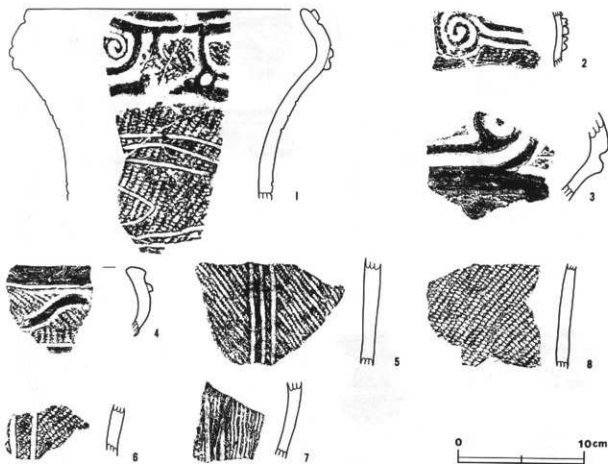
第351図 第429号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量, ローム大ブロック少量

遺物 縄文土器片716点, 獣骨片が出土している。第352図1は深鉢の口縁部から胴部の破片で, 覆土から出土している。2~4は深鉢の口縁部片で, 2, 3は隆帯により区画文及び渦巻文が施されている。4はRLの単節縄文を地文に隆帯が波状に貼り付けられている。5~8は深鉢の胴部片で, 5, 6は単節縄文を地文に沈線を垂下させている。7は条線文を地文に幅広の沈線を垂下させている。8の縄文はRLの単節縄文である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅠ式期)と考えられる。



第352図 第429号住居跡出土遺物実測図

第429号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第352図 1	深鉢 縄文土器	A (21.0) B (10.2)	口縁部から胴部の破片。キャリバー形の器形で、R1の華節縄文を底文に、縹帯と沈線による渦巻文と区画文が施された口縁部文縹帯をもつ。胴部には傾位あるいは斜位に浅い比羅が施されている。	砂粒・石英・雲母 赤色粒子 にぶい橙色 良好	F168 10% PLS1 覆土 加曽利EⅠ式

第430号住居跡 (第353図)

位置 調査区の南東部, D15g1区。

重複関係 第432号住居跡及び第2474号土坑, 第2481号土坑, 第2504号土坑, 第2505号土坑の覆土に二つの炉及びピットが確認されたことから, 重複する遺構より新しい。

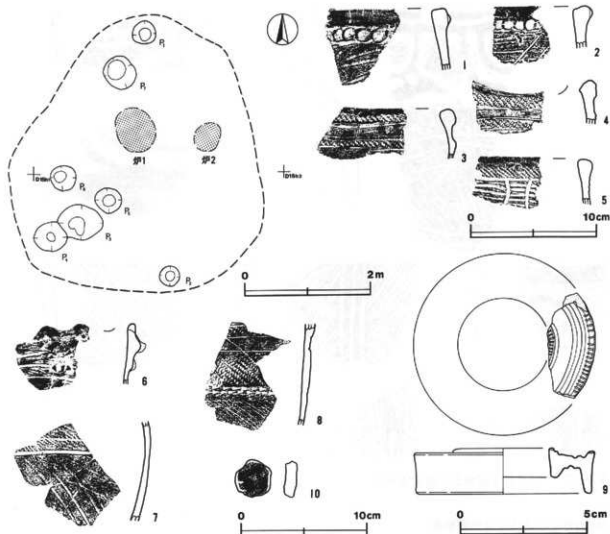
規模と平面形 長径〔4.30〕m, 短径〔4.05〕mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-26'-W

床 はほぼ平坦で, 硬化面は確認できない。

ピット 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は径33~73cmの円形で, 深さは40~73cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P<sub>6</sub>, P<sub>7</sub>は径43~50cmの円形で, 深さは44~46cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。

炉 2か所確認されている。炉1は中央より北側に付設されている。長径72cm, 短径60cmの楕円形である。炉床は赤変している。炉2は中央より東側に付設されている。長径48cm, 短径41cmの楕円形で, 炉床は, 炉1と同じく赤変している。



第353図 第430号住居跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片109点、土製耳飾り1点、土器片円盤1点が出土している。第353図9の土製耳飾り、10の土器片円盤は覆土から出土している。1～6は深鉢の口縁部片である。1、2は棒状工具による押圧が付された紐線文が施されている。胴部には斜行する条線文が施されている。3～5はRLの単節縄文が充填された隆起手法による帯縄文が施され、6はコブ状突起のつく隆起手法による帯縄文が施されている。7、8は深鉢の胴部片で、7は沈線手法の帯縄文をもち、以下に斜行する条線文が施されている。8はRLの単節縄文が充填された隆起手法による薄い帯縄文が施され、胴部の帯縄文と条線文を押し引き刺突文で区画している。

所見 本跡は、第432号住居跡の上面で確認されたため、土層及び壁の立ち上がりは確認できなかったが、炉及びピットから住居跡の規模を推定したものである。出土土器は加曾利E式期と安行1・2式期のものが多くみられるが、重複する遺構の新旧関係と出土遺物から判断すると、時期は縄文時代後期後葉(安行2式期)と考えられる。

第430号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第353図 9	土製耳飾り	(4.2)	—	1.8	(9.0)	95	十字状の断面形を呈し、キザミを有する。	DP3 覆土
10	土器片円盤	3.0	2.9	0.9	(8.3)	95	無文。	DP4 覆土

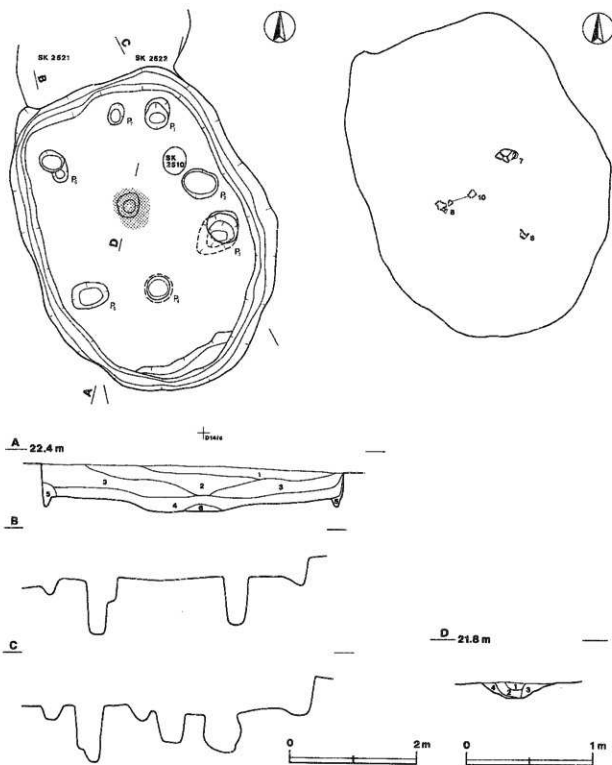
第431号住居跡 (第354図)

位置 調査区の南東部, D14 e9 区。

重複関係 北側部分を第2521号土坑, 第2522号土坑に掘り込まれている。第2524号土坑覆土土面を貼床にしている。

規模と平面形 長径5.09m, 短径3.72mの楕円形である。

主軸方向 N-23°-W



第354図 第431号住居跡実測図

壁 壁高は34～55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝が全周している。

床 ほぼ平坦である。

ピット 7か所。P<sub>1</sub>、P<sub>3</sub>～P<sub>6</sub>は長径38～56cm、短径36～48cmの楕円形で、深さは55～93cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P<sub>2</sub>、P<sub>7</sub>の性格は不明である。

炉 中央に付設されている。長径69cm、短径58cmの楕円形で、床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- |       |            |        |           |
|-------|------------|--------|-----------|
| 1 黄褐色 | ローム大ブロック多量 | 3 明赤褐色 | 焼土小ブロック少量 |
| 2 橙褐色 | 焼土中ブロック中量  | 4 橙褐色  | 焼土粒少量     |

覆土 6層に分層される。自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                    |        |                    |
|-------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量            | 4 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量、炭化物少量      | 5 暗褐色  | ローム粒子中量            |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量             |

遺物 縄文土器片523点及び土器片鍾1点が出土している。第355図1の深鉢、2～4の深鉢の口縁部片、5の把手、6の深鉢の胴部から口縁部片、7～10の深鉢の底部から胴部の破片、17の土器片鍾は覆土から出土している。11～13は深鉢の口縁部の破片で、隆帯で渦巻文を施し、区画内にはR Lの単節縄文あるいは円形刺突文が施されている。14～16は深鉢の胴部片で、14は複節縄文を地文に沈線が施され、15はL Rの単節縄文を地文に、3本単位の沈線を垂下させている。16はR Lの単節縄文を地文に波状の沈線を垂下させている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

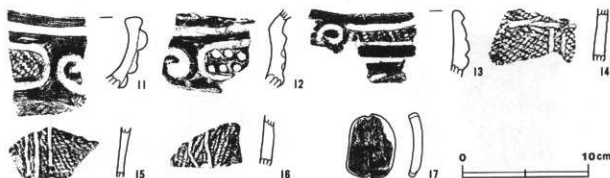
### 第431号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第355図 1	深鉢 縄文土器	A 15.4 B 20.2 C 7.0	胴部は外縁して立ち上がり、口縁部は内彎する。地文はL Rの単節縄文で口縁部は無文である。	赤粒 にぶい暗 普通	P 8 70% PL51 覆土 加曾利E I式
2	深鉢 縄文土器	A [25.0] B (10.0)	口縁部片、口縁部は突起をもつ。わずかに内彎する。口縁部部の沈線が突起につながり渦巻文を施している。口縁部は、隆帯による半月状あるいは円形の区画内にはL Lの単節縄文が施されている。	赤粒 暗褐色 普通	P 9 5% 覆土 加曾利E I式
3	深鉢 縄文土器	B (6.8)	口縁部片。上方に突出する突起をもつ。口縁部には隆帯による渦巻文及び区画文が施され、区画内にはL Lの単節縄文が施されている。	赤粒・長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P10 5% 覆土 加曾利E I式
4	深鉢 縄文土器	A [16.0] B (5.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線と隆帯で区画文及び渦巻文が施され、区画内にはL Lの単節縄文が施されている。胴部には横位の沈線が施されている。	赤粒 暗褐色 普通	P11 5% PL51 覆土 加曾利E I式
5	深鉢把手 縄文土器	B (10.9)	環溝状把手を有する口縁部片。孔に沿って、沈線及びネギミが施されている。口縁部は沈線を有する隆帯によって区画され、区画内には横位の沈線が施されている。	赤粒・雲母・ハミス にぶい暗褐色 普通	P12 5% 覆土 加曾利E I式
6	深鉢 縄文土器	A [21.6] B (18.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外反して立ち上がる。地文はL Lの単節縄文で口縁部に厚みのある隆帯が貼り付けられている。	赤粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P13 25% PL51 覆土 加曾利E I式
7	深鉢 縄文土器	B (27.8) C 10.0	底部から胴部の破片。胴部中位にはL Rの単節縄文を地文に、2本単位の沈線を垂下させている。	赤粒 にぶい黄褐色 普通	P15 20% PL51 覆土 加曾利E I式
8	深鉢 縄文土器	B (10.1) C 7.8	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。単節縄文が施されている。	赤粒・石英 にぶい暗褐色 普通	P16 20% PL51 覆土 加曾利E I式





第355图 第431号住居跡出土遺物実測図(1)



第356図 第431号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 9	深鉢 縄文土器	B (13.0) C 6.0	底部から胴部の破片。胴部は内彎して立ち上がる。R Lの単筋縄文を地文に、沈線による垂線文及び斜手文が施されている。	砂粒・スコリアに多い赤褐色普通	F17 30% PL51 覆土 加曾利E I式
10	深鉢 縄文土器	B (10.1) C [ 6.3]	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はR Lの単筋縄文である。	砂粒に多い褐色普通	F18 10% PL51 覆土 加曾利E I式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第356図17	土器片断	5.1	3.7	0.7	(24.0)	95	無文。	DP5 覆土

### 第432号住居跡 (第357図)

位置 調査区の南東部, D15g1 区。

重複関係 西壁際部分を第2474号土坑に, 東側部分を第2449号土坑, 第2479号土坑, 第2487号土坑に, 南側部分を第2481号土坑, 第2504号土坑に, 中央部分を第2505号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.19m, 短軸(3.55)mで, 隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は長径64cm, 短径50cmの楕円形で, 深さは51cmである。P<sub>2</sub>は長径32cm, 短径23cmの楕円形で, 深さは34cmである。性格は不明である。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

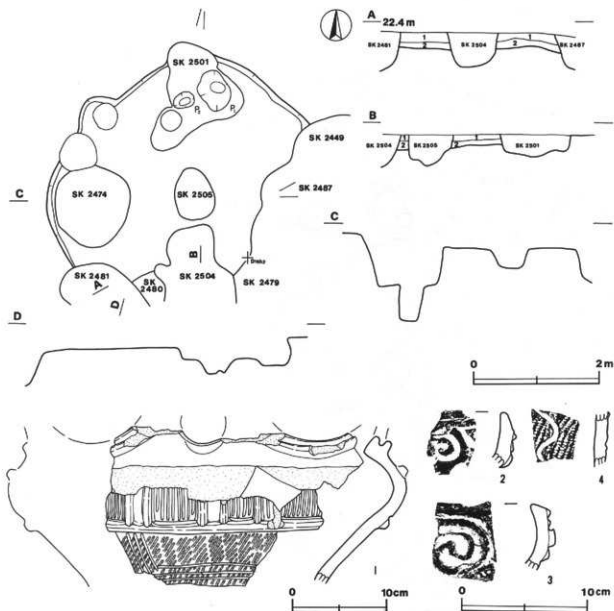
- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量

遺物 縄文土器片259点, 獣骨片が出土している。第357図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。2, 3は深鉢の口縁部片で, 隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

### 第432号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	深鉢 縄文土器	A [36.0] B (16.9)	胴部から口縁部の破片。波状口縁で口縁部は内彎する。口縁部に厚い隆帯が貼り付けられ, 隆帯に沈線が施されている。口縁部は隆帯により区画され, 区画内に縦位の沈線が施されている。胴部にはR Lの単筋縄文を地文に, 浅い沈線でクランク文が施されている。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 普通	P19 10% PL52 覆土 加曾利E I式



第357図 第432号住居跡・出土遺物実測図

### 第433号住居跡 (第358～360図)

位置 調査区の南東部, D14d0区。

重複関係 東側部分を第2494号土坑, 第2511号土坑に掘り込まれ, 南側部分を第2503号土坑に掘り込まれている。さらに, 北側部分で第435号住居跡, 第436号住居跡と重複しており, 本跡が新しい。

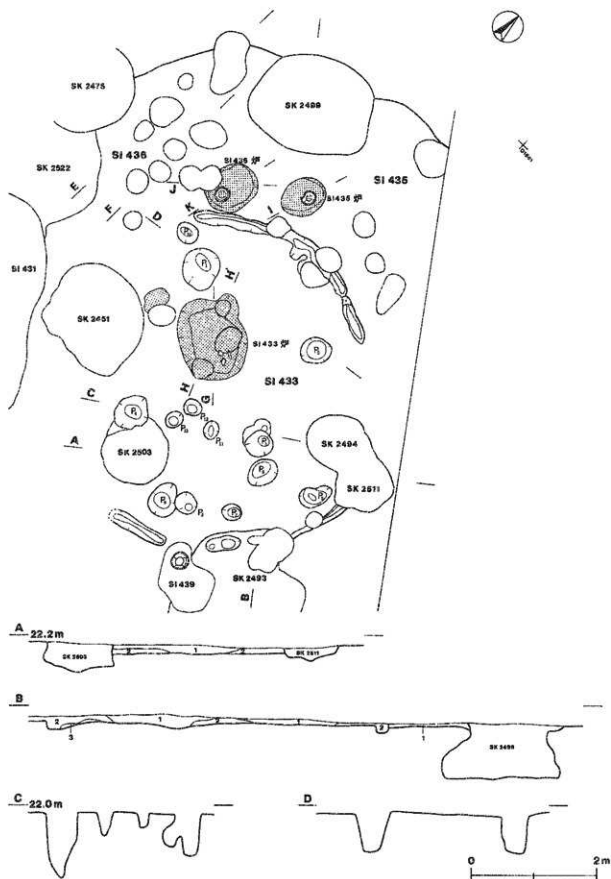
規模と平面形 長径(5.10)mで, 楕円形と推定される。

主軸方向 N-60°-W

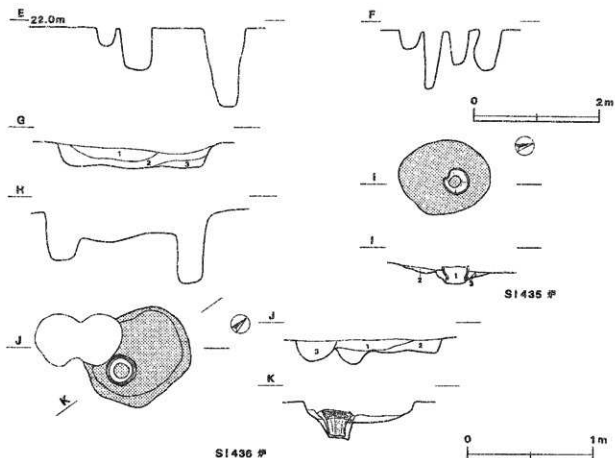
床 はほぼ平坦で, 全面に硬化面がみられる。壁溝が北側部分と南側部分に残存している。

ピット 13か所。P<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>は径30～40cmの円形で, 深さは40～70cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉 中央より北西側に付設されている。長径133cm, 短径105cmの楕円形で, 床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。



第358图 第433·435·436号住居跡实测图(1)



第359図 第433・435・436号住居跡実測図(2)

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・焼土ブロック多量

覆土 3層に分層される。下層部のみの確認であるが、その堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

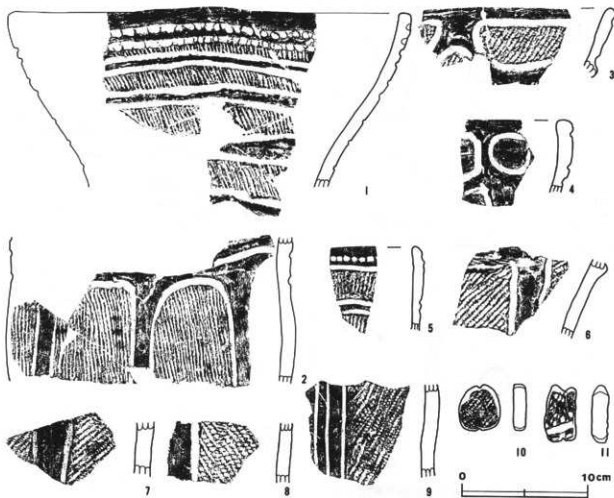
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量

遺物 縄文土器片326点が出土している。第360図1の深鉢の胴部から口縁部片, 2の深鉢の胴部片及びP10, 11の土器片は覆土から出している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は沈鉢区画内にR Lの単節縄文が施され, 4は隆帯により区画され, 区画内は無文である。5は熱赤文を地文に円形刺突文及び沈線の横位に施されている。6～9は深鉢の胴部片である。6, 7はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の幅広の磨消懸垂文が施されている。8はR Lの単節縄文を地文に太い沈線の磨消懸垂文が施されている。9はR Lの単節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第433号住居跡出土遺物観察表

図表番号	器種	寸法(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 1	深鉢 縄文土器	A (30.4) B (13.9)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し, 口縁部はわずかに内彎する。口縁部には2本の沈線が施され, 沈線内に円形刺突文が施されている。胴部は熱赤文を地文に, 横位に施された沈線間を施り持っている。	砂粒 に多い褐色 普通	P.20 10% P.L.32 覆土 加曾利EⅢ～Ⅳ式



第360図 第433号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 2	深鉢 縄文土器	B (11.5)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。黒点文を地文に沈線により丁字状文が施され、沈線間を帯り滑している。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P21 15% P.LS2 覆土 加藤利EⅡ-Ⅱ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第360図10	土器片鉢	3.6	3.3	1.0	(19.0)	95	黒点文。	DP6 覆土
11	土器片鉢	4.6	2.5	1.3	(19.0)	95	沈線及び半鉛縄文R.L.	DP7 覆土

### 第435号住居跡 (第358・359・361図)

位置 調査区の南東部, D14c0区。

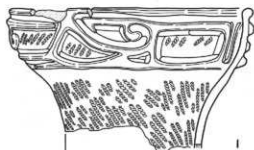
重複関係 北西部を第2499号土坑に掘り込まれ, 第433号住居跡, 第436号住居跡と重複している。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが, 第433号住居跡より古い。

規模と平面形 炉及び床面だけの確認のため, 不明である。

主軸方向 [N-20°-E]

床 はほぼ平坦で, 炉の周囲に硬化面がみられる。

炉 長径72cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を11cmほど掘りくぼめ, 深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は亦硬化している。



第361図 第435号住居跡出土遺物実測図

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量  
2 暗赤褐色 焼土粒子中量  
3 暗赤褐色 焼土粒子少量

覆土 1層。下層部のみ確認であるため、その堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量

遺物 縄文土器片75点が出土している。第361図1の胴部下半を欠失した加曾利EⅠ期の深鉢は、炉に埋設されて出土した。2, 3は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内に燃余文が施されて、3は隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片で、複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅠ期)である。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが、炉体土器の文様構成をみると、本跡の炉体土器は第436号住居跡のものより古いと考えられる。

第435号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第361図 1	深鉢 縄文土器	A 18.6 B (11.3)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で、隆帯と沈線による区画文及び渦巻文が施された口縁部文様帯をもつ。口縁部及び胴部の地文はRⅠの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P22 50% PLS2 伊埋設土器 加曾利EⅠ式

第436号住居跡 (第358・362図)

位置 調査区の南東部, D14c0区。

重複関係 北側部分を第2499号土坑に掘り込まれ、第433号住居跡、第435号住居跡と重複している。第435号住居跡との新旧関係は不明であるが、第433号住居跡より古い。

規模と平面形 炉及び床面だけの確認のため、不明である。

主軸方向 [N-0°]

床 はほぼ平坦で、炉の周囲に硬化面がみられる。

炉 長径86cm, 短径68cmの楕円形で、床面を20cmほど掘りくぼめ、深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は亦硬化している。

伊土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量  
2 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化物少量、焼土粒子中量  
3 暗赤褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、焼土粒子少量

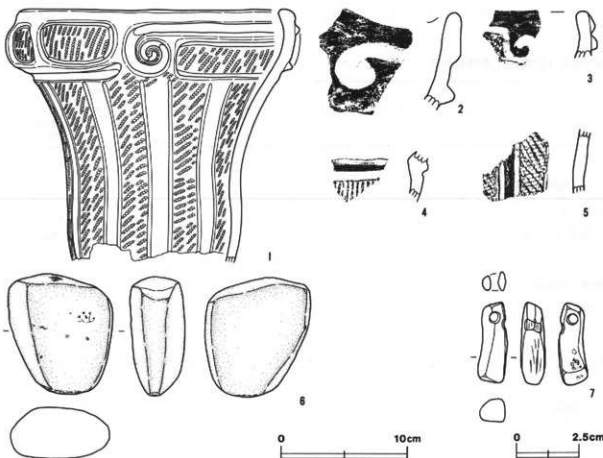
遺物 縄文土器片111点、敲石1点及び石製垂飾り1点が出土している。第362図1の胴部下半を欠失した加曾利EⅡ式期の深鉢は、口縁部まで埋設された状態で炉内から出土している。口縁部から胴部にかけて火熱によると考えられる赤化がみられる。炉体土器と掘り方の間から、石棒片がはさまった状態で出土している。6の敲石及び7の垂飾りは覆土から出土している。2、3は深鉢の口縁部片で、隆帯により渦巻文を施している。4、5は深鉢の胴部片で、4は熱糸文を地文に沈線が施されている。5はLRの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。第435号住居跡との新旧関係は遺構の構築状況からは不明であるが、炉体土器はいずれも加曾利EⅡ式期に属し、口縁部の区画及び文様構成をみると、本跡の炉体土器は加曾利EⅡ式期の新しい段階のものと考えられる。

#### 第436号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・地成	備考
第362図 1	深鉢 縄文土器	A 20.9 B (20.1)	胴部から口縁部。キャリパー形の器形で、隆帯による区画文、渦巻文及び栴形文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内にはLRの単節縄文が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に、2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	F23 70% PL52 伊福段土器 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第362図6	敲石	9.6	8.4	4.4	(495.0)	安山岩	Q2 覆土
7	石製垂飾り	3.3	1.1	0.9	(5.35)	ヒスイ	Q3 覆土



第362図 第436号住居跡出土遺物実測図



第437号住居跡 (第363図)

位置 調査区の南東部, D14c9区。

重複関係 東側部分を第438号住居跡に掘り込まれ, 北壁部分を第2508号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

主軸方向 [N-77°-W]

壁 壁高は16cmで, 外傾して立ち上がる。

床 壁から中央に向かってわずかに傾斜している。

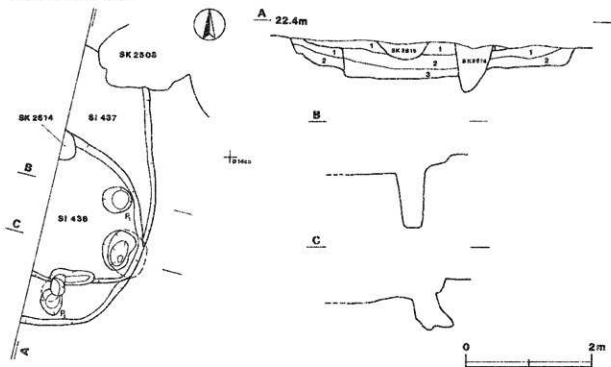
ピット 1か所。P<sub>1</sub>は径40cmの円形で, 位置から支柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

所見 本跡の時期は, 縄文時代中期前葉(阿玉台式期)の遺構に掘り込まれていること及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。



第363図 第437・438号住居跡実測図

第438号住居跡 (第363図)

位置 調査区の南東部, D14c9区。

重複関係 第437号住居跡の東側部分を床下まで掘り込み, 覆土上層を第2615号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

主軸方向 [N-12°-E]

壁 壁高は22cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は径45cmの円形で, 深さは92cmである。性格は不明である。

覆土 3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量

遺物 縄文土器片34点が出土している。第364図1は波状口縁を呈する口縁部片の突起、2・3は深鉢の口縁部片で、覆土から出土している。4は隆帯に沿って連続刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第438号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第364図 1	深鉢突起 縄文土器	B (8.2)	波状口縁の頂部に付けられた三角形の突起。口縁部はわずかに内彎する。口縁基部から突起頂部に断面三角形の隆帯が続き、頂部から断面三角形の隆帯が垂下している。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P24 5% 覆土 阿玉台Ⅱ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部を区画した断面三角形の厚い隆帯上にキザミが施されている。区画する隆帯に沿って半截竹管による放射状刺突文が施され、区画内には山形沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰青褐色 普通	P25 5% 覆土 阿玉台Ⅱ式
3	深鉢把手 縄文土器	B (9.0)	口縁端部から続く幅広の隆帯が三角形の突起の頂部で交わり、把手の片面に沈線が施されている。	砂粒 灰青褐色 普通	P26 5% 覆土 阿玉台Ⅱ式



第364図 第438号住居跡出土遺物実測図

第439号住居跡（第365図）

位置 調査区の南東部、D15e1区。

重複関係 第433号住居跡及び第2493号土坑の上面で土器埋設炉のみが確認された。

主軸方向 [N-58°-W]

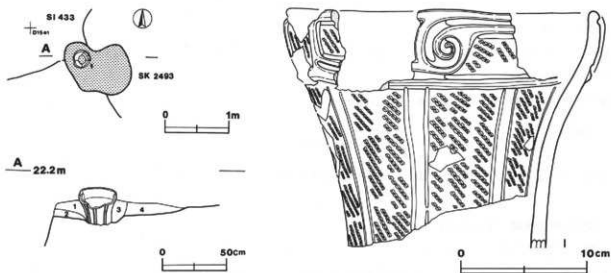
炉 長径114cm、短径87cmの楕円形で、深鉢を口縁部まで埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

炉土層解説

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子少量  |

遺物 縄文土器片46点が出土している。第365図1の深鉢は炉埋設土器で、胴部下半が欠失している。胴部から口縁部にかけて火熱による赤化がみられる。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。



第365図 第439号住居跡・出土遺物実測図

第439号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	深鉢 縄文土器	A 24.0 B (19.0)	口縁部の一部及び胴下半部欠損。キャリバー形の器形で、隆帯と沈線による溝巻文及び区画文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内には種別縄文が施されている。口縁部と胴部は隆帯で区画され、胴部には種別縄文を地文に、2本沈線の巻消型巻文が施されている。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	F27 50% P L52 伊豫段土器 加賀利EⅡ式

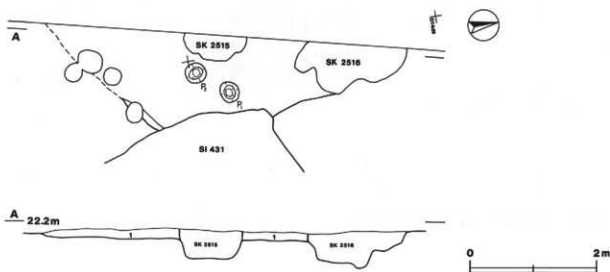
第440号住居跡 (第366図)

位置 調査区の南東部, D14d9区。

重複関係 東側部分を第431号住居跡に掘り込まれ、北側部分を第2516号土坑に、中央部分を第2515号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

壁 壁高は5cmで、外傾して立ち上がる。



第366図 第440号住居跡実測図

床 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径34cmの円形で、深さは51cmである。P<sub>2</sub>は径32cmの円形で、深さは42cmである。

性格は不明である。

覆土 1層。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量

所見 本跡は出土遺物が無いが、確認した層位及び遺構の形態から縄文時代と考えられる。

第452号住居跡（第367図）

位置 調査区の南東部，D14g9区。

重複関係 炉のみの確認で、炉の西半分を第2420号土坑に、北側を第2517号土坑に、南側を第2401号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向 [N-44°-W]

床 平坦で、炉の周囲は硬く踏み固められている。

炉 長径68cm，短径57cmの楕円形と推定され、深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

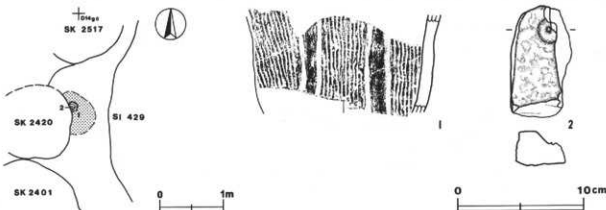
遺物 第367図1の深鉢は炉埋設土器で、胴部が埋設され、その中から2の凹石が出土している。

所見 本跡の時期は、炉埋設土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。

第452号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 1	深鉢 縄文土器	B (7.7)	胴部片。胴部はわずかに外反する。赤赤文を地文に、2本沈線の帯渦形垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P28 15% PL52 炉埋設土器 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値				材質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第367図2	凹石	(8.9)	(4.9)	2.8	(186.0)	雲母片岩	Q4 埋設土器内 覆土



第367図 第452号住居跡・出土遺物実測図

### 第478号住居跡（第368図）

位置 調査区の東部，D14c7区。

重複関係 西側部分を第2868号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径〔3.48〕m，短径〔3.16〕mの楕円形と推定される。

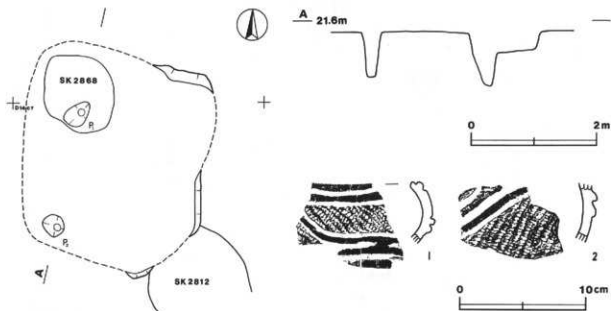
長径方向 [N-16°-E]

床 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は長径45cm，短径32cmの楕円形で，深さは74cmである。P<sub>2</sub>は径35cmの楕円形で，深さは76cmである。位置と規模から主柱穴と考えられる。

遺物 縄文土器片134点が出土している。第368図1，2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による区画内にR Lの単節縄文が施されている。2はR Lの単節縄文を地文に隆帯が斜位に貼り付けられている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第368図 第478号住居跡・出土遺物実測図

### 第499号住居跡（第369図）

位置 調査区の中央部，C13g0区。

重複関係 南壁際を第2923号土坑，第2924号土坑に，西側部分を第2929号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向 [N-2°-E]

ピット 6か所。P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>は径32～42cmの円形で，深さは34～114cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉 中央より北西寄りに付設されている。長径62cm，短径58cmの楕円形で，床面を31cmほど掘りくぼめ，炉内の西側に深鉢の胴部が埋設された土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

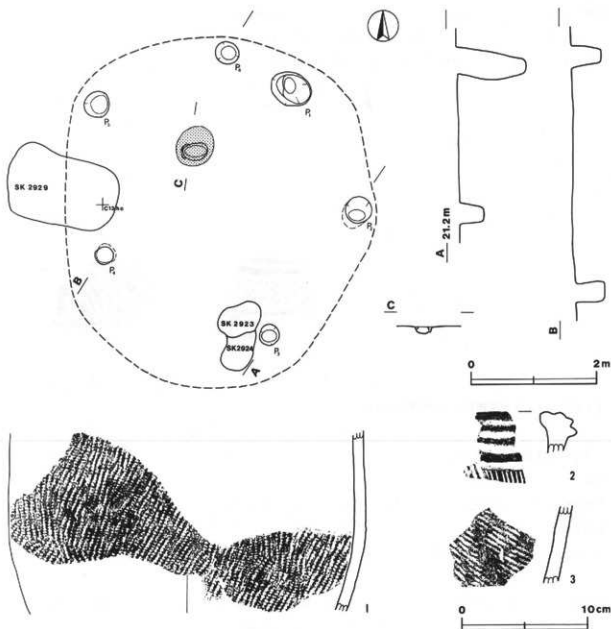
1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量

遺物 縄文土器片10点が出土している。第369図1の深鉢の胴部片は覆土中から出土している。2は深鉢の口縁部片で，区画内に斜位の沈線が施されている。3は深鉢の胴部片で，無節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体上部から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)である。本跡は、谷津に向かって緩やかに傾斜する斜面に確認され、覆土及び床の確認はできなかった。

### 第499号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第369図 1	深鉢 縄文土器	口 14.4	胴部片。胴部はわずかに内彎する。地文はRLの単節織文である。	赤粒・黒母・スコリア 褐色色 普通	F29 SN FL52 覆土 加曾利E I式



第369図 第499号住居跡・出土遺物実測図

第500号住居跡 (第370図)

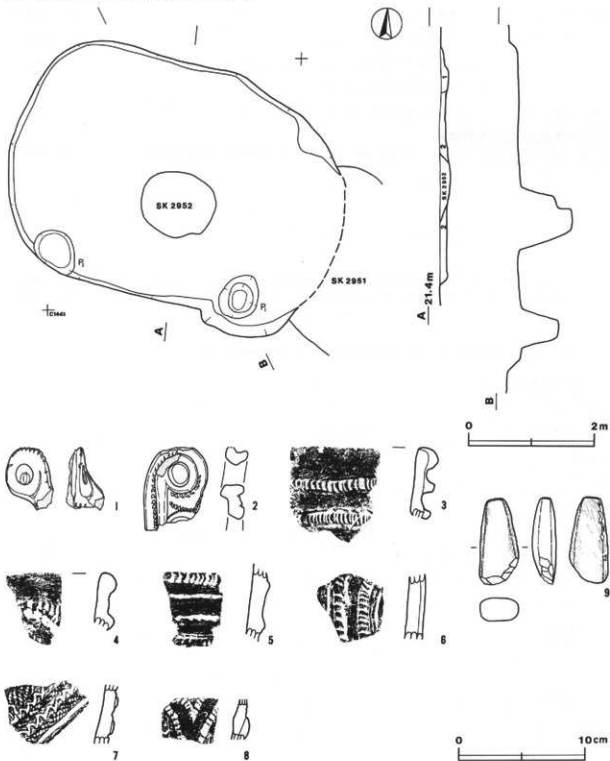
位置 調査区の中央部, C14 c3 区。

重複関係 中央部分を第2952号土坑に掘り込まれ, 東側で第2951号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径5.47m, 短径3.83mの楕円形である。

主軸方向 [N-71°-W]

壁 壁高は12~22cmで, 外傾して立ち上がる。



第370図 第500号住居跡・出土遺物実測図

床 はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径77cmの円形で、深さは50cmである。P<sub>2</sub>は径65cmの円形で、深さは27cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 縄文土器片143点及び磨製石斧1点が出土している。第370図1、2の深鉢把手片及び9の磨製石斧は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片で、隆帯に沿って爪形文が施されている。6～8は深鉢の胴部片で、6は隆帯に沿って、結節沈線文が施されている。7は単筋縄文を地文とし、隆帯に沿って山形沈線文が施されている。8は隆帯に沿って結節沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前半（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第500号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色澤・焼成	備 考
第370図1	深鉢 縄文土器	B (5.1)	粘土粒を同巻状に貼り、中間部分を粘土で埋めている。隆帯にキザレが施されている。	赤褐色・スクリアに多い褐色 普通	P30 3% 覆土 阿玉台Ⅲ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.8)	孔を縦り垂いて隆帯が十字状に貼り付けられ、隆帯に沿ってパン先状工具により刻文が施されている。	赤褐色・長石・雲母 褐色 普通	F31 5% 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第370図2	磨製石斧	(6.9)	3.2	1.9	(50.0)	安山岩	Q6 覆土

第501号住居跡（第371図）

位置 調査区の中央部、C13e7区。

規模と平面形 長径6.80m、短径4.45mの楕円形である。

主軸方向 [N-2°-E]

壁 壁高は8～10cmで、壁溝が全周し、北東部分と北西部分の壁溝は2条となる。

床 平坦である。

ピット 19か所。P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>は径37～77cmの円形で、深さは56～87cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

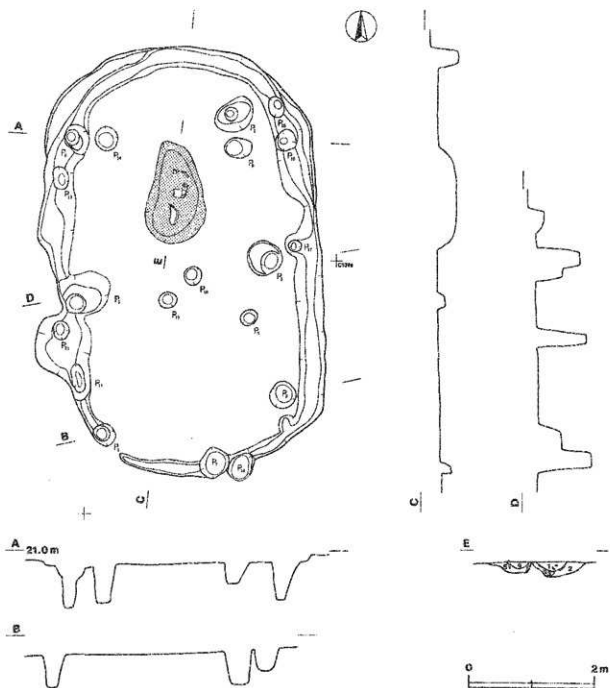
炉 長径80cm、短径44cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめ、深鉢を埋設した土器片囲い炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 縄文土器片121点が出土している。第372図1の深鉢の胴部から口縁部付近の破片は炉に埋設された状態で出土し、2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。



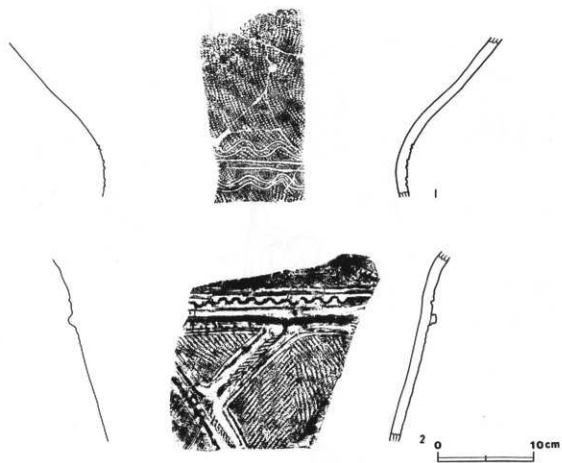


第371図 第501号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、埋設土器から縄文時代中期中葉(中峙式期)である。2条の横溝及び柱穴の配置から、建て替えの可能性が考えられる。

第501号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第372図 1	流鉢 縄文土器	B (17.0)	胴部から口縁部付近の破片。胴部はくびれる。地文はR.Lの単節縄文で、口縁部と胴部は、2本単位の波状沈線及び横位の沈線により区画されている。	砂粒・スコリアに多い褐色普通	F32 5% P.L52 伊達段土器 中峙式
2	深鉢 縄文土器	B (20.2)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。胴部上段には交互斜線文が施され、以下はR.Lの単節縄文を地文に、前面ウマゴロ状の隆帯が隔られ、三角状の区画を作っている。胴部には縄文が施され、底辺に沿って半截竹管による2本単位の波い沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母高褐色普通	F33 15% P.L52 屋上 中峙式併存



第372图 第501号住居跡出土遺物実測図

表9 前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覽表

住居跡 番号	方位	主要 方内	平面形	規模(m) (長×短)	埋高 (cm)	築造	内 部 施 設			IP	礎土	出土遺物	特 異 所	備 考 (埋 藏 期 係)	
							竪溝	土間	出入						
419	D14-7	N-9°-W	楕円形	3.6 × 3.0	8~20	平掘	--	4	1	--	--	自然	漆鉢	中神式前期	SK-2361, 2367(2ヶ所)
421	D14-6	N-20°-E	角丸正方形	5.5 × 4.25	16~26	平掘	--	7	8	--	1	人為	漆鉢、磨石	加曾利E1-8式期	SK-2371, 2369, 2312(2ヶ所)
422	D14-6	N-32°-E	(楕円形)	3.11 × 3.8	16	平掘	--	2	--	--	1	人為	鉢、漆鉢、鏝	加曾利E1-8式期	SK-2384, 2358, 2363, 2430, 2432, 2078(2ヶ所)
424	D14-6	S-44°-W	(楕円形)	3.6 × 3.35	12	平掘	--	2	--	--	--	自然	漆鉢	加曾利E非式期	SK-2394, 2393, 2400(2ヶ所)
425	D15-4	N-7°-E	楕円形	4.4 × 3.38	30~41	平掘	--	2	--	--	--	自然	漆鉢	不明	SK-2426, 2425, 2422(2ヶ所)
427	D14-6	S-32°-E	隅丸長方形	5.0 × 3.44	8~30	平掘	--	3	10	--	--	自然	陶鉢	加曾利E1-8式期	S-48(1ヶ所), S-303, 268, 269, 251, 266(1ヶ所)
428	D14-6				20	平掘	--	--	--	--	--	不明	跡(土・7.土器片)	加曾利E1式期	SI-427 SK-2427, 2428, 2429
429	D14-6	S-17°-E	隅丸長方形	3.35 × 4.42	6~10	平掘	--	5	8	--	--	自然	漆鉢	加曾利E1式期	SK-2428, 2471, 2567, 2491, 2415, 2426
430	D15-4	N-26°-W	楕円形	4.36 × 4.85	--	平掘	--	5	2	--	2	--	漆鉢、土器片	安行2式期	SI-432 SK-2474, 2481, 2504, 2506
431	D14-6	S-22°-W	楕円形	4.00 × 3.71	34~53	平掘	--	7	--	--	1	人為	漆鉢、土器片	加曾利E1式期	SK-2521, 2522
432	D15-4	N-34°-E	隅丸長方形	4.9 × 4.55	25	平掘	--	2	--	--	--	自然	漆鉢	加曾利E1式期	SK-2471, 2449, 2476, 2487, 2483, 2504, 2505
433	D14-6	N-90°-W	(楕円形)	3.25 ×	--	平掘	--	1	9	--	1	人為	漆鉢、土器片	加曾利E非式期	SI-435, 436 SK-2494, 2511, 2503
434	D14-6	S-32°-E			--	平掘	--	--	--	--	1	不明	漆鉢	加曾利E1式期	伊摩波 S1-433, 436 SK-2499
436	D14-6	N-0°			--	平掘	--	--	--	--	1	自然	漆鉢、碇石、磨石	加曾利E非式期	伊摩波 SI-433, 435 SK-2499
437	D14-6	S-77°-W	(楕円形)	4.38 × 3.46	16	暴削	--	1	--	--	--	自然	阿字台式期以前	SI-438 SK-2505	
438	D14-6	N-12°-E	(楕円形)	× 4.20	22	平掘	--	1	--	--	--	不明	漆鉢	阿字台E-8式期	SI-437 SK-2615
439	D15-4	S-56°-W			--	--	--	--	--	--	1	自然	漆鉢	加曾利E2式期	伊摩波 SI-433 SK-2493
440	D14-6		(楕円形)	5.3 ×	5	平掘	--	2	--	--	1	不明	不明	不明	SI-431 SK-2516, 2518
452	D14-6	N-44°-W			--	平掘	--	--	--	--	--	不明	漆鉢、碇石	加曾利E非式期	伊摩波 SK-2420
476	D14-7	N-16°-E	(楕円形)	3.9 × 3.35	--	平掘	--	2	--	--	1	不明	漆鉢	加曾利E1式期	SK-2666
499	C13-4	N-2°-E	楕円形	3.50 × 3.06	--	--	--	6	--	--	1	自然	漆鉢	加曾利E1式期	
500	C14-3	S-51°-W	楕円形	5.0 × 3.85	12~22	平掘	--	2	--	--	--	自然	漆鉢、磨石	阿字台式期	SK-2652
501	C13-7	S-2°-E	楕円形	5.8 × 4.45	6~10	平掘	全周	6	10	--	--	自然	漆鉢	中神式期	伊摩波

## (2) 土坑墓

### 第2463号土坑 (第373図)

位置 調査区の南東部, D14g0区。

重複関係 第2415号土坑, 第2435号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径 [1.66] m, 短径 [0.52] mの長楕円形と推定され, 深さは41cmである。

長径方向 N-58°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層され, 人為堆積と考えられる。

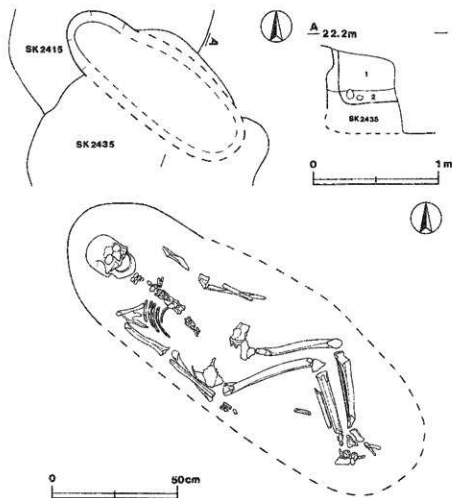
#### 土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量

遺物 縄文土器片18点が出土している。

埋葬人骨 埋葬された状態で出土した人骨は, 頭位がN-60°-Wを向き, 埋葬姿勢は膝立屈葬である。

所見 本跡の時期は, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅠ式期)の土坑を掘り込んでいること及び縄文時代中期の覆土と類似することから縄文時代中期の土坑墓と考えられる。



第373図 第2463号土坑実測図

### (3) 土坑

#### 第2357号土坑 (第374図)

位置 調査区の南東部, D14h7 区。

規模と平面形 径2.08mの円形で、深さは21cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

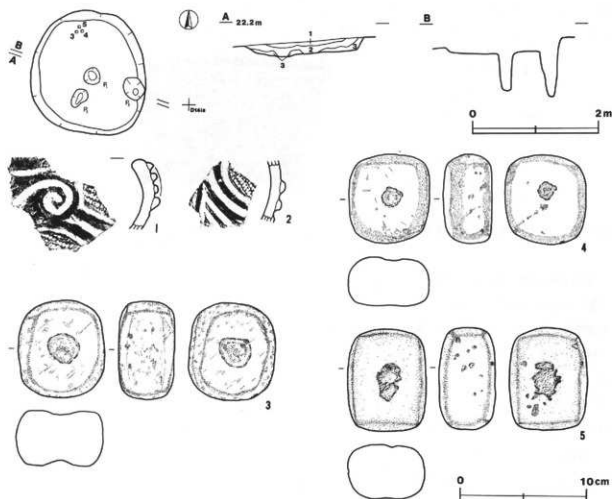
ピット 3か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、径28cmの円形で、深さは60cmである。P<sub>2</sub>は東壁際に位置し、長径38cm、短径32cmの楕円形で、深さは74cmである。P<sub>3</sub>は南側に位置し、長径32cm、短径21cmの楕円形で、深さは18cmである。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片23点、磨石3点が出土している。第374図3～5の磨石は覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部片で、R Lの単節縄文を地文に沈線による渦巻文が施されている。2は深鉢の胴部片で、地文はR Lの単節縄文である。



第374図 第2357号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。

### 第2357号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第374図3	磨 石	7.7	6.9	4.6	(405.0)	緑色凝灰岩	Q7 覆土下層 四石象用
4	磨 石	7.1	6.5	3.9	(310.0)	安 山 岩	Q8 覆土下層 四石象用
5	磨 石	8.1	6.2	4.5	(374.0)	安 山 岩	Q9 覆土下層 四石象用

### 第2361号土坑（第375図）

位置 調査区の南東部，D14j6区。

重複関係 第419号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 径0.70mの円形で、深さは47cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

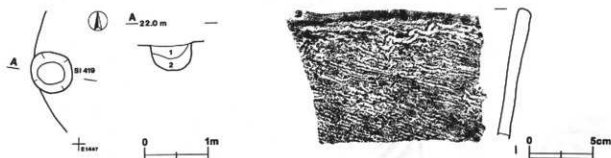
覆土 2層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 縄文土器片93点が出土している。第375図1は深鉢の口縁部片で、縄文はRの無節縄文である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内 I 式期）と考えられる。



第375図 第2361号土坑・出土遺物実測図

### 第2364号土坑（第376～379図）

位置 調査区の南東部，E14a0区。

重複関係 第422号住居跡の南壁と第2376号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径2.40mの円形で、深さは304cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 18層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化物少量・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・炭化物微量
- 4 暗赤褐色 炭化粒子・焼土ブロック中量・炭化物少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量・炭化物微量。3層より明るい
- 6 黒褐色 炭化物多量・焼土粒子少量

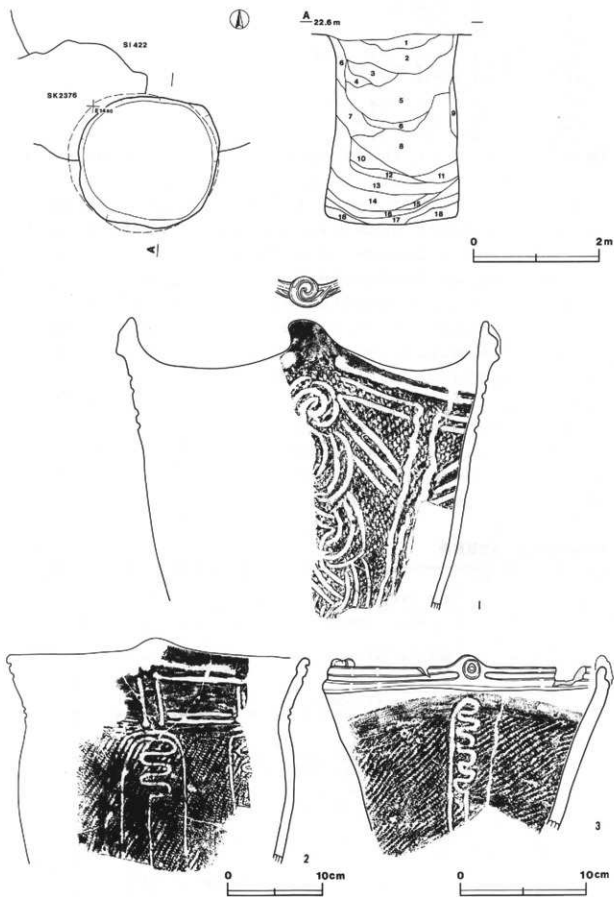
7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量、5層より暗い
8	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	暗褐色	白色粘土ブロック少量、炭化物多量
11	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
12	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物多量、焼土微粒子量
13	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物多量
14	暗褐色	ローム粒子・炭化物少量
15	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
16	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
17	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
18	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片2360点、敲石1点、多量の獣骨・魚骨片が出土している。1～9の深鉢の胴部から口縁部の破片、10の深鉢の胴部片、11の深鉢の底部から胴部の破片、31の敲石は覆土から出土している。12～23は深鉢の口縁部片である。12・13は波状口縁で、波頂部に円形刺突文が施されている。地文はLRの単節縄文で、沈線が斜行している。14は波状口縁で、口唇部直下に沈線が施され、波頂部に円形刺突文が施されている。口縁部より下は沈線が施されている。15は波状口縁で、波頂部に円形刺突文及び孔が施されている。口縁部より下はRLの単節縄文を地文に断面三角形の隆帯及び沈線が施されている。16は波状口縁で、口唇部直下に幅広の沈線が施されている。口縁部にはLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。17は斜位の沈線文を有する突起を有し、口唇部は沈線が施されている。18はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。19は波状口縁で小突起を有し、LRの単節縄文を地文にキザミを有する隆帯及び沈線が施されている。20は波状口縁で、地文は無節縄文で、沈線が施されている。21はLRの単節縄文を地文に沈線により文様が施されている。22は渦巻状の沈線が施されている。23はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。24～28は深鉢の胴部片である。24～26はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。27は多条の沈線が波状に施されている。28はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。29は鉢形土器の底部片で、LRの単節縄文を地文に半截竹管による平行沈線文が施されている。30は深鉢の底部片で、底部に網代痕が見られる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（壺之内I式期）と考えられる。

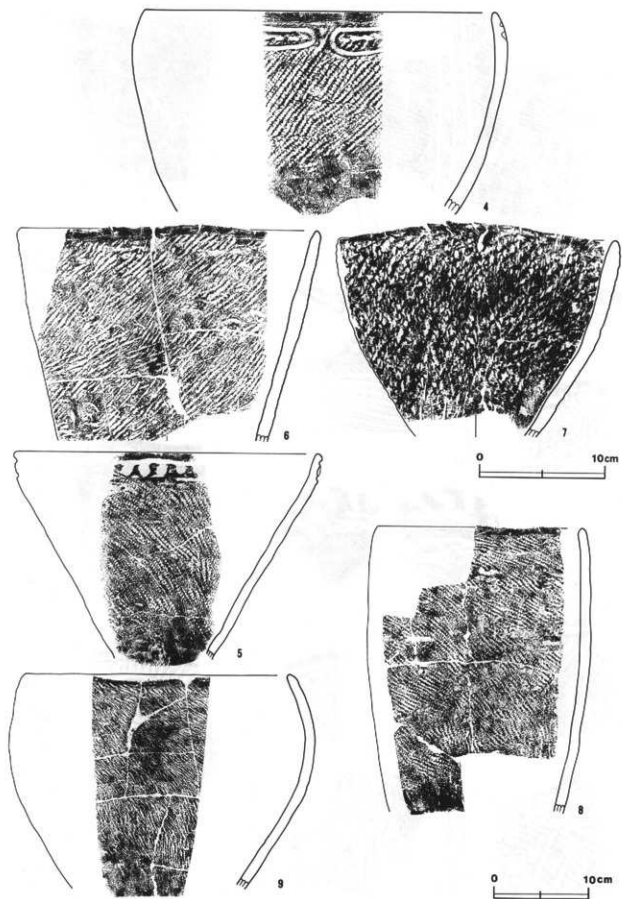
### 第2364号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第376図 1	深鉢 縄文土器	A (28.1)	胴部から口縁部の破片。波状口縁を呈する口縁部はわずかに外傾する。口縁部には渦巻文が施された小突起を有し、口唇部直下には沈線が施されている。胴部はLRの単節縄文を地文に、斜行沈線文及びキザミ文が施されている。	砂粒・石英・スコリア 黒褐色 普通	P24 20% P.L53 覆土 壺之内I式
		B (23.0)			
2	深鉢 縄文土器	A (31.8)	胴部から口縁部の破片。胴部上段にくびれをもち、口縁部波状口縁。口縁部には沈線及び円形刺突文が施され、胴部にはRLの単節縄文を地文に沈線による断手文及び斜行沈線文が施されている。	砂粒・石英 黒褐色 普通	P35 20% P.L53 覆土 壺之内I式
		B (23.3)			
3	深鉢 縄文土器	A (21.6)	胴部から口縁部の破片。円形刺突文及びキザミが施された3単位の小突起を有する。口唇部直下には沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に斜行沈線が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P36 30% P.L55 覆土 壺之内I式
		B (13.0)			
第377図 4	深鉢 縄文土器	A (25.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内傾する。口縁部は沈線により長條円部に区画され、区画間及び区画内に斜行竹管による刺突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文が施されている。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P27 10% P.L53 覆土 壺之内I式
		B (16.0)			
5	鉢 縄文土器	A (32.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口縁部には2本の沈線間にかまの形刺突文が施されている。胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P38 20% 覆土 壺之内I式
		B (22.0)			
6	深鉢 縄文土器	A (23.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は直線的に立ち上がり、地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P39 20% P.L53 覆土 壺之内I式
		B (16.8)			
7	深鉢 縄文土器	A (22.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内傾する。地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P40 20% P.L53 覆土 壺之内I式
		B (15.7)			

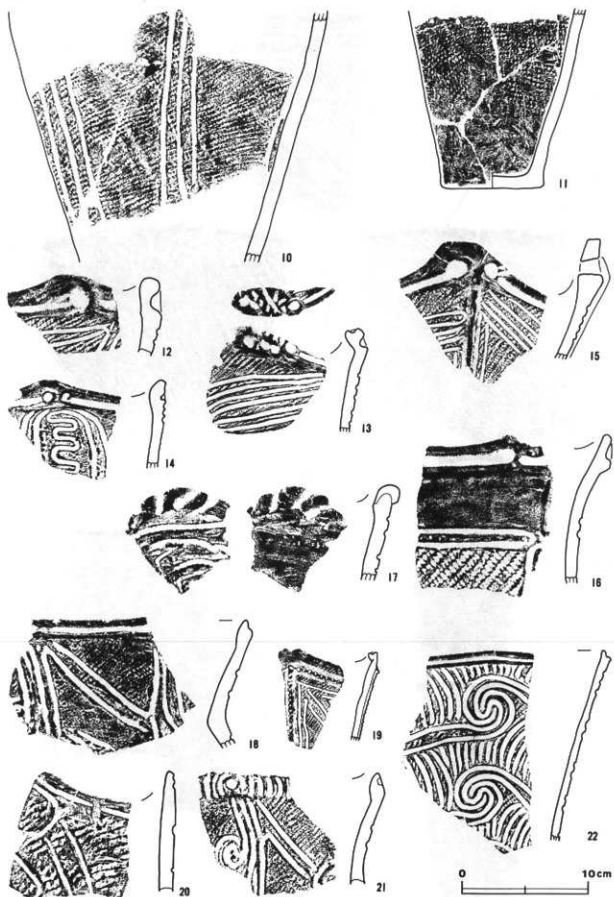


第376图 第2364号土坑·出土遗物实测图(1)

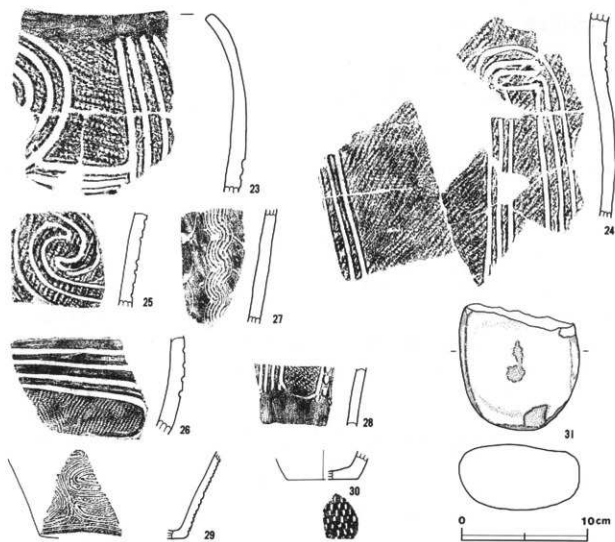




第377图 第2364号土坑出土文物实测图(2)



第378图 第2364号土坑出土遗物实测图(3)



第379図 第2364号土坑出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・地成	備考		
						長さ(cm)	幅(cm)
第379図 8	深鉢 縄文土器	A (22.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はR Lの単筋縄文である。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P41 20% P L53 覆土 甕之内I式		
		B (30.0)					
9	深鉢 縄文土器	A 27.5	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文は熟糸文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P42 70% P L53 覆土 甕之内I式		
		B (22.9)					
第379図 10	深鉢 縄文土器	B (19.7)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。R Lの単筋縄文を地文に、3本一組の沈線を下下させている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P43 15% P L53 覆土 甕之内I式		
11	深鉢 縄文土器	B (14.3)	底部から胴部の破片。底部はわずかに突出し、胴部は外傾して立ち上がる。地文はL Rの単筋縄文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P44 30% P L53 覆土 甕之内I式		
		C 8.2					
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第379図31	甕石	(10.0)	9.1	5.3	(735.0)	緑色凝灰岩	Q10 覆土

### 第2365号土坑 (第380・381図)

位置 調査区の南東部, D14j9区。

重複関係 第422号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.40mの円形で、深さは124cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平頂である。

覆土 6層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |     |                                 |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量            |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量            |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物・焼土小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量                         |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック少量             |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム中ブロック少量             |

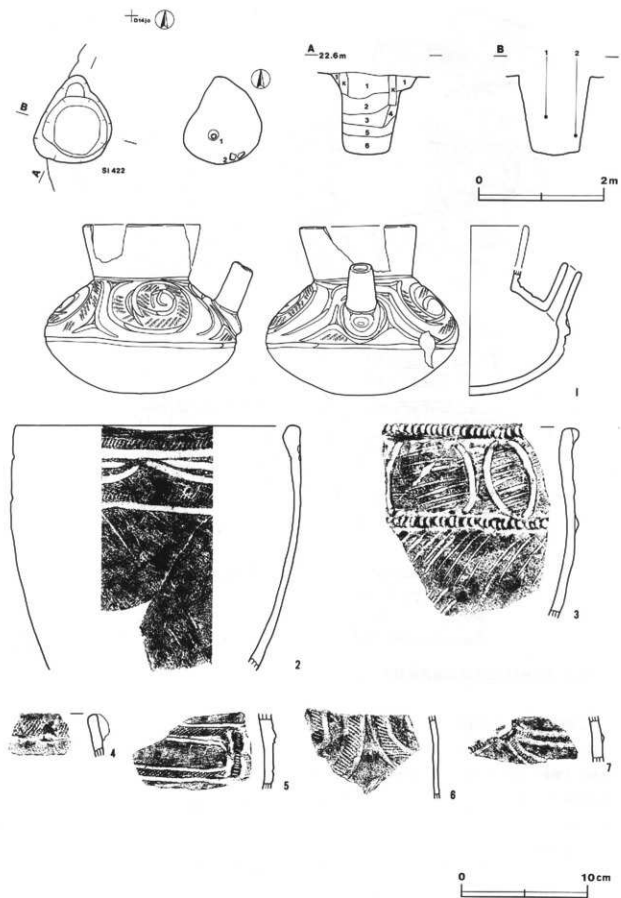
遺物 縄文土器片93点, 土偶1点, 土版1点, 獣骨片が出土している。第380図1の注口土器は覆土中層から、2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から、第381図8の土偶及び9の土版は覆土から出土している。3～4は深鉢の口縁部片である。3はキザミをもつ紐線文が施され、紐線文による区画内に弧状の沈線が施されている。胴部は斜行する条線文が施されている。4は無筋の隆起手法による縄文帯に突起が付されている。5～7は深鉢の胴部片である。5はLRの単節縄文の隆起手法による縄文帯で区画され、キザミをもつ縦長の突起が付されている。6はLRの単節縄文の幅広の沈線による磨消文が施されている。7はキザミをもつ隆帯が施されている。注口土器及び土製品は安行3a式期のものと思われるが、土器片の中に安行1・2式期のものも含まれている。8はミニズク形土偶で、9は土版である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代晩期(安行3a式期)と考えられる。

### 第2365号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)			器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
		長さ	幅	厚さ			
第380図 1	注口土器 縄文土器	A	5.4		先底で、胴部は内傾しなから立ち上がり、強く彎曲して内傾し、口縁部に至る。口縁部は縄文ではほぼ直線的に立ち上がる。胴部上位は無筋縄文を地文に、深い沈線による三又文及び磨消文が施されている。胴部中に輪位の沈線が施され、以下は縄文である。注口基部は膨らみを持ち、中央にくぼみがある。本筋紋。	砂粒・長石・雲母 に多い褐色 普通	P45 90% P.L.34 覆土中層 安行3a式
		B	13.4				
		C	3.6				
2	深 鉢 縄文土器	A	[22.6]	胴部から口縁部の破片、胴部上位で内傾する。口縁部には横位あるいは斜位の沈線とキザミが施されている。胴部は無文である。	砂粒・長石 に多い褐色 普通	P45 20% P.L.34 覆土下層 安行3a式	
		B	[19.4]				

図版番号	器 種	計 測 値(cm)			重 量 (g)	埋 存 率 (%)	形 状 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第381図 8	土 偶	(9.2)	(9.1)	(4.6)	(146)	50	胎土部はキザミをもつ隆帯で隆起されており、口もとにもキザミをもつ隆帯で隆起している。胴部及び腹部は及しの単節縄文を地文に、沈線による磨消文と三又文が施され、腹部に突出している。胎土は及しの単節縄文を地文に、沈線による磨消文が施されている。赤砂色。	D.P.9 覆土 安行3a式
9	土 版	9.4	7.3	3.2	(249)	95	上表面にキザミが施され、腹部の底辺に1.5cm幅の筋が刻まれ、口縁内には磨消文が施されている。表面及び腹面に沈線による三又文が施されている。	D.P.10 覆土 安行3a式



第380图 第2365号土坑·出土遗物实测图(1)



第381図 第2365号土坑出土遺物実測図(2)

第2366号土坑 (第382図)

位置 調査区の南東部, D14hs区。

規模と平面形 長径2.83m, 短径1.90mの不定形で, 深さは67cmである。

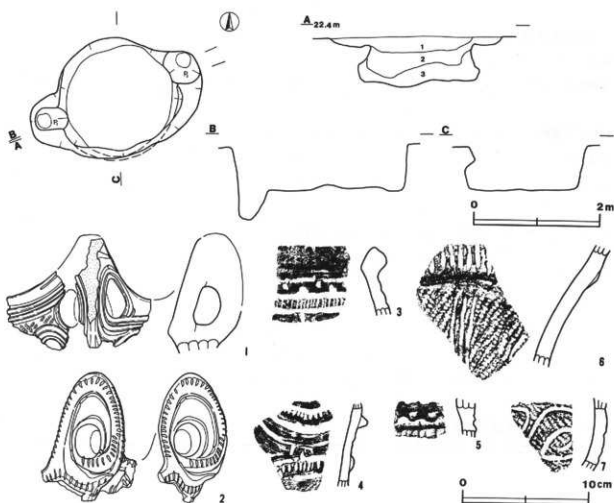
長径方向 N-60°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は西壁際に位置し, 長径50cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは117cmである。P<sub>2</sub>は東壁際に位置し, 長径60cm, 短径48cmの楕円形で, 深さは74cmである。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から自然堆積と考えられる。



第382図 第2366号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、ローム中ブロック少量  
 3 褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック中量

**遺物** 縄文土器片135点が出土している。第382図1・2の深鉢の把手は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で、沈線間に交互刺突文及びキザミが施されている。4～7は深鉢の胴部片である。4はL Rの単節縄文を地文に、隆帯及び沈線が施され、隆帯にはキザミが施されている。5は2本の沈線間に交互刺突文が施されている。6・7はR Lの単節縄文を地文に沈線が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中鉢式期）と考えられる。

第2366号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	深鉢 縄文土器	B (8.7)	筒状把手。孔に沿って2本あるいは3本の沈線が施されている。以下はR Lの単節縄文を地文に、沈線の施された隆帯が貼り付けられている。	砂粒 褐色 普通	P47 5% 覆土 中鉢式
2	深鉢 縄文土器	B (10.3)	表面にはキザミをもつ厚い隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿って沈線が施されている。裏面には薄い隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P48 5% 覆土 中鉢式

### 第2370号土坑（第383図）

位置 調査区の南東部，D14is区。

重複関係 第421号住居跡の北西壁を掘り込んでいる。南西部で第2371号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.05m，短径1.88mの楕円形で，深さは45cmである。

長径方向 N-0°

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し，長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さは48cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

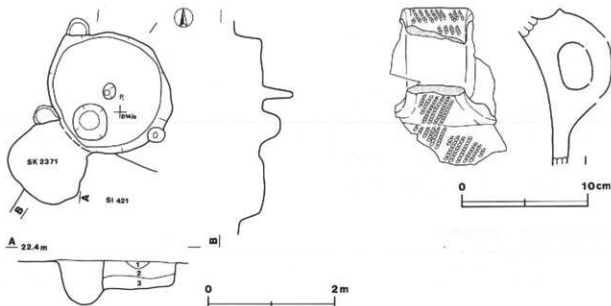
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中・大ブロック少量

遺物 縄文土器片77点が出土している。第383図1の広口壺把手部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EIV式期）と考えられる。

### 第2370号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 1	広口壺 縄文土器	B (11.8)	楕状把手。把手表面及び胴部にR Lの早期縄文が施されている。	砂粒・スコリア 浅黄褐色 普通	F49 5% 覆土 加曾利EIV式



第383図 第2370号土坑・出土遺物実測図



### 第2372号土坑（第384図）

位置 調査区の南東部，D14j8区。

重複関係 第421号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南西部分で第2373号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.56m，短径1.37mの楕円形で，深さは40cmである。

長径方向 N-3°-E

壁 段状である。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

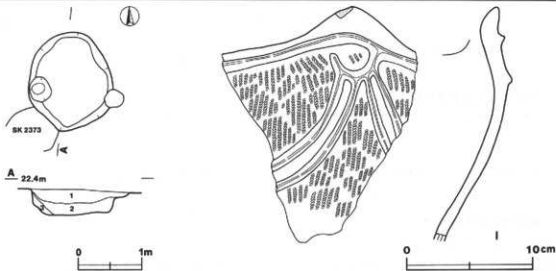
- 1 褐色 ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片49点が出土している。第384図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

#### 第2372号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第384図 1	深 鉢 縄文土器	B (18.6)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。口縁部は微隆起線を巡らし，無文帯を作っている。胴部はR.Lの早期縄文を地文とし，2本一組の微隆起線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア ふいじ色 普通	F50 10% PL54 覆土 加曾利EⅢ式



第384図 第2372号土坑・出土遺物実測図

### 第2374号土坑（第385図）

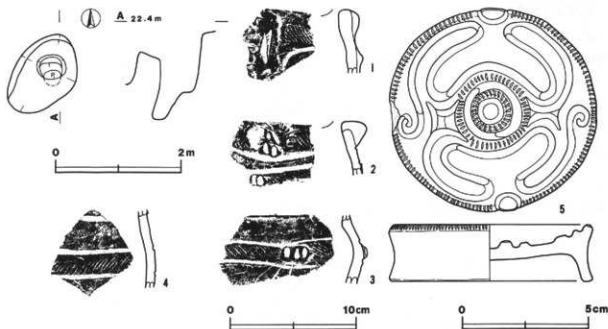
位置 調査区の南東部，E15a1区。

規模と平面形 長径1.40m，短径0.98mの楕円形で，深さは22cmである。

長径方向 N-45°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。



第385図 第2374号土坑・出土遺物実測図

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、長径49cm、短径40cmの楕円形で、深さは99cmである。

遺物 縄文土器片265点及び土製耳飾り1点が出土している。第385図5の土製耳飾りは覆土から出土している。1・2は深鉢の口縁部片である。1はRLの単節縄文の隆起手法による縄文帯に貼付文が付けられている。2はRLの単節縄文の隆起手法による縄文帯に、フタ鼻状貼付文が付けられている。3・4は深鉢の胴部片である。3はRLの単節縄文の沈線手法の縄文帯にキザミをもつ貼付文が付けられている。4はLRの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施されている。5は土製耳飾りである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2a式期）と考えられる。

#### 第2374号土坑出土遺物観察表

図版番号	部 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 寸	幅	厚 寸				
第385図5	土製耳飾り	8.0	8.2	2.4	(84)	95	円形。沈線による目字状の文様及びキザミ。	DP11 覆土

#### 第2375号土坑（第386図）

位置 調査区の南東部，D14h9区。

重複関係 北側部分を第2401号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2410号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径0.98mの円形で、深さは110cmである。

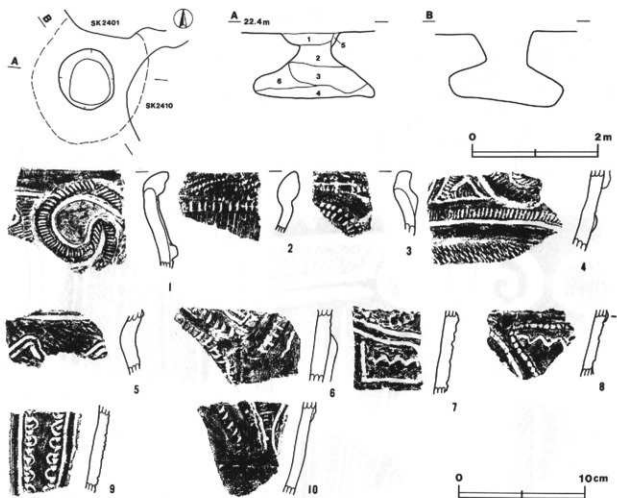
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	5 褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量



第386図 第2375号土坑・出土遺物実測図

**遺物** 縄文土器片26点が出土している。第386図1～3は深鉢の口縁部片である。1は隆帯にキザミが施されている。2は口縁部上端に単節LRの縄文が施され、その下に瓜形文が施されている。3は押し引き刺突文が施されている。4～10は深鉢の胴部片である。4は頭部に隆帯を巡らし、口縁部はキザミをもつ隆帯により文様を施している。胴部は熱赤文を施している。5は横位の沈線及び半載竹管による山形沈線文が施されている。6・8は断面三角形の隆帯に沿って押し引き文が施されている。7は沈線及びび結節沈線文が施されている。9は隆帯に沿って半載竹管による刺突文が施されている。10は沈線及びキザミのある隆帯が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

#### 第2376号土坑（第387図）

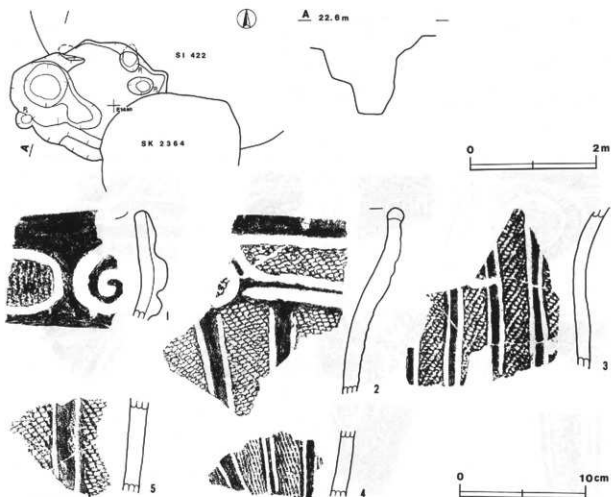
**位置** 調査区の南東部，D14j9区。

**重複関係** 第422号住居跡の南西側部分を掘り込んでいる。南東部分で第2364号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 長径1.58m，短径1.46mの楕円形で，深さは74cmである。

**長径方向** N-90°-E

**壁** 段状である。



第387図 第2376号土坑・出土遺物実測図

底 平坦である。

ピット 3か所。P<sub>1</sub>は北東壁際に位置し、長径35cm、短径28cmの楕円形で、深さは20cmである。P<sub>2</sub>は東側に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは28cmである。P<sub>3</sub>は南西壁際に位置し、径32cmの円形と推定され、深さは40cmである。

遺物 縄文土器片124点が出土している。第387図1・2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による渦巻文及び沈線による楕円区画文が施され、区画内には無節縄文が施されている。2は複節縄文を地文に沈線による区画文及び磨消懸垂文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。4は熟糸文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。5は幅広の2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2377号土坑 (第388図)

位置 調査区の南東部, D15j2区。

規模と平面形 径1.89mの円形で、深さは127cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 7層に分層され、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量, ローム少ブロック・炭化粒子・炭化物・焼土粒子・焼土小ブロック微量
4	褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
5	明褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
6	明褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	にぶい褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量

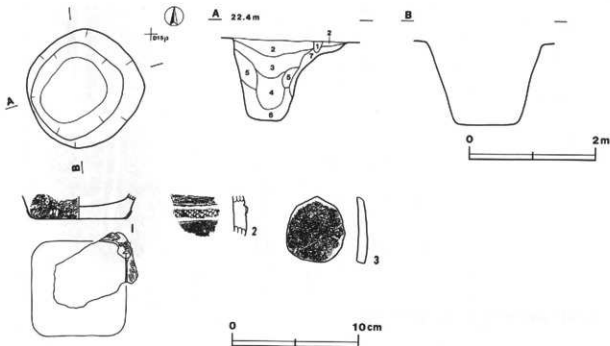
遺物 縄文土器片50点, 土器片円盤1点が出土している。第388図1の角底鉢の底部片及び3の土器片円盤は覆土から出土している。2は深鉢の胴部片であり, RLの単節縄文の隆起手法による縄文帯が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期後葉(安行2式期)と考えられる。

第2377号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第388図 1	角底鉢 縄文土器	B (2.0) C 8.1	底部片。底部が四角形になる鉢で、北縁及びLRの単節縄文の沈線手法の帯縄文が施され、角に四つのキザミをもつ輪が貼り付けられている	砂粒・スコリアにぶい褐色 普通	P175 5% 覆土 安行2式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	残存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第388図3	土器片円盤	5.2	4.5	0.7	(20.0)	95	無文。	DP12 覆土



第388図 第2377号土坑・出土遺物実測図

### 第2378号土坑（第389図）

位置 調査区の南東部，D15a2区。

重複関係 第423号住居跡の炉を掘り込んでいる。北東部分で第2409号土坑と重複し，南側部分で第2407号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.69m，短径1.29mの楕円形で，深さは31cmである。

長径方向 N-59°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

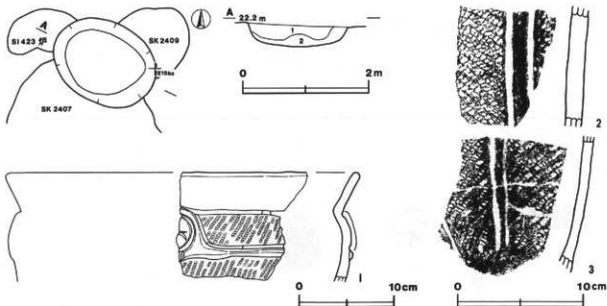
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

遺物 縄文土器片91点が出土している。第389図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で，覆土から出土している。2・3は深鉢の胴部片である。2は複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。3はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。

### 第2378号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	深鉢 縄文土器	A (36.0) B (11.5)	胴部から口縁部の破片。胴部上位でわずかに内彎し，口縁部は外傾する。 口縁部は無文で，以下はL Rの単節縄文を地文に沈線及び隆帯で区画文が施されている。	砂粒 にぶい灰色 普通	P51 5% PL54 覆土 加曾利E II式



第389図 第2378号土坑・出土遺物実測図

### 第2380号土坑（第390図）

位置 調査区の南東部，E15a1区。

重複関係 北東部分で第2379号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.70m，短径0.50mの楕円形で，深さは60cmである。

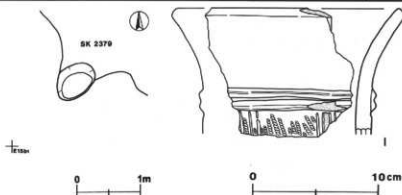
長径方向 N-43°-W

遺物 縄文土器片2点が出土している。第390図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

#### 第2380号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第390図 1	深鉢 縄文土器	A (17.6) B (9.8)	胴部から口縁部の破片，口縁部はわずかに外反する。口縁部は無文である。口縁部と胴部は比線を有する袋帯で区画され，胴部はLRの単筋縄文を地文に半軟竹管による沈線を垂下させている。	砂粒 褐色 普通	P52 10% PL54 覆土 加曾利E I式



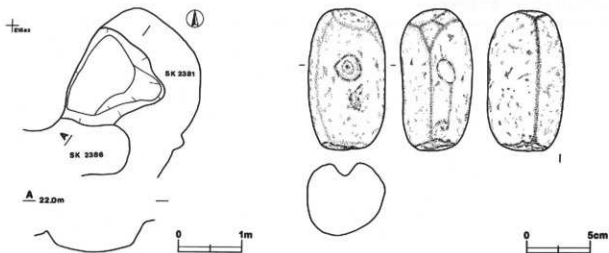
第390図 第2380号土坑・出土遺物実測図

### 第2383号土坑（第391図）

位置 調査区の南東部，E15a2区。

重複関係 第2381号土坑の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2386号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.45mの不定形で，深さは61cmである。



第391図 第2383号土坑・出土遺物実測図

長径方向 N-60°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

遺物 縄文土器片97点、敲石1点が出土している。第391図1の敲石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物は少量であるが、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

### 第2383号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第391図1	敲 石	11.2	6.2	3.9	(606.0)	安山岩	Q11 覆土 石片兼用

### 第2388号土坑（第392図）

位置 調査区の南東部、D15:1区。

規模と平面形 径2.05mの円形で、深さは48cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 3か所。P<sub>1</sub>は北壁際に位置し、径52cmの円形で、深さは28cmである。P<sub>2</sub>は南壁際に位置し、径34cmの円形で、深さは46cmである。P<sub>3</sub>は南西壁際に位置し、径44cmの円形で、深さは60cmである。

覆土 5層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・洗土粒子・炭化粒子・炭化植物屑	3	褐色	ローム粒子少量
	褐色	ローム粒子・ローム中ブロック少量	5	褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

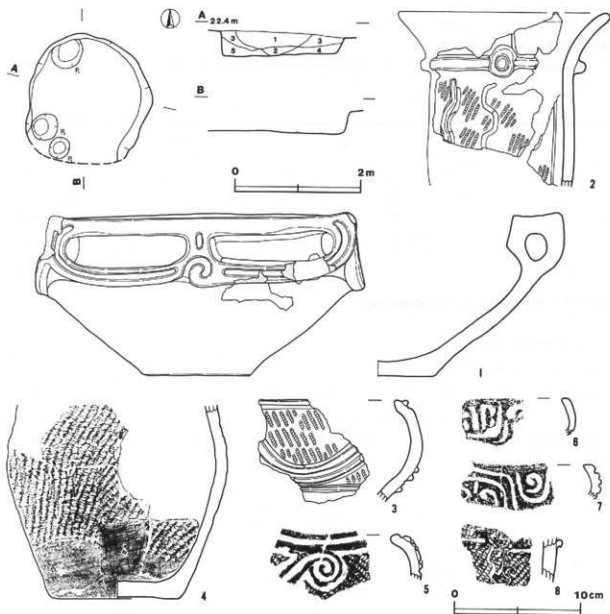
遺物 縄文土器片177点が出土している。第392図1の浅鉢、2の深鉢の胴部から口縁部の破片、3の深鉢の口縁部片及び4の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。5～7は深鉢の口縁部片である。5は隆帯により渦巻文が施されている。地文はR Lの単節縄文である。6・7は沈線で文様が施されている。8は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文とし、隆帯を巡らしている。波状の沈線を垂下させている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

### 第2388号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第392図1	浅 鉢 縄文土器	A 24.4	胴部は外部立ち上がる。口縁部には3単位の手掛が付く。器中から基びる隆帯により、把手と把手の間に渦巻文が施されている。渦巻文に当たるまでの隆帯には沈線が施されている。胴部は無文である。水影漆。	砂粒・長石 に赤・褐色 普通	P33 75% P.L34 覆土 加曾利E I式
		B 13.0			
2	深 鉢 縄文土器	A (17.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内湾し、口縁部は外反する。口縁部は無文で、口縁部と胴部は円形斜突の施された突起をもつ隆帯で区別されている。胴部はR Lの単節縄文を地文に、配行する隆帯に沿って2本の配行沈線文及び渦巻文が施されている。	砂粒・長石・シリカ 陶灰内 普通	P44 20% P.L51 覆土 加曾利E I式
		B (13.5)			
3	深 鉢 縄文土器	B (8.2)	口縁部片。口縁部は内湾する。隆帯を巡らして口縁部文様帯を形成し、R Lの単節縄文を地文として2本一組の隆帯を施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P95 5% P.L54 覆土 加曾利E I式
		B (8.2)			
4	深 鉢 縄文土器	B (13.4)	底部から胴部の破片。胴部は中位で内湾する。地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・石片・雲母 スコリア に赤・褐色 普通	P36 30% P.L54 覆土 加曾利E I式
		C 10.0			





第392図 第2388号土坑・出土遺物実測図

第2389号土坑 (第393図)

位置 調査区の南東部, D15j1区。

規模と平面形 径1.40mの円形で、深さは104cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され、覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

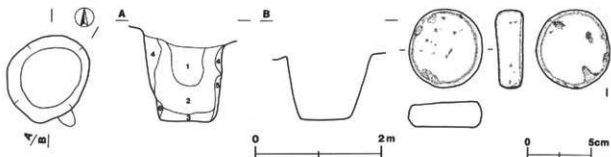
- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量、2層より色調が暗い
- 4 褐色 ローム粒子微量、ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子微量、ロームブロック少量、4層より色調が明るい
- 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量、ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片304点、磨石1点が出土している。第393図1の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2389号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第393図1	磨 石	6.3	5.8	2.2	(120.0)	安山岩	Q12 覆土



第393図 第2389号土坑・出土遺物実測図

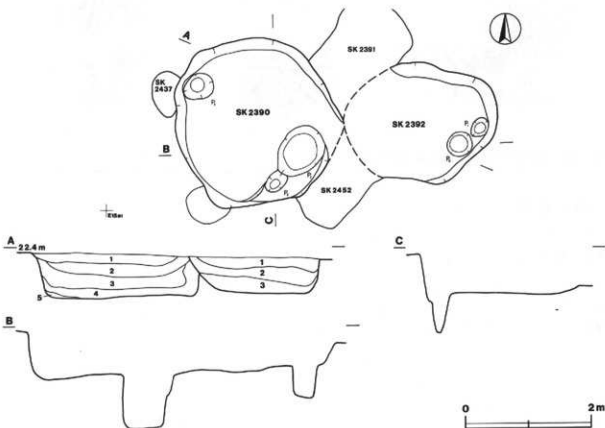
第2390号土坑（第394図）

位置 調査区の南東部，D15j1区。

重複関係 第2392号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2391号土坑，第2452号土坑と，西側部分で第2437号土坑とそれぞれ重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.70m，短径2.57mの楕円形で，深さは76cmである。

長径方向 N-0°



第394図 第2390・2392号土坑実測図

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

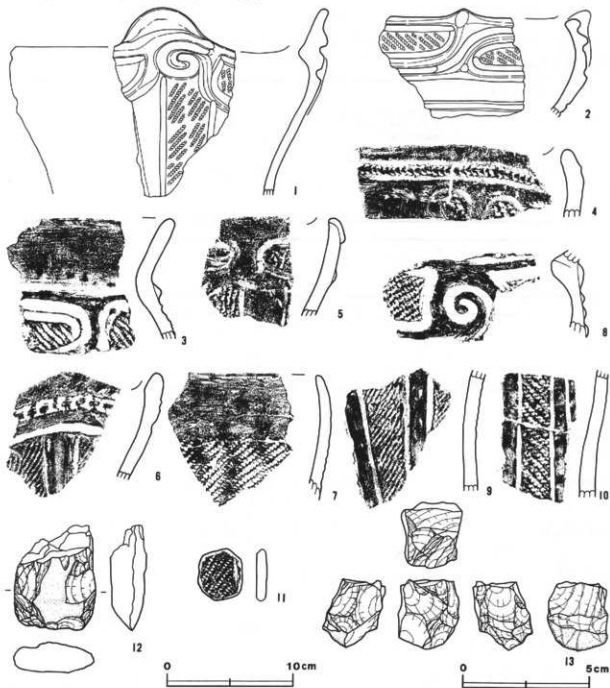
底 平坦である。

ピット 3か所。P<sub>1</sub>は北西壁際に位置し、長径50cm、短径42cmの楕円形で、深さは46cmである。P<sub>2</sub>は南東壁際に位置し、長径86cm、短径65cmの楕円形で、深さは87cmである。P<sub>3</sub>は南壁際に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは68cmである。

覆土 5層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量          |
| 2 褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量          |



第395図 第2390号土坑出土遺物実測図

**遺物** 縄文土器片932点，土器片円盤1点，打製石斧1点，石核1点が出土している。第395図1・2の深鉢の口縁部片，11の土器片円盤，12の打製石斧及び13の石核は覆土から出土している。3・8は鉢の口縁部片である。3は隆帯による長方形区画文内にR Lの単節縄文が施されている。8は隆帯で渦巻文及び長方形区画文が施され，区画内にはR Lの単節縄文が施されている。4～7は深鉢の口縁部から胴部の破片である。4は口唇部直下に半載竹管による刺突文が施されている。胴部は沈線による逆U字状文内に複節文を充填している。5は隆帯で楕円区画文が施され，区画内にはR Lの単節縄文が施されている。胴部はR Lの単節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。6は波状口縁で，半載竹管による瓜形文を巡らしている。胴部はR Lの単節縄文を地文に2本単位の沈線を垂下させ，幅広の沈線間を磨り消している。7はR Lの単節縄文を施している。9・10は深鉢の胴部片である。9はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。10は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。

**所見** 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

#### 第2390号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1	深鉢 縄文土器	A (23.4) B (15.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。波頂部に突起をもつ。口縁部は隆線と沈線で渦巻文及び区画文を置き，区画内にR Lの単節縄文が施されている。胴部はR Lの単節縄文を地文に，2本沈線による幅広の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石・スクリア に多い褐色	P57 5% 覆土 加曾利EⅡ式
2	深鉢 縄文土器	B (8.5)	口縁部片。口縁部には沈線及び隆帯による区画文が施され，隆帯は口縁部部で突起をもつ。区画内にはR Lの単節縄文が施されている。	砂粒・石英・雲母・ スクリア 褐色 青濁	P58 10% P1.54 覆土 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第395図11	土器片円盤	4.1	3.6	0.7	(16.0)	95	沈線及び単節縄文R L。	DP13 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第395図12	打製石斧	(8.3)	6.5	2.8	(104.0)	砂岩	Q13 覆土
13	石核	2.7	2.4	2.5	(19.0)	チャート	Q14 覆土

#### 第2392号土坑（第394図）

**位置** 調査区の南東部，D15j2区。

**重複関係** 第2391号土坑を掘り込んでいる。西側部分で第2390号土坑，第2452号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 長径[2.45]m，短径[2.00]mの楕円形と推定され，深さは45cmである。



第396図 第2392号土坑  
出土遺物実測図

**長径方向** N-5°-W

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底** 平坦である。

**ピット** 2か所。P<sub>1</sub>は東壁際に位置し，長径33cm，短径25cmの楕円形で，深さは11cmである。P<sub>2</sub>は南東壁際に位置し，径42cmの円形で，深さは51cmである。

**覆土** 3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・炭化物少量

2 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量

3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片129点、土製耳飾り1点が出土している。第396図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2392号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値(cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第396図1	土製耳飾り	2.0	2.0	1.4	(3.0)	95	臼状。弧線。	DP14 覆土

第2394号土坑 (第397図)

位置 調査区の南東部、D14h0区。

重複関係 第424号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.45mの円形で、深さは119cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 8層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子多量

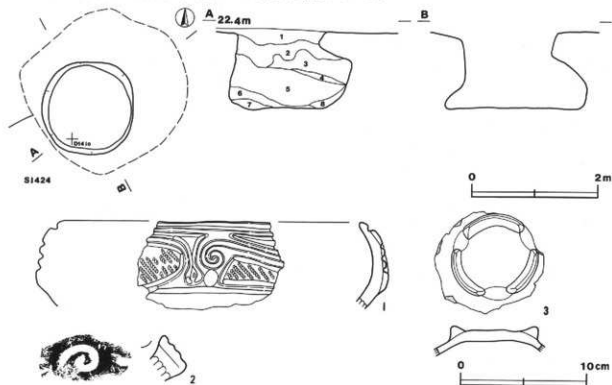
3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

7 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量

4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

8 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片170点及び土製蓋が出土している。第397図1の深鉢の口縁部片及び3の蓋は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、沈線による渦巻文が施されている。



第397図 第2394号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加賀利E I 式期）と考えられる。

### 第2394号土坑出土遺物観察表

図版番号	品名	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	出土・発掘・埋蔵	備考
第397図1	単 鉢 縄文土器	A (23.2) B (16.9)	口縁部片、口縁部は内彎する。口縁部には厚帯と此處による区画文及び高意文が施されている。区画内には、R Lの単節縄文が充填されている。以下は加文である。	粘土・熟潤・焼成 赤褐色部・スクリヤ に白い斑色 普通	P39 5% P L34 覆土 加賀利E I 式

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第397図3	土 製 釜	(8.2)	-	(1.9)	(73.0)	60	3本の発着を施し付けた把子。赤彩画。	D P39 覆土

### 第2396号土坑（第398・399図）

位置 調査区の南東部、D14g8区。

重複関係 南側部分で第2397号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径3.05m、短径2.62mで、不定形で、深さは61cmである。

長径方向 N-44°-W

壁 ほは垂直に立ち上がる。

底 ほは平坦である。

ピット 4か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、径28cmの円形で、深さは42cmである。P<sub>2</sub>は南西壁際に位置し、径47cmの円形で、深さは66cmである。P<sub>3</sub>は北西壁際に位置し、長径86cm、短径69cmの楕円形で、深さは31cmである。P<sub>4</sub>は北側に位置し、径32cmの円形で、深さは9cmである。

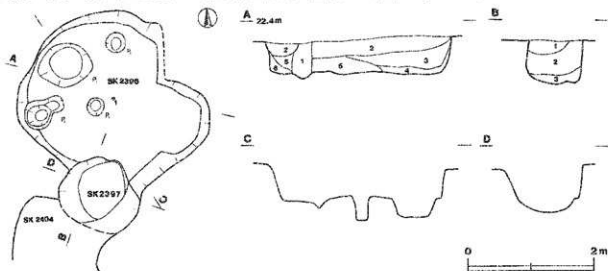
覆土 6層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

1層解説

- |       |                |       |                 |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 黄土粒子・炭化炭少量     | 4 暗褐色 | ローム粒子・黄土粒子少量    |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・黄土粒子少量   | 5 褐色  | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック少 | 6 褐色  | ローム粒子・ロームブロック中量 |

遺物 縄文土器片27点が出土している。第399図1の鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。2は隆起線文及びR Lの単節縄文が施されている。

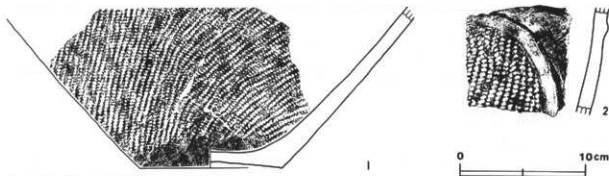
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加賀利E II 式期）と考えられる。



第398図 第2396・2397号土坑実測図

### 第2396号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	鉢 縄文土器	B (12.7) C (11.4)	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はR.Lの準総縄文である。	砂粒・長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	F61 10% P.L55 覆土 加藤利臣直式



第399図 第2396号土坑出土遺物実測図

### 第2397号土坑 (第398・400図)

位置 調査区の南東部, D14g8区。

重複関係 北側部分で第2396号土坑と重複し, 南西側部分で第2404号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.04mの円形と推定され, 深さは75cmである。

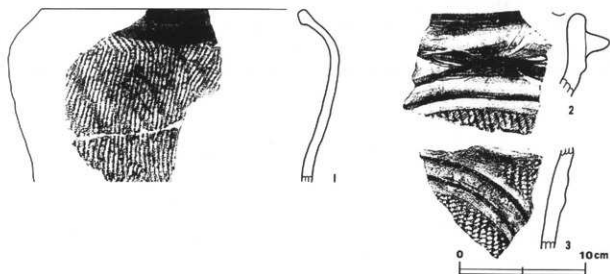
壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量



第400図 第2397号土坑出土遺物実測図

遺物 縄文土器片267点、不明土製品3点が出土している。第400図1の深鉢は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、幅広の沈線及び断面三角形の隆帯が施されている。縄文はR Lの単節縄文である。3は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文に微隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

#### 第2397号土坑出土遺物観察表

図号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・地成	備考
第400図 1	深鉢 縄文土器	A (21.0) B (13.3)	胴部から口縁部の破片。胴部1位は内磨する。地文はR Lの単節縄文で、口縁部は沈線が磨り落している。	砂粒・炭屑 に多い赤褐色 普通	P62 10% P L55 覆土 加曾利EⅢ式

#### 第2399号土坑（第401図）

位置 調査区の南東部、D14g9区。

重複関係 北東部分で第2421号土坑、東側部分で第2420号土坑、南東部分で第2401号土坑とそれぞれ重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.96mの円形で、深さは44cmである。

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 6か所。P<sub>1</sub>は北壁際に位置し、長径57cm、短径46cmの楕円形で、深さは85cmである。P<sub>2</sub>は北側に位置し、径50cmの円形で、深さは44cmである。P<sub>3</sub>は東壁際に位置し、長径51cm、短径45cmの楕円形で、深さは16cmである。P<sub>4</sub>は南東壁際に位置し、長径67cm、短径32cmの楕円形で、深さは26cmである。P<sub>5</sub>は南側に位置し、長径53cm、短径38cmの楕円形で、深さは59cmである。P<sub>6</sub>は南壁を掘り込み、径48cmの円形である。

覆土 4層に分層され、覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 始褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少許
- 3 褐色 ローム大ブロック多量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム大ブロック多量

遺物 縄文土器片134点が出土している。第401図1・2の深鉢の口縁部片、3・4の深鉢の胴部から口縁部の破片及び5・6の深鉢の底部片は覆土から出土している。

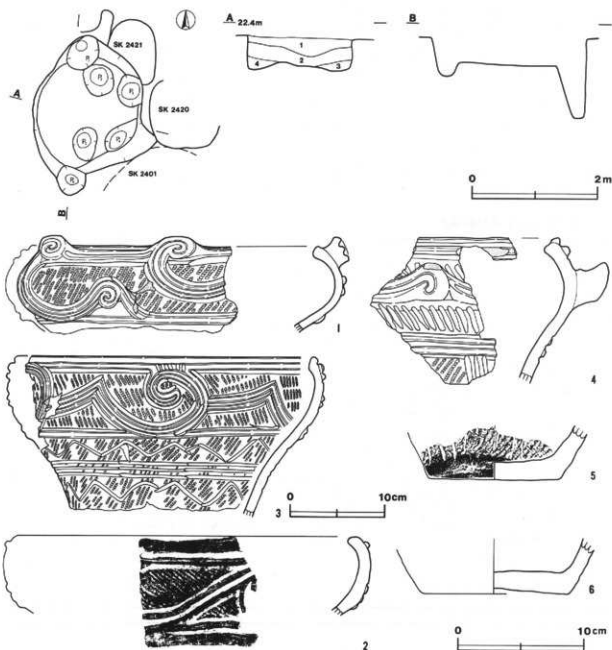
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

#### 第2399号土坑出土遺物観察表

図号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・地成	備考
第401図 1	深鉢 縄文土器	A (30.0) B (10.1)	口縁部片。口縁部は均等する。口縁部は隆帯及び沈線で渦巻文及び区調文を括き、区調内にR Lの単節縄文が施されている。口縁部部に施された渦巻文は、内摩で突出する。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英 雲母 に多い褐色 普通	P62 5% 覆土 加曾利EⅢ式
2	深鉢 縄文土器	A (35.2) B (8.3)	口縁部片。隆帯及び沈線による区調文が施され、区調内には無節縄文が充填されている。胴部は無文である。	砂粒・長石・スクリア に多い赤褐色 普通	P65 10% P L55 覆土 加曾利EⅢ式
3	深鉢 縄文土器	A (31.0) B (17.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内磨する。口縁部には2本1線の隆帯で区調文及び渦巻文が施され、区調内にR Lの単節縄文が充填されている。渦巻文直上の隆帯にはキズミが施されている。胴はR Lの単節縄文を地文に白濁沈線文及び横位の沈線が施されている。	砂粒 褐色 普通	P64 30% P L55 覆土 加曾利EⅢ式



国医番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401回 4	深鉢 縄文土器	B (11.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部に沈隆による渦巻文が施された突起を有し、 地文として沈隆が斜位に施されている。口縁部と胴部は2本の沈隆で区画 され、胴部はR Lの半筋縄文を地文に沈隆を垂下させている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P66 10% PL55 覆土 加曽利E I式
5	深鉢 縄文土器	B (4.5) C 10.4	底部片。L Rの半筋縄文を地文に縦位の沈隆が施されている。	砂粒・長石・スクリア 褐色 普通	P67 15% PL55 覆土 加曽利E I式
6	深鉢 縄文土器	B (3.5) C 11.6	底部片。外側に立ち上がる。無文である。	砂粒・長石 にがい褐色 普通	P68 5% PL55 覆土 加曽利E I式



第401回 第2399号土坑・出土遺物実測図

### 第2401号土坑 (第402・403図)

位置 調査区の南東部, D14g9区。

重複関係 南側部分で第2375号土坑と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.45m, 短径2.00mの楕円形で, 深さは120cmである。

長径方向 N-85°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され, 覆土の準備状況から自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム小ブロック多量
3 褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量	6 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量

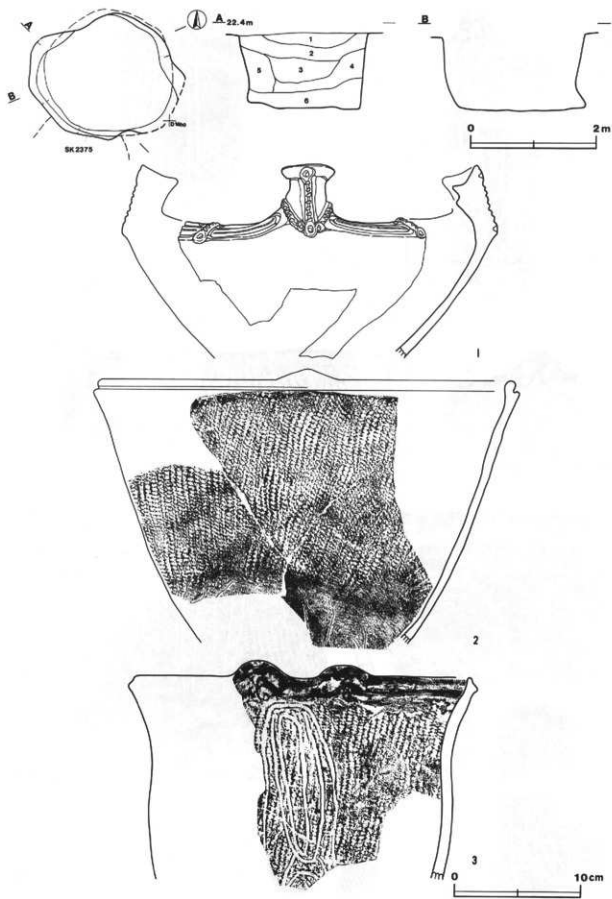
遺物 縄文土器片598点, 土器片円盤1点, 獣骨片が出土している。1・2の鉢形土器の胴部から口縁部の破片, 3~5の深鉢の胴部から口縁部の破片, 6・7の深鉢の底部片及び15の土器片円盤は覆土から出土している。8~12は深鉢の口縁部片である。8は波状口縁で, 地文はL Rの単節縄文である。8は泥入したものである。9は糸縷が横位, 縦位あるいは斜位に施されている。10はL Rの単節縄文が地文で, 補修孔が見られる。11はL Rの単節縄文を地文に沈線が施されている。12は波状口縁で, 地文はL Rの単節縄文である。13・14は深鉢の胴部片で, L Rの単節縄文を地文に沈線が施されている。15は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

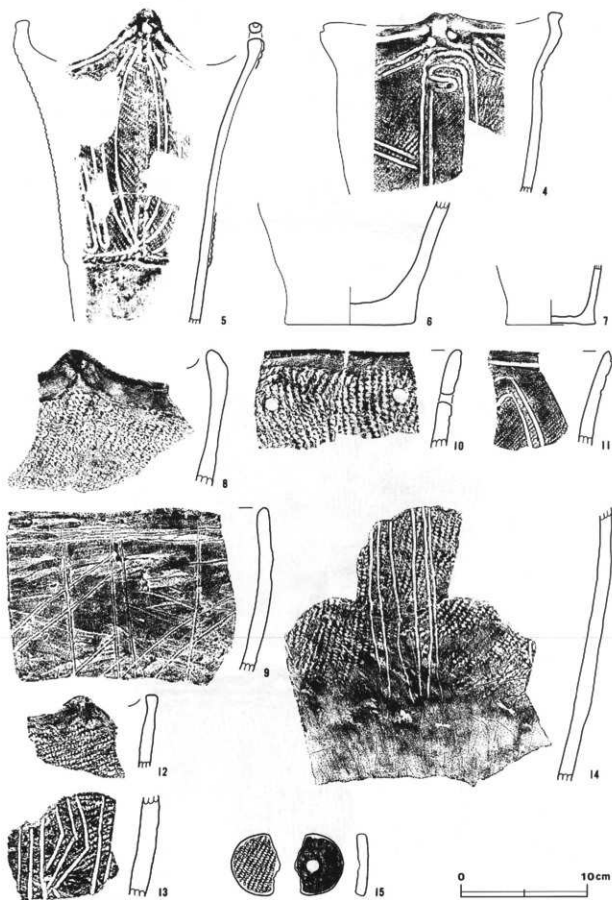
### 第2401号土坑出土遺物観表

図版番号	器種	計測部(m)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第402図 1	深鉢 縄文土器	A (26.6)	口縁部から胴部の破片。波状口縁。底頂部に肉髯を有し, 突起には円形肉突起とキズミが付く座帯が施されている。口縁部はくの字状に内側に折れ曲がる。口縁部には沈線による長物円形区画内に彫引き縄文が施されている。胴部は単文である。	砂粒・スコリア にぶい褐色 にぶい褐色	P60 5% 覆土 堀之内I式
		B (15.4)			
2	深鉢 縄文土器	A (32.4)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内彎する。口縁部には沈線が施されている。地文はL Rの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P73 20% P.155 覆土 堀之内I式
		B (21.0)			
3	深鉢 縄文土器	A (26.4)	胴部から口縁部の破片。胴部中位はわずかに内彎する。口縁部は外反する。口縁部に突起を有し, 口縁部に施された断面三角形の稜帯とつながる部分に円形肉突起が施されている。胴部はL Rの単節縄文を地文に, 長方形の沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 にぶい青褐色 普通	P72 20% P.155 覆土 堀之内I式
		B (18.6)			
第403図 4	深鉢 縄文土器	A (19.0)	胴部から口縁部の破片。小突起を有し, 口縁部には沈線が施され, 小突起の下に円形肉突起が施されている。胴部はL Rの単節縄文を地文に, 縦半文型文及び斜位の沈線が施されている。	砂粒 暗赤褐色 普通	P70 15% P.155 覆土 堀之内I式
		B (14.6)			
5	深鉢 縄文土器	A (18.4)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。蓋頂部直下に孔をもち, 口縁部部に沈線が施されている。胴部にはL Rの単節縄文を地文に, キズミを有する座帯及び沈線による文様が施されている。	砂粒・石英・長石 灰青褐色 普通	P71 15% P.155 覆土 堀之内I式
		B (24.1)			
6	深鉢 縄文土器	B (9.8)	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し, 胴部は外傾して立ち上がる。単文である。	砂粒 にぶい青褐色 普通	P74 10% P.155 覆土 堀之内I式
		C 10.2			
7	深鉢 縄文土器	B (4.7)	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し, 胴部は外傾して立ち上がる。単文である。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P75 10% P.155 覆土 堀之内I式
		C 7.0			

図版番号	器種	計測部(m)			重量 (g)	残存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第403図15	土器片円盤	4.9	3.8	0.8	(19.0)	95	単節縄文L R。	D P15 覆土



第402图 第2401号土坑·出土物实测图(1)



第403图 第2401号土坑出土文物实测图(2)

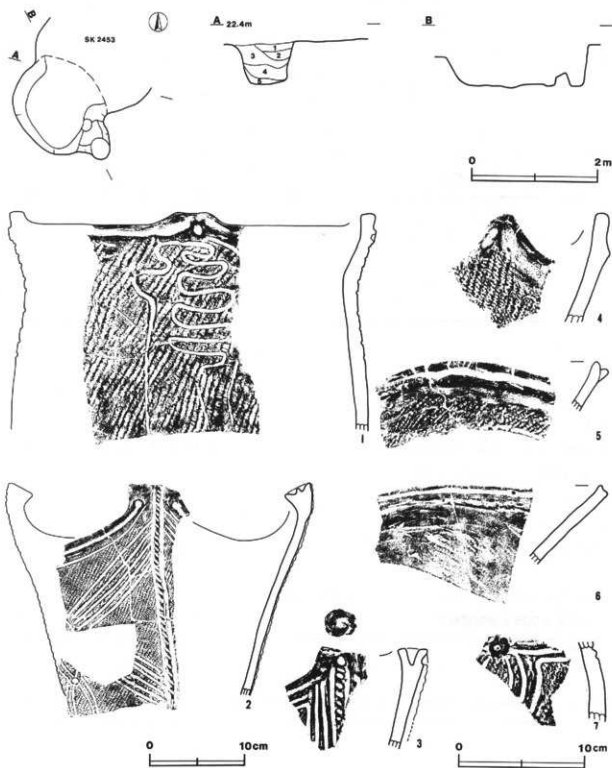
第2408号土坑（第404図）

位置 調査区の南東部，D14fs区。

重複関係 北側部分で第2453号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.53m，短径〔1.13〕mの楕円形と推定され，深さは85cmである。

長径方向 N-47°-E



第404図 第2408号土坑・出土遺物実測図

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 はほぼ平坦である。

覆土 5層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック(1層よりやや大きめ)・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片308点が出土している。第404図1・2の深鉢の口縁部は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は波状口縁の波頂部で、LRの単節縄文を地文に沈線及びキザミをもつ隆帯が垂下している。4・5は混入したもので、LRの単節縄文が施されている。6は無文の浅鉢で、口唇部に浅い沈線が施されている。7は深鉢の胴部片で、LRの単節縄文を地文に沈線及び円形の突起が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉(瀬之内I式期)と考えられる。

第2408号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	深鉢 縄文土器	A (28.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部には小突起を有し、突起下には円形斜突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に沈行沈線が施されている。	砂粒・灰石 にぶい褐色 普通	P78 10% P L58 覆土 瀬之内I式
		B (17.4)			
2	浅鉢 縄文土器	A (32.0)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。胴部に褐色文が施された突起を有し、口縁部部に沈線及び円形斜突文を有する沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文にキザミをもつ隆帯が施され、沈線が斜位に施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P76 10% P L56 覆土 瀬之内I式
		B (22.7)			

第2415号土坑 (第405図)

位置 調査区の南東部、D14g0区。

重複関係 第429号住居跡の西側部分を掘り込み、南東部分を第2435号土坑と第2463号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.60mの円形と推定され、深さは33cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

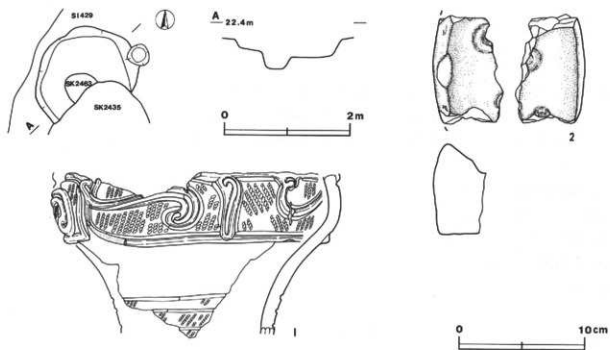
遺物 縄文土器片4点、石皿片1点、獣骨片が出土している。第405図1の深鉢の口縁部片及び2の石皿片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第2415号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	深鉢 縄文土器	B (13.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯及び沈線と褐色文及び区画文を有し、区画内にLRの単節縄文が施されている。器形は無文で、胴部にはLRの単節縄文を地文に横位の沈線が施されている。	砂粒・灰石 赤褐色 普通	P78 20% P L58 覆土 加曾利E I式

図版番号	器種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第405図2	石皿	8.6	7.2	5.6	(34.0)	安山岩	Q15 覆土 四石集用



第405図 第2415号土坑・出土遺物実測図

第2418号土坑（第406図）

位置 調査区の南東部，D14h8区。

重複関係 北西部分で第2417号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

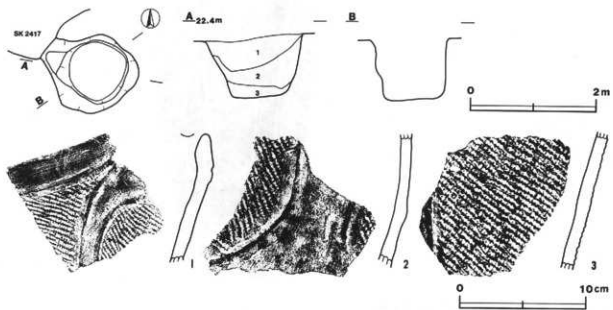
規模と平面形 長径1.50m，短径1.28mの不整楕円形で，深さは98cmである。

長径方向 N-70°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第406図 第2418号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

**遺物** 縄文土器片59点が出土している。第406図1は深鉢の口縁部片で、R Lの単節縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。2・3は深鉢の胴部片で、L Rの単節縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第2427号土坑（第407図）

**位置** 調査区の南東部，D14i6区。

**重複関係** 東側部分で第2470号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 径0.76mの円形で，深さは28cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底** 平坦である。

**覆土** 2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

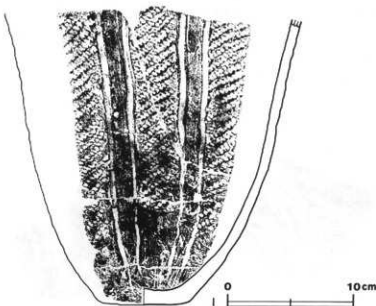
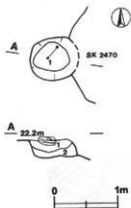
- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

**遺物** 縄文土器片2点が出土している。第407図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

**所見** 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。

第2427号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計面積 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第407図 1	深 鉢 縄文土器	A (23.5) B (23.1)	底部から胴部の破片。底部は小さく，胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。胴部はR Lの単節縄文を地文に，2本沈線の巻消垂奏文が施されている。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	F79 60% PL56 覆土 加曾利E II式



第407図 第2427号土坑・出土遺物実測図



### 第2429号土坑（第408図）

位置 調査区の南東部，D15h<sub>2</sub>区。

重複関係 第2506号土坑を掘り込んでいる。北側部分で第2477号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.96m，短径0.85mの楕円形で，深さは96cmである。

長径方向 N-48°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

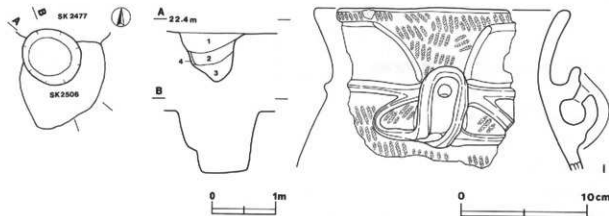
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量

遺物 縄文土器片35点が出土している。第408図1の広口壺の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

#### 第2429号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	広口壺 縄文土器	A 20.4 B 12.7	胴部から口縁部の破片。頸部はくびれている。地文はRLの単筋縄文で，口縁部に沈線による管溝部を作っている。口縁部と胴部は隆帯により区画され，隆帯は胴部の環状把手につながる。把手には孔があり，細線彫刻による区画文が施されている。	砂粒 にふい褐色 普通	P80 10% P156 覆土 加曾利EⅣ式



第408図 第2429号土坑・出土遺物実測図

### 第2432号土坑（第409図）

位置 調査区の南東部，D14j<sub>0</sub>区。

重複関係 第422号住居跡の東側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.86m，短径0.90mの不定形で，深さは106cmである。

長径方向 N-26°-W

壁 段状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は北西部に位置し，長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは75cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

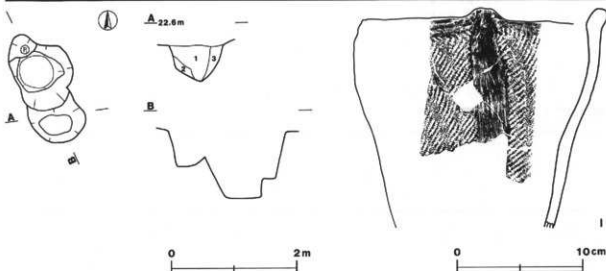
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量  
 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック中量  
 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量

遺物 縄文土器片66点が出土している。第409図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第2432号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	深鉢 縄文土器	A (18.8) B (17.4)	胴部から口縁部の破片。胴部のくびれは深い。小波状口縁で、口縁部に無文帯をもつ。小波頂部から、隆起起線による幅広の遊須壺垂文が施されている。底文はR Lの単節縄文である。	砂粒・スコリアにぶい赤褐色 覆土 普通	P81 30% PL56 覆土 加曾利E IV式



第409図 第2432号土坑・出土遺物実測図

第2433号土坑（第410図）

位置 調査区の南東部，D15g2区

重複関係 東側部分で第2441号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.95m，短径(0.77)mの楕円形と推定され、深さは64cmである。

長径方向 N-69°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

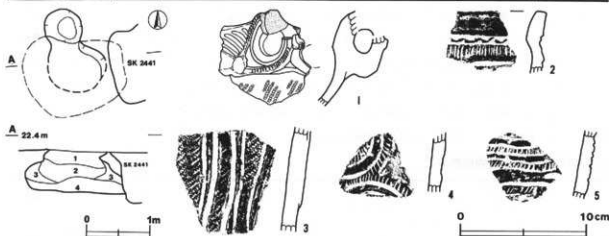
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物中量  
 3 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量  
 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 縄文土器片176点が出土している。第410図1は深鉢の把手を有する口縁部片で、覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、交互刺突文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はR Lの単節縄文を地文に沈線及び隆帯による懸垂文が施され、隆帯上にもR Lの単節縄文の縄文が充填されている。4は隆帯にキザミが施され、隆帯に沿って沈線が施されている。5は横位の沈線間にキザミが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2433号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	深鉢 縄文土器	B (7.7)	皿縁状把手を有する口縁部片。孔に沿ってキザミ及び沈線が施されている。 地文はR Lの半跗縄文である。	灰石・石英・雲母 褐色 普通	P.382 2% 覆土 中鉢式



第410図 第2433号土坑・出土遺物実測図

第2444号土坑 (第411・412図)

位置 調査区の南東部, D15g2区。

重複関係 第2445号土坑に掘り込まれている。南東部分で第2443号土坑, 第2447号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

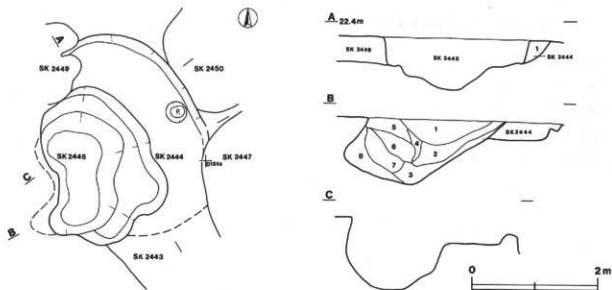
規模と平面形 径[2.30]mの円形と推定され, 深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は東壁際に位置し, 径38cmの円形で, 深さは41cmである。

覆土 1層である。



第411図 第2444・2445号土坑実測図

土層解説

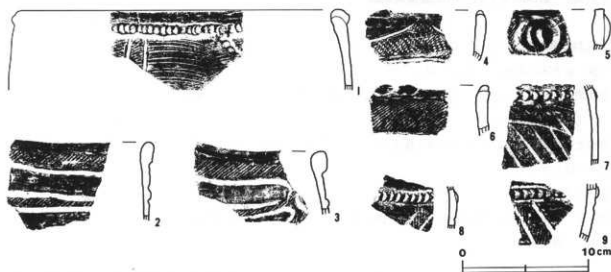
1 褐色 ロームブロック多量

**遺物** 縄文土器片526点が出土している。第412図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。2～6は深鉢の口縁部片である。2・3はL Rの単節縄文の隆起手法の縄文帯に沿って浅い沈線が施されている。4・6は混入した可能性がある。4はR Lの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施され、口唇部にコブ状突起が付されている。6はL Rの単節縄文で、口唇部にコブ状突起が付されている。5はR Lの単節縄文で、大形のブタ鼻状突起が付されている。7～9は深鉢の胴部片である。7は押圧文をもつ紐線文が施され、以下に条線文が斜行している。8は押圧文をもつ紐線文が施され、以下にL Rの単節縄文の沈線手法による帯縄文が施されている。9は押圧文をもつ紐線文が施され、沈線手法によるR Lの単節縄文の縄文帯及び条線文が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。

第2444号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第412図 1	深 鉢 縄文土器	A (33.0) B (8.5)	口縁部片。口縁部に押圧文を有する紐線文が貼り付けられている。胴部には横位の条線文及び2本単位の沈線文が施され、沈線間にR Lの単節縄文が充填されている。	粉粒・スコリア 褐色 普通	P83 10% 覆土 安行2式



第412図 第2444号土坑出土遺物実測図

第2445号土坑（第411・413図）

**位置** 調査区の南東部，D15g2区。

**重複関係** 第2444号土坑を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 長径1.95m，短径0.91mの不定形で，深さは120cmである。

**長径方向** N-90°-W

**壁** はほぼ垂直に立ち上がる。

**底** 皿状である。

**覆土** 8層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                     |      |                      |
|--------|---------------------|------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 褐色 | ロームブロック微量            |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量            |
| 3 褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 7 褐色 | ロームブロック少量。6層より色調が明るい |
| 4 褐色   | ロームブロック少量           | 8 褐色 | ロームブロック微量。7層より色調が明るい |

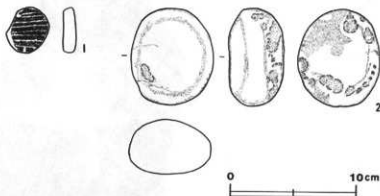
遺物 縄文土器片381点, 土器片円盤1点及び磨石1点が出土している。第413図1の土器片円盤と2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

#### 第2445号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第413図1	土器片円盤	3.7	3.3	1.0	(14.0)	95	糸織文。	DP17 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第413図2	磨石	7.7	6.5	4.6	(315.0)	安山岩	Q16 覆土



第413図 第2445号土坑出土遺物実測図

#### 第2446号土坑 (第414図)

位置 調査区の南東部, D14e0区。

重複関係 第434号住居跡の南側部分を掘り込んでいる。北側部分で第2503号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.06mの円形で, 深さは105cmである。

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は北東壁際に位置し, 長径55cm, 短径38cmの楕円形で, 深さは50cmである。P<sub>2</sub>は北側に位置し, 長径42cm, 短径34cmの楕円形で, 深さは18cmである。

覆土 4層に分層され, 覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 2層より色調が明るい
- 4 褐色 ロームブロック少量

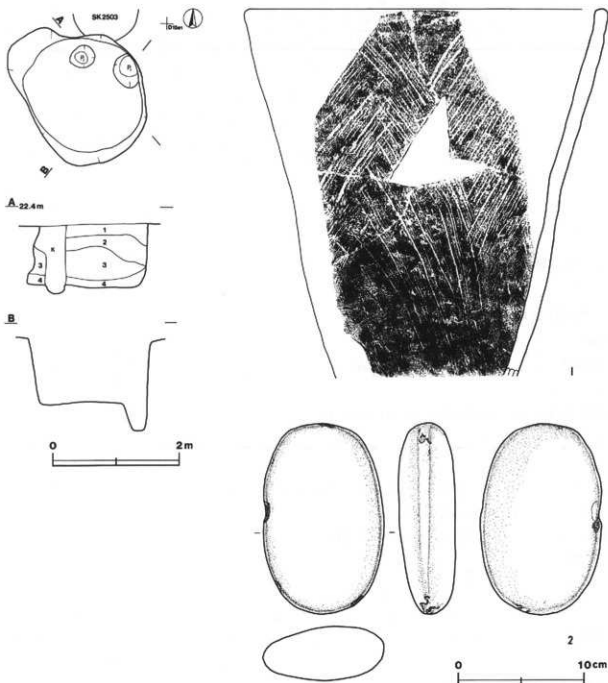
遺物 縄文土器片203点, 蔽石1点が出土している。第414図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の蔽石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2446号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第414図 1	深鉢 縄文土器	A [28.6] B (29.3)	胴部から口縁部の破片。胴部は直線的に立ち上がる。斜行する条線文が施されている。	砂粒 灰褐色 普通	F84 25% PL56 覆土 堀之内I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第414図2	磁石	15.3	9.6	4.5	(1,030.0)	安山岩	Q17 覆土



第414図 第2446号土坑・出土遺物実測図

### 第2451号土坑 (第415図)

位置 調査区の南東部, D14d0 区。

重複関係 第2520号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径 [1.88]mの円形と推定され、深さは63cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 炭化物多量

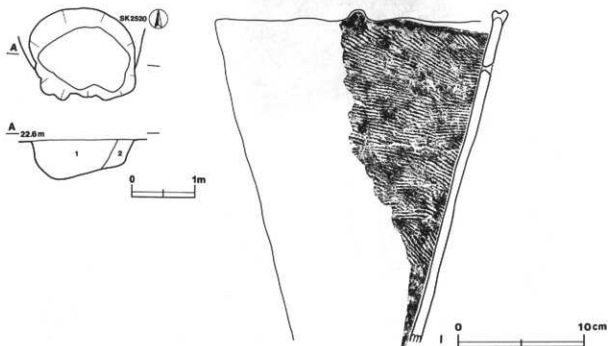
2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 縄文土器片490点が出土している。第415図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

#### 第2451号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	深鉢 縄文土器	A [22.6] B (26.4)	胴部から口縁部の破片。口縁端部に小突起を有し、胎文は無彫縄文である。 補修孔がある。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	F85 30% P L56 覆土 堀之内I式



第415図 第2451号土坑・出土遺物実測図

### 第2456号土坑 (第416図)

位置 調査区の南東部, D14f9 区。

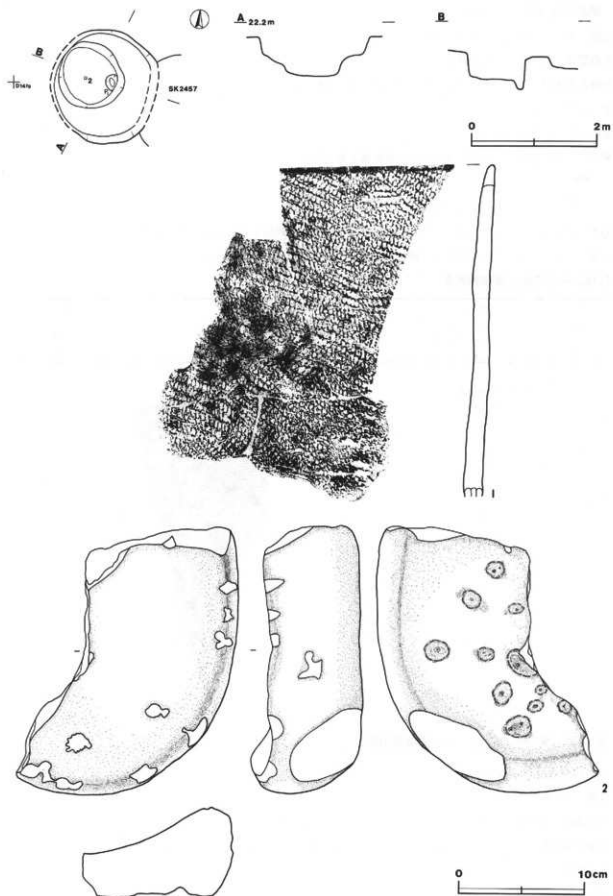
重複関係 東側部分で第2457号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.80m, 短径 [1.70]mの楕円形と推定され、深さは62cmである。

長径方向 N-0°

壁 段状に立ち上がる。

底 平坦である。



第416图 第2456号土坑·出土遗物实测图



ピット 1か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、長径23cm、短径18cmの楕円形で、深さは28cmである。

遺物 縄文土器片286点、石皿1点及び不明石器1点が出土している。第416図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で、RLの単節縄文が施されている。2の石皿は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

#### 第2456号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第416図2	石 皿	(21.2)	(17.7)	7.1	(2920.0)	安 山 岩	Q18 覆土 西石敷用

#### 第2459号土坑（第417図）

位置 調査区の南東部，D14f9区。

重複関係 北側部分で第2458号土坑と、南側部分で第2518号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.25m、短径1.08mの楕円形と推定され、深さは53cmである。

長径方向 N-8°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は北東部に位置し、径23cmの円形で、深さは58cmである。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

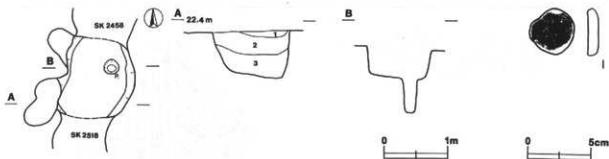
- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子微量、炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片315点及び土器片円盤1点が出土している。第417図1の土器片円盤は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

#### 第2459号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値(cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第417図1	土器片円盤	3.6	3.4	0.8	(13.0)	95	無文。	DP16 覆土

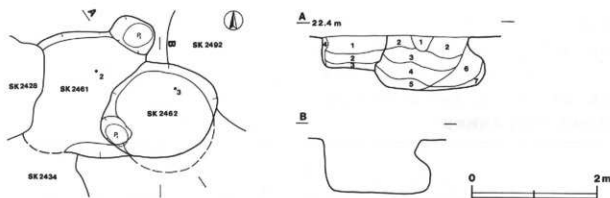


第417図 第2459号土坑・出土遺物実測図

#### 第2461号土坑（第418図）

位置 調査区の南東部，D15f1区。

重複関係 東側部分で第2462号土坑を掘り込んでいる。南側部分で第2434号土坑と、西側部分で第2428号土坑



第418図 第2461・2462号土坑実測図

とそれぞれ重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.95mの円形と推定され、深さは40cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は北東壁際に位置し、長径72cm、短径48cmの楕円形で、深さは52cmである。

覆土 4層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

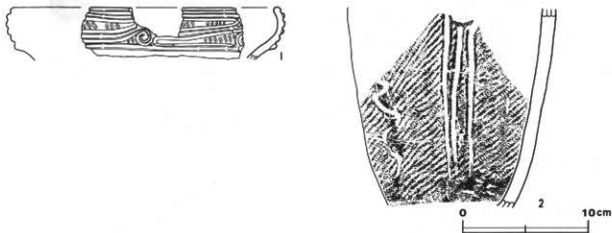
- |         |                |      |                      |
|---------|----------------|------|----------------------|
| 1 褐色    | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量            |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック少量      | 4 褐色 | ロームブロック少量、3層より色調が明るい |

遺物 縄文土器片2点が出土している。第419図1の深鉢の口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2461号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第419図 1	深鉢 縄文土器	A (20.8) B (4.1)	口縁部片。口縁周部に沈線が施されている。口縁部には隆帯による区画文及び渦巻文が施され、区画内にはR Lの準筋縄文が光線されている。胴部は無文である。	砂粒・長石・雲母にふい赤褐色 普通	P86 5% PL56 覆土 加曾利E I式
2	深鉢 縄文土器	B (15.8)	胴部片。胴部下位がわずかに内彎する。R Lの準筋縄文を地文に、沈線による型垂文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・石英・スコリアにふい赤褐色 普通	P87 10% PL56 覆土 加曾利E I式



第419図 第2461号土坑出土遺物実測図

### 第2462号土坑（第418図）

位置 調査区の南東部，D15f1区。

重複関係 第2461号土坑に掘り込まれている。北東部分で第2492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.92m，短径1.54mの楕円形で，深さは86cmである。

長径方向 N-23°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は南西壁際に位置し，長径52cm，短径37cmの楕円形で，深さは36cmである。

覆土 7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

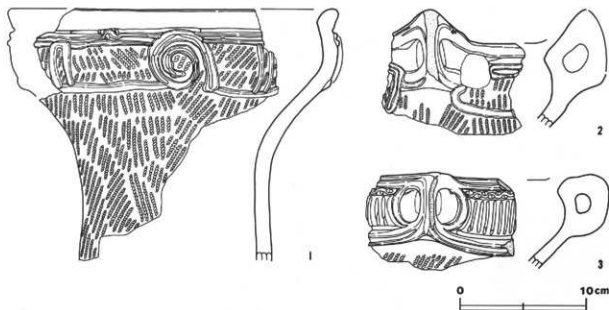
土層解説		4	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
1	褐色	ローム粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量	7	褐色	ローム粒子少量，1層より明るい

遺物 縄文土器片181点が出土している。第420図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。1と2は接合しないが，同一個体の可能性がある。3の深鉢の口縁部片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E1式期）と考えられる。

#### 第2462号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第420図 1	深鉢 縄文土器	A (25.6)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で，口縁部上位に沈線が施され部分的に沈線に沿って交互刺突文がみられる。口縁部にはR.Lの単節縄文を地文に，粗く貼り付けられた隆帯で褐色文及び区画文が施されている。隆帯に沈線が施されている部分がみられる。	砂粒・長石・雲母 普通	F88A 40% PL56 覆土 加曾利E1式併行
		B (22.9)			
2	深鉢 縄文土器	B (9.2)	口縁部片。縄文及び沈線の施された把手を有する。R.Lの単節縄文を地文に，粗く貼り付けられた隆帯により区画文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	F88B 5% PL56 覆土 加曾利E1式併行



第420図 第2462号土坑出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 3	深鉢 縄文土器	B (7.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。環状把手を有する。口縁端部に沈線が施され、把手につながる。口縁部は隆帯及び沈線により区画され、区内に交互斜交文及び縦位の沈線が施されている。口縁部と胴部は把手から続く沈線の施された厚い隆帯で区画され、胴部にはR Lの単純縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 に多い褐色 普通	F89 5% PL57 覆土 加曾利E I式

### 第2465号土坑（第421図）

位置 調査区の南東部，D15h4区。

重複関係 第2464号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.95m，短径〔1.18〕mの楕円形と推定され、深さは65cmである。

長径方向 N-4°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

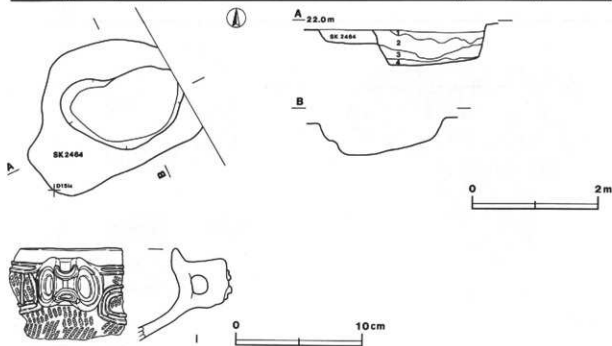
- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・炭土粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

遺物 縄文土器片85点が出土している。第421図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

### 第2465号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	深鉢 縄文土器	B (7.3)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。環状把手を有する。把手先端に沈線の施されたリ字状の隆帯が取り付けられている。口縁部は沈線の施された隆帯で、文様を施している。地文はR Lの単純縄文である。	砂粒・雲母・ スコリア に多い赤褐色 普通	F90 5% 覆土 加曾利E I式



第421図 第2465号土坑・出土遺物実測図

### 第2468号土坑（第422図）

位置 調査区の南東部，D14e0区。

重複関係 第2469号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2470号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.33m，短径1.90mの不整楕円形で，深さは74cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は北壁際に位置し，径26cmの円形で，深さは20cmである。

覆土 4層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

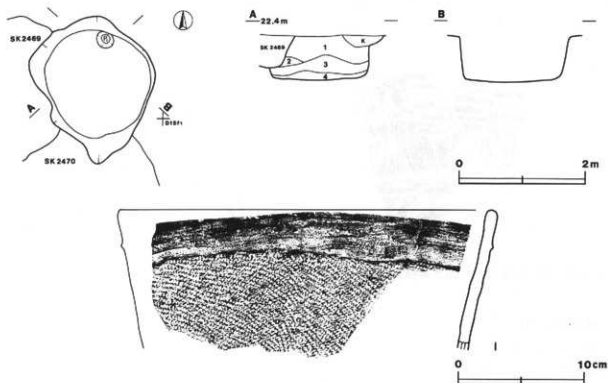
- |   |     |                 |
|---|-----|-----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | 炭化物少量           |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 4 | 褐色  | ローム粒子・ロームブロック中量 |

遺物 縄文土器片14点が出土している。第422図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EIV式期）と考えられる。

#### 第2468号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	深鉢 縄文土器	A (29.0) B (11.1)	胴部から口縁部の破片。胴部から口縁部にかけて外傾する。口縁部に微隆起縞文を巡らして，無文帯を作っている。胴部はR.Lの準彫縄文を施している。	砂粒・長石にふいば色普通	P91 10% P.L57 覆土 加曾利EIV式



第422図 第2468号土坑・出土遺物実測図

### 第2472号土坑（第423図）

位置 調査区の南東部，D15e2区。

規模と平面形 長径1.51m，短径1.35mの楕円形で，深さは50cmである。

長径方向 N-15°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し，径36cmの円形で，深さは15cmである。

覆土 5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

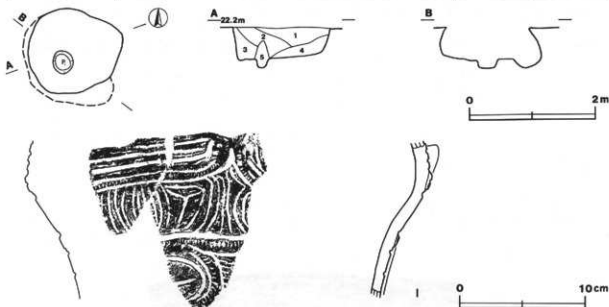
- |   |       |                            |
|---|-------|----------------------------|
| 1 | 褐色    | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材中量，炭化物微量 |
| 2 | 褐色    | ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化材少量     |
| 3 | にぶい褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック多量         |
| 4 | にぶい褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量           |
| 5 | 褐色    | ローム粒子中量，ローム小ブロック多量         |

遺物 縄文土器片12点が出土している。第423図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

#### 第2472号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	深鉢 縄文土器	B (13.1)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内唇する。口縁部から胴部にかけて，キザミが施された強帯により文様が描かれている。区画文内には沈線文を施している。	砂粒・窯母 黒褐色 普通	PR2 10% PL57 覆土 中幹式



第423図 第2472号土坑・出土遺物実測図

### 第2474号土坑（第424図）

位置 調査区の南東部，D15g1区。

重複関係 第432号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.32m，短径1.20mの楕円形で，深さは84cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、径47cmの円形で、深さは59cmである。

覆土 8層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

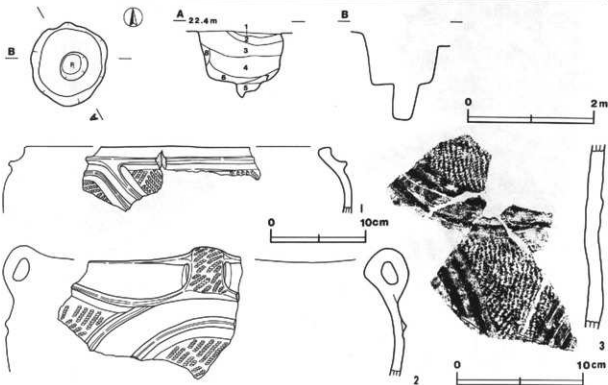
1 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子多量	5 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 明褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子多量	6 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
3 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材少量	7 にぶい褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
4 褐色	ローム粒子微量、ローム中ブロック少量	8 にぶい褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片133点が出土している。第424図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で、R Lの単筋縄文を地文とし、2本一組の微隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2474号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1	深鉢 縄文土器	A [30.7] B (7.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部にはR Lの単筋縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P93 5% P.L57 覆土 加曾利EⅢ式
2	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (10.1)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。縄文の施された把手を有する。胴部には微隆起線の磨消帯が施されている。縄文はR Lの単筋縄文である。	砂粒・長石・雲母 棕色 普通	P94 5% P.L57 覆土 加曾利EⅢ式



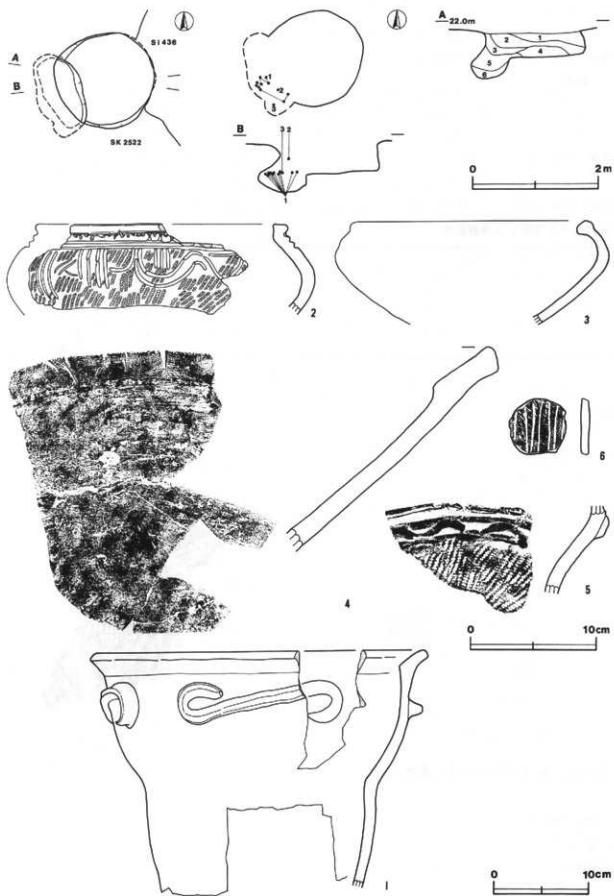
第424図 第2474号土坑・出土遺物実測図

第2475号土坑（第425図）

位置 調査区の南東部、D14d9区。

重複関係 第436号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2522号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.57mの円形で、深さは50cmである。



第425图 第2475号土坑·出土遗物实测图



號 袋状である。

底 平坦である。南西壁際に大形ビットがある。

覆土 6層に分層され、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |      |                       |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色  | ローム粒子・ロームブロック微量、炭化物中量 |
| 2 | 暗褐色  | ローム粒子・炭化物少量           |
| 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子既証、焼土粒少量         |
| 4 | 褐色   | ローム粒子、ロームブロック少量       |
| 5 | 暗褐色  | ローム粒子微量、焼土粒少量         |
| 6 | 暗褐色  | ローム粒子少量               |

遺物 縄文土器片101点、土器片円盤1点が出土している。第425図1～3の深鉢や鉢の胴部から口縁部の破片は覆土中層から下層にかけて出土している。6の土器片円盤は覆土から出土している。4は浅鉢の口縁部破片で、無文である。5は深鉢の胴部破片で、2本の沈線を施し、その上から微隆帯を波状に貼り付けている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（中群式期）と考えられる。

第2475号土坑出土遺物観察表

図像番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第425図 1	深鉢 縄文土器	A (33.4)	胴部から口縁部の破片。胴部はくびれて、口縁部は外反する。口縁部には、1部粒状指定される厚みのある横5本位の隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・長石・石英 雲母 にふいふ赤褐色 普通	P95 40% P.L57 覆土下層 中群式
		B (23.4)			
2	深鉢 縄文土器	A (20.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外に膨らむ。口縁部には、側支及び2本条の横位の沈線が施されている。胴部にはR.Lの線刻縄文を施文に山形沈線文および縦位の沈線が施されている。	砂粒 にふいふ赤褐色 普通	P96 10% P.L57 覆土中層 中群式
		B (7.2)			
3	鉢 縄文土器	A (18.0)	胴部から口縁部の破片。胴部上段で外側に大きく張り出し内彎する。口縁部には微隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・石英・雲母 にふいふ赤褐色 普通	P97 10% P.L57 覆土下層
		B (8.8)			

図像番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	残存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	高さ				
第425図6	土器片円盤	4.5	4.5	0.7	(20.0)	95	素縄文。	D.P.18 覆土

第2486号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部、D15e1区。

規模と平面形 長径1.11m、短径0.90mの楕円形で、深さは40cmである。

長径方向 N-31°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

ビット 1か所。P<sub>1</sub>は南東壁際に位置し、径21cmの円形で、深さは54cmである。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

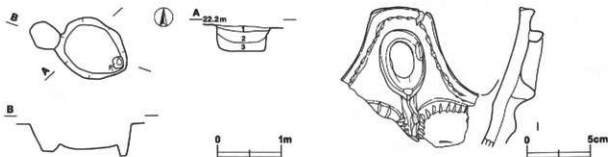
- |   |     |                           |
|---|-----|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子・焼土粒少量、ローム小ブロック中量    |
| 3 | 褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量          |

遺物 縄文土器片20点が出土している。第426図1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部破片で覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台田式期）と考えられる。

### 第2486号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・産成	備 考
第426図 1	深鉢 縄文土器	B (11.0)	流状口縁。底部に薄く隆帯を巡らして、隆帯に沿ってペン先状工具による押引き刺突文が施されている。把手中央の0字状の隆帯の下に蛇行する隆帯を垂下させている。隆帯に沿って乱形文が施されている。	砂粒・雲母 灰黄褐色 軽濁	P18 5% PL57 覆土 阿玉台墓式



第426図 第2486号土坑・出土遺物実測図

### 第2492号土坑 (第427図)

位置 調査区の南東部, D15f1区。

重複関係 北側部分で第2512号土坑と, 南西部分で第2462号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.90m, 短径2.50mの楕円形で, 深さは35cmである。

長径方向 N-38°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P1は南側に位置し, 長径66cm, 短径46cmの楕円形で, 深さは86cmである。P2は西壁際に位置し, 長径56cm, 短径(46)cmの不整形で, 深さは35cmである。

覆土 2層に分層され, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量

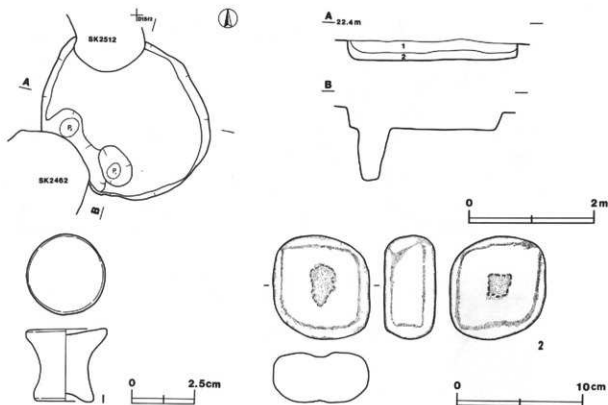
遺物 縄文土器片66点, 土製耳飾り1点, 磨石1点が出土している。第427図1の土製耳飾り, 2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

### 第2492号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値(cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形 状 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第427図1	土製耳飾り	3.2	2.4	2.9	(20.0)	95	無穿孔。ラッパ状。	D P20 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長 さ(cm)	幅(cm)	厚 さ(cm)	重量(g)		
第427図2	磨 石	8.1	7.7	4.4	(456.0)	安山岩	Q20 覆土 凹石兼用



第427図 第2492号土坑・出土遺物実測図

第2493号土坑 (第428・429図)

位置 調査区の南東部, D15e1区。

重複関係 第433号住居跡を掘り込み, 第439号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長径2.35m, 短径[2.02]mの楕円形と推定され, 深さは54cmである。

長径方向 N-20°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

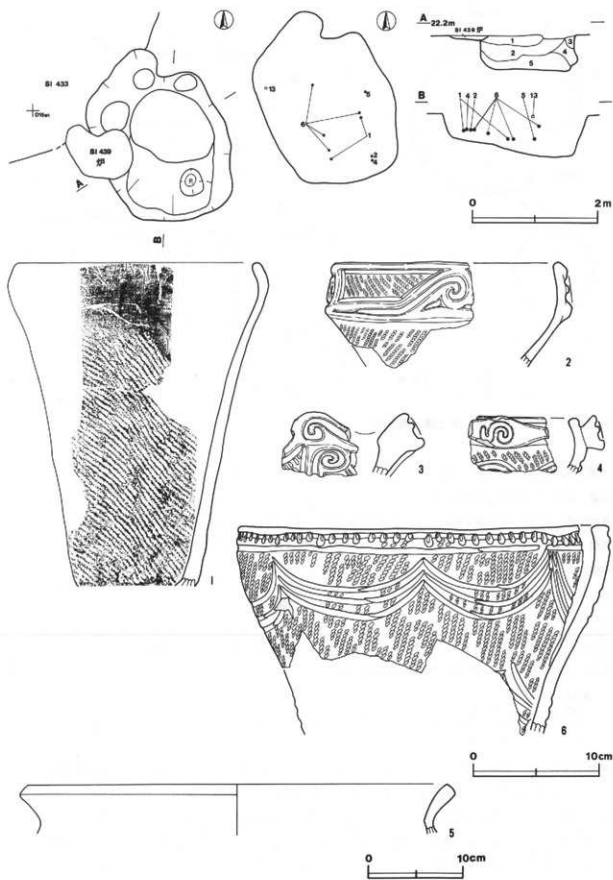
ピット 1か所。P<sub>1</sub>は南東部に位置し, 長径43cm, 短径35cmの楕円形で, 深さは23cmである。

覆土 5層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

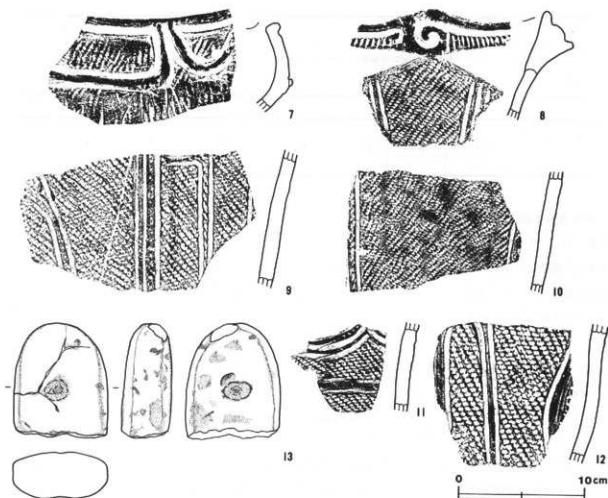
土層解説

- |       |             |      |                 |
|-------|-------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量     | 4 褐色 | ローム粒子少量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 5 褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量     |      |                 |

遺物 縄文土器片407点, 敲石1点, 獣骨片が出土している。第428図3～5の深鉢と浅鉢の口縁部片, 1・2・6の深鉢の胴部から口縁部の破片, 第429図13の敲石は覆土から出土している。7・8は深鉢の口縁部から胴部の破片で, LRの単節縄文を地文に長方形区画文及び三角形区画文が隆帯で施され, 隆帯に沿って沈線が施されている。8は波頂部に隆帯で渦巻文を描き, 幅狭の口縁部に縦位の沈線文が施されている。胴部はRLの単節縄文を地文に幅の狭い沈線による3本1組の磨消懸垂文が施されている。9～12は深鉢の胴部片である。9は2本あるいは3本単位の沈線を垂下させ, 沈線間を磨り消している。10はRLの単節縄文を地文とし, 沈線を垂下させ沈線間を磨り消している。11はLRの単節縄文を地文とし, 2本単位の沈線が横位沈線による連



第428图 第2493号土坑·出土遗物实测图(1)



第429図 第2493号土坑出土遺物実測図(2)

弧文を施し、沈線間を磨り消している。12は複節縄文を地文に2本単位の沈線による懸垂文及び蛇行沈線が施され、沈線間を磨り消している。獣骨はイノシシとシカである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。

第2493号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	深鉢 縄文土器	A (19.2) B (25.7)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文はR Lの単節縄文で、口縁部に無文をもつ。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P99 30% P L57 覆土 加曾利EⅡ式
2	深鉢 縄文土器	A (17.4) B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により区画文及び褐色文が施され、地文としてR Lの単節縄文が施されている。胴部の地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・長石 にふい赤褐色 普通	P100 10% P L57 覆土 加曾利EⅡ式
3	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。波状口縁。波頂部に隆帯による褐色文が施された突起を有し、突起から続く隆帯によりその直下に褐色文が施されている。	砂粒・赤色粘土 褐色 普通	P101 2% 覆土 加曾利EⅡ式
4	深鉢 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部上位に沈線による褐色文が施された隆帯を有している。口縁部には隆帯による文様が施され、地文としてR Lの単節縄文が施されている。	砂粒 にふい赤褐色 普通	P102 2% 覆土 加曾利EⅡ式
5	浅鉢 縄文土器	A (46.4) B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反する。無文である。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P103 10% P L58 覆土 加曾利EⅡ式

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・造成	備 考
第428図 6	深鉢 縄文土器	A (29.6) B (16.8)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で、地文はR Lの単節縄文である。口縁部部の沈線間に円形刺突文が施されている。胴部は3本の沈線により通風文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア に多い褐色 普通	P155 10% P L57 覆土 加曾利EⅡ式 普通

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図13	観 石	(9.3)	7.5	4.0	(423.0)	安山岩	Q21 覆土 隠石兼用

### 第2495号土坑 (第430図)

位置 調査区の南東部, E15e2区。

規模と平面形 長径(1.62)m, 短径(0.54)mの楕円形と推定され, 深さは69cmである。

長径方向 [N-35°-W]

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

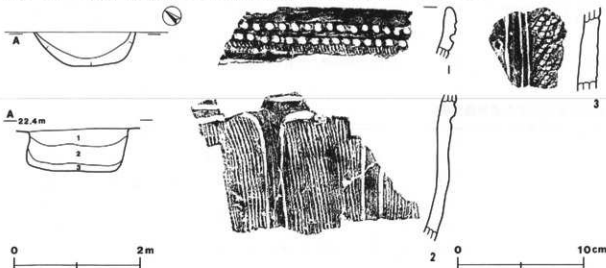
覆土 3層に分層され, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物微量
- 3 に近い褐色 ローム粒子・炭化物少量, ローム中ブロック中量

遺物 縄文土器片32点が出土している。第430図1は深鉢の口縁部片で, 円形刺突文を施している。地文は燃糸文である。2・3は深鉢の胴部片で, 2は燃糸文を地文に沈線で逆U字状に区画し, 沈線間を磨り消している。3はR Lの単節縄文を地文とし, 幅の狭い沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

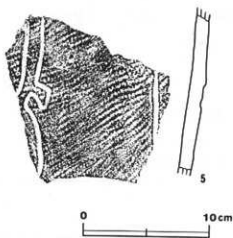
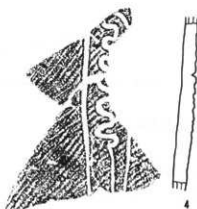
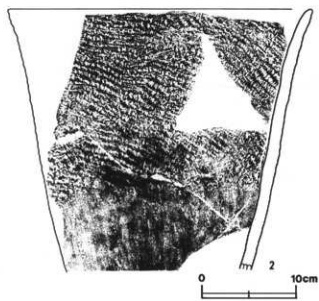
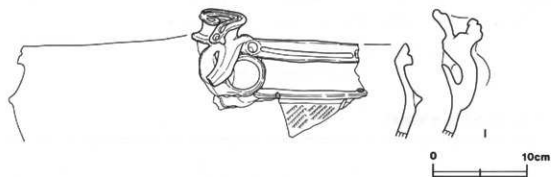
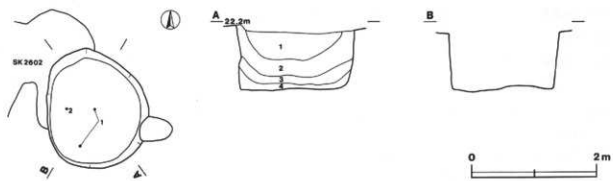


第430図 第2495号土坑・出土遺物実測図

### 第2497号土坑 (第431図)

位置 調査区の南東部, E15b6区。

重複関係 北西部で第2602号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。



第431图 第2497号土坑·出土遗物实测图

規模と平面形 長径1.91m, 短径1.62mの楕円形で、深さは91cmである。

長径方向 N-14°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量、炭化粒少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片580点が出土している。第431図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で、LRの単節縄文を地文として、沈線及び凹形刺突文が施されている。4・5は深鉢の胴部片で、LRの単節縄文を地文に懸垂文及び蛇行沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（彌之内I式期）と考えられる。

第2497号土坑出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第431図 1	深鉢 縄文土器	A [40.0]	胴部から口縁部の破片。口縁部は内層する。口縁部に凹形刺突及び沈線の 施された把手をもつ。口縁部は、沈線及び凹形刺突が施された胎土により 区別されている。区面内は灰文である。胴部には無節縄文が施されている。	砂粒・長石・ スコリア に多い黄色 普通	P104 20% P L53 覆土 彌之内I式
		B [13.0]			
2	深鉢 縄文土器	A [31.5]	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。胴部中央から口縁部 にかけてLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・懸垂 スコリア に多い褐色 普通	P105 20% P L58 覆土 彌之内I式
		B [27.0]			

第2498号土坑（第432図）

位置 調査区の南東部、D15g 3区。

規模と平面形 長径1.71m, 短径0.97mの不定形で、深さは77cmである。

長径方向 N-34°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

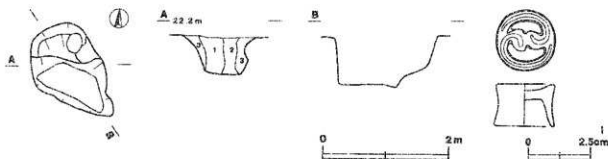
遺物 縄文土器片53点、土製耳飾り1点が出土している。第432図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2498号土坑出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	保存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第432図1	土製耳飾り	2.4	2.4	1.7	66.31	95	筒状、横5半弦文。	D P21 覆土





第432図 第2498号土坑・出土遺物実測図

第2499号土坑 (第433図)

位置 調査区の南東部, D14c0区。

重複関係 第436号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.92m, 短径1.53mの楕円形で, 深さは81cmである。

長径方向 N-30°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |         |                            |      |                            |
|---------|----------------------------|------|----------------------------|
| 1 褐色    | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量    | 4 褐色 | ローム粒子・炭化物少量, ローム中ブロック中量    |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック・炭化物中量       | 5 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量 |      |                            |

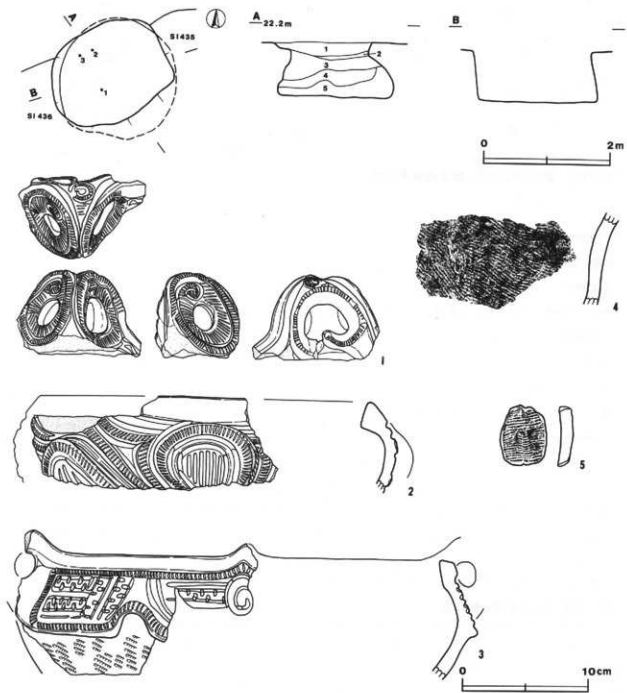
遺物 縄文土器片251点, 土器片鏝1点が出土している。第433図1の深鉢把手部分, 2の深鉢の口縁部片, 3の深鉢の胴部から口縁部の破片及び5の土器片鏝は覆土から出土している。4は深鉢の胴部片で, 地文はR.Lの単節縄文である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中時式期)と考えられる。

第2499号土坑出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図1	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	窪線状把手。孔に沿ってキザミをもつ縦帯が施されている。窪部には, キザミをもつ細い窪帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P105 5% 覆土 中時式伊行
2	深鉢 縄文土器	A (36.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。キザミをもつ縦帯により造した区画内に縦帯の沈線が施されている。区画外にはキザミをもつ深い窪帯が塗り付られている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P107 5% P.L58 覆土 中時式伊行
		B (7.6)			
3	深鉢 縄文土器	A (33.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に把手を有する。口縁部は区画文に沿って爪形文を施し, 沈線間に交互斜線による梯状と縦位の連続の字文が施されている。胴部には魚形縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 褐色 普通	P108 5% P.L58 覆土 中時式
		B (11.4)			

回収番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	保存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第433図5	土器片鏝	4.7	3.7	1.0	(25.0)	95	条線文。	D P22 覆土



第433图 第2499号土坑·出土遗物实测图

第2502号土坑（第434図）

位置 調査区の南東部，D15e1区。

重複関係 南側部分で第2512号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

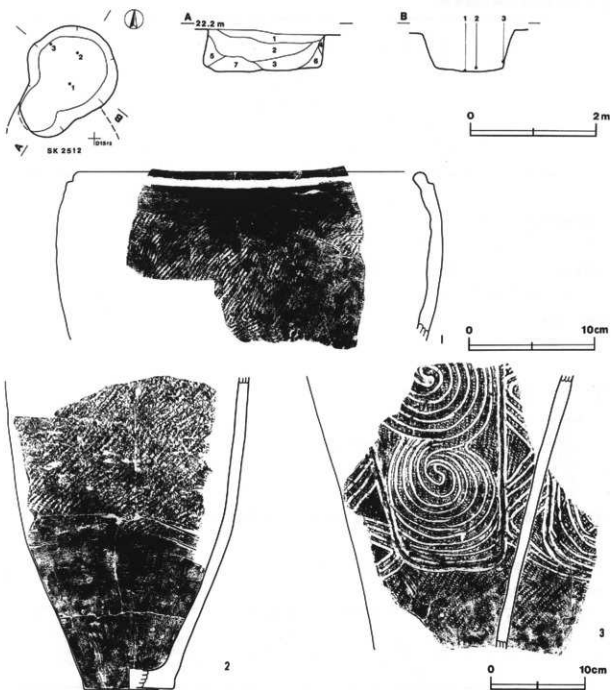
規模と平面形 長径1.86m，短径1.44mの不整楕円形で，深さは65cmである。

長径方向 N-47°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第434図 第2502号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
2	褐色	ローム粒中量・炭化物少量, ローム小ブロック中量
3	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量
4	にぶい褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
5	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
6	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量 (3層より掃まりが多い)
7	褐色	ローム粒中量, ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片486点が出土している。第434図1の深鉢の胴部から口縁部の破片, 2の深鉢の底部から胴部の破片, 3の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

## 第2502号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第434図 1	深鉢 縄文土器	A [27.4]	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎する。口縁部直下に沈線が施されている。胴部にはR.Lの早期縄文が施されている。	砂粒・灰石 にぶい褐色 普通	P110 10% P1.58 覆土 堀之内I式
		B [13.4]			
2	深鉢 縄文土器	A [32.5]	底部から胴部の破片。底部はわずかに楕に突出する。胴部は外傾して立ち上がり, 中位でわずかに内彎する。地文は早期縄文である。	砂粒 褐色 普通	P109 30% P1.58 覆土 堀之内I式
		C [9.8]			
3	深鉢 縄文土器	B [29.5]	胴部片。L.Rの早期縄文を地文に, 隆帯で此方形状に区画され, 区画内に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒 赤褐色 普通	P111 20% P1.58 覆土 堀之内I式

## 第2507号土坑 (第435図)

位置 調査区の南東部, D14b0区。

重複関係 第2508号土坑を掘り込み, 第2514号土坑に掘り込まれている。北西部で第2513号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.09mの円形と推定され, 深さは80cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され, 人為堆積と考えられる。

## 土層解説

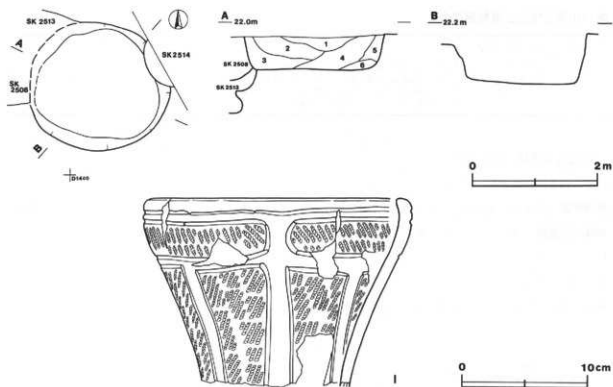
1	黒褐色	ローム粒子・炭化物少量
2	黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
3	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
4	豆褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子少量

遺物 縄文土器片57点及び獣骨が出土している。第435図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加賀野EⅢ式期)と考えられる。

## 第2507号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	深鉢 縄文土器	A [21.0]	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部直下に沈線が施され, 沈線による長楕円形状の区画内にR.Lの早期縄文が縦帯に充填されている。胴部は沈線で逆U字状の区画を施し, R.Lの早期縄文が縦帯に充填されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P112 30% P1.58 覆土 加賀野EⅢ式
		B [115.0]			



第435図 第2507号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑 (第436図)

位置 調査区の南東部, D1449区。

重複関係 第431号住居跡・第2524号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.43m, 短径0.37mの楕円形で, 深さは18cmである。

長径方向 N-0°

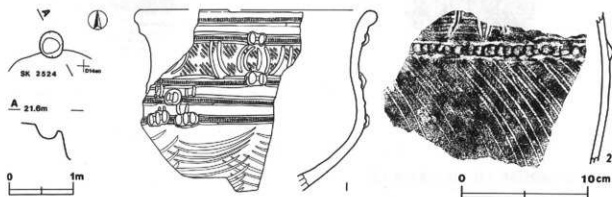
壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

遺物 縄文土器片8点が出土している。第436図1の台付鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

2は深鉢の胴部片で, 胴部に糸線文を斜行させ, 押圧文をもつ縦線文が巡らされている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期後葉(安行2式期)と考えられる。



第436図 第2510号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第436図 1	台付鉢 縄文土器	A (18.4) B (14.5)	胴部から口縁部の破片。胴部中で大きく膨らみ、口縁部はわずかに外反する。口縁部はブタ鼻状突起とキザミをもつ隆帯により文様帯を区画し、R.Lの車輪縄文を地文に弧状の沈線が施されている。胴部中にキザミをもつ隆帯を巡らし、下部には斜行する条縄文が施されている。	赤粒・黄母・スコリアにふい焼色 普通	F113 20% P.L.58 覆土 安行2式

第2512号土坑（第437図）

位置 調査区の南東部、D15e1区。

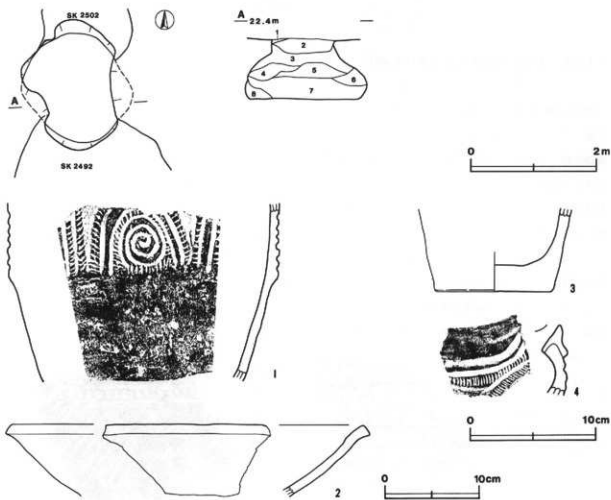
重複関係 北側部分で第2502号土坑と重複し、南側部分で第2492号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.73mの円形と推定され、深さは95cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 8層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。



第437図 第2512号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量
2 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	7 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

**遺物** 縄文土器片109点が出土している。第437図1の深鉢の胴部片、2の浅鉢の胴部から口縁部の破片、3の深鉢の底部片は覆土から出土している。4は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、キザミをもつ隆帯が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中鉢式期）と考えられる。

## 第2512号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・産地	備考
第437図 1	深鉢 縄文土器	B (14.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がり、肥厚してはけ巻面に立ち上がる。胴部にはキザミをもつ隆帯が垂直あるいは半円形状に施され、内側に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	F114 10% P.L58 覆土 中鉢式併行
2	浅鉢 縄文土器	A (37.0) B (7.6)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外傾し、口縁部は外反する。無文である。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	F115 10% 覆土 中鉢式
3	深鉢 縄文土器	B (6.7) C 9.2	底部片。底部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母 にふい黄褐色 普通	F116 10% P.L58 覆土

## 第2514号土坑（第438図）

**位置** 調査区の南東部、D14b0区。

**重複関係** 西側部分で第2507号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 径[1.23]mの円形と推定され、深さは102cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底** 掘鉢状である。

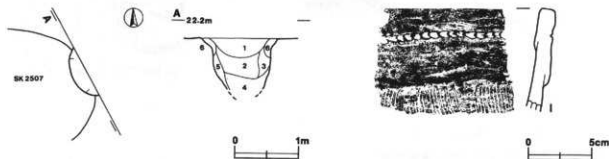
**覆土** 6層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子・炭化物微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化物少量	5 暗褐色	ローム粒子・ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子・ロームブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子・ロームブロック中量

**遺物** 縄文土器片48点、獣骨片が出土している。第438図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で、口縁部に結節沈線文が施され、胴部は縦位の条線文が施されている。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。



第438図 第2514号土坑・出土遺物実測図

### 第2515号土坑（第439図）

位置 調査区の南東部，D14d8区。

規模と平面形 径〔0.98〕mの不整形円形と推定され，深さは46cmである。

長径方向 [N-15°-E]

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほほ平坦である。

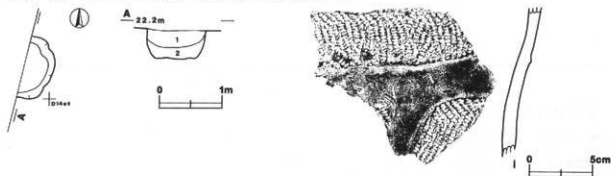
覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック中量，炭化物微量

遺物 縄文土器片4点，獣骨片が出土している。第439図1は深鉢の胴部片で，微隆起線を施し，RLの単節縄文が充填されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第439図 第2515号土坑・出土遺物実測図

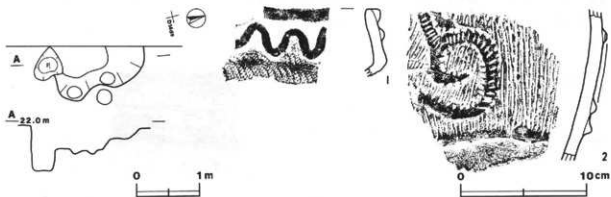
### 第2516号土坑（第440図）

位置 調査区の南東部，D14d9区。

規模と平面形 長径1.72m，短径(0.62)mの不定形で，深さは38cmである。

長径方向 [N-8°-E]

壁 緩やかに立ち上がる。



第440図 第2516号土坑・出土遺物実測図



底 凹凸である。

ピット 1か所。P1は南壁際に位置し、長径53cm、短径43cmの不整形で、深さは72cmである。

遺物 縄文土器片60点が出土している。第440図1は深鉢の口縁部片である。地文はR Lの単節縄文で、隆帯が波状に施されている。2は深鉢の胴部片で、キザミをもつ隆帯が麻手状に貼り付けられ、隆帯に沿って刺突文が施されている。地文は条線文である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E式期）と考えられる。

#### 第2521号土坑（第441図）

位置 調査区の南東部、D14a9区。

重複関係 南側部分を第431号住居跡に掘り込まれ、第2522号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.93m、短径(1.20)mの楕円形と推定され、深さは54cmである。

長径方向 N-52°-E

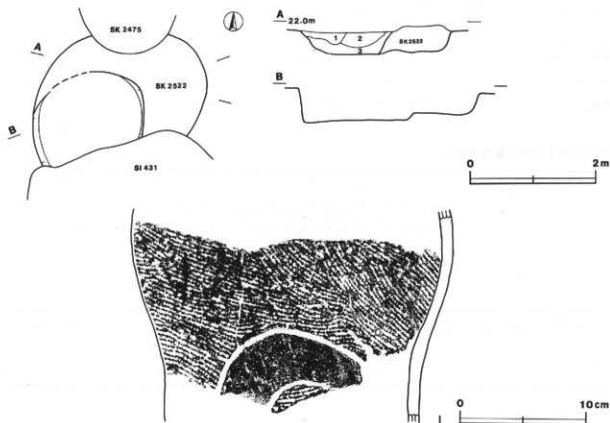
壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |   |     |                   |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量       |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量     |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |



第441図 第2521号土坑・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片23点が出土している。第441図1の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

#### 第2521号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	深鉢 縄文土器	(16.9)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。沈線による曲線的な帯の磨研層が施されている。縄文はLJの単純縄文である。	砂粒・長石 にふいや色 普通	P117 50% PL59 覆土 加曾利EⅢ式

#### 第2524号土坑（第442図）

位置 調査区の南東部、D14e9区。

重複関係 第431号住居跡の貼床下から検出されたことから、本跡が古い。

規模と平面形 径2.22mの円形で、深さは63cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P1は東部に位置し、径44cmの円形で、深さは16cmである。P2は南西部に位置し、径32cmの円形で、深さは23cmである。

覆土 7層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
- 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化物少量
- 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化材・炭化物少量
- 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量、炭化材少量、炭化物中量
- 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化物少量
- 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

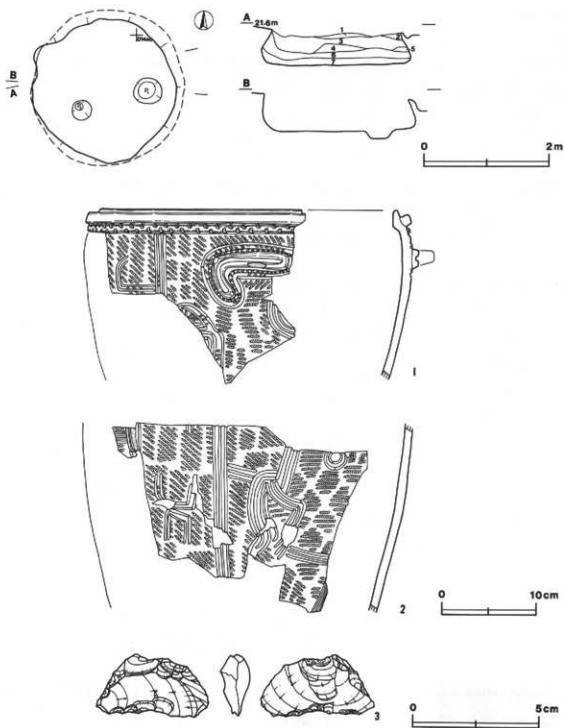
遺物 縄文土器片2点、剥片1点が出土している。第442図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片、3の剥片は覆土から出土している。1と2は接合しないが、同一個体の可能性がある。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

#### 第2524号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	深鉢 縄文土器	A (31.0)	胴部から口縁部の破片。わずかに内彎する。口縁部には交互斜線による透視の字文が施されている。胴部には口唇部直下に陰帯が施され、LJの単純縄文を地文に3本1組沈線文が施され、沈線の施された陰帯が十字状に貼り付けられている。陰帯に沿ってペン先状工具による刺突文が施されている。	砂粒・長石・磨研 暗褐色 普通	P118A 25% PL59 覆土 大木8a式併行
		B (18.4)			
2	深鉢 縄文土器	B (20.4)	胴部片。LJの単純縄文を地文に、2本あるいは3本1組の沈線により曲線的な文様が施されている。	砂粒・長石・磨研 暗褐色 普通	F118B 20% PL59 覆土 大木8a式併行

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第442図3	剥片	2.7	4.6	1.2	(8.35)	黒曜石	Q22 覆土



第442図 第2524号土坑・出土遺物実測図

第2541号土坑 (第443図)

位置 調査区の南東部, C14j7区。

重複関係 北西部分を第2845号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2838号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.58m, 短径1.46mの楕円形で、深さは12cmである。

長径方向 N-71°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は中央部に位置し、長径38cm、短径35cmの楕円形で、深さは47cmである。

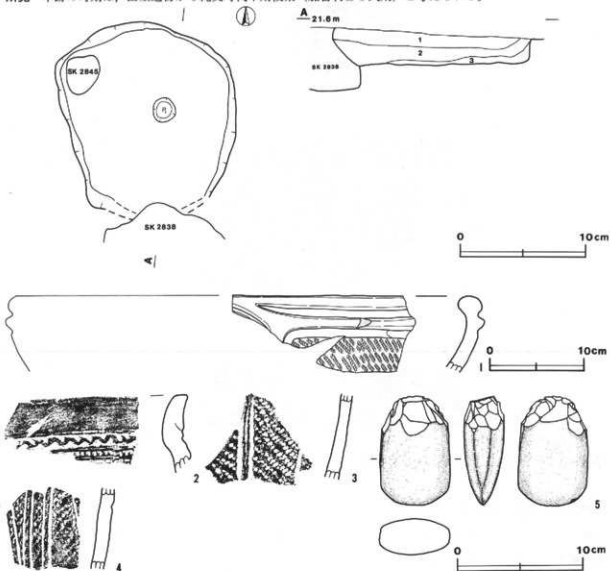
覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 濃い褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片351点、磨製石斧1点が出土している。第443図1の深鉢の口縁部片及び5の磨製石斧は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、交互刺突文が施されている。3は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。4はLRの単節縄文を地文とし、沈線文が縦位に施されている。4は混入したものである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第443図 第2541号土坑・出土遺物実測図

### 第2541号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第43図 1	深鉢 縄文土器	A (48.0) B (8.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯に2リ区画され、区画内にR Lの半筋縄文が充塞されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	F119 5% PL59 覆土 加賀利E1式

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第43図5	磨製石斧	(8.7)	5.6	3.3	(214.0)	砂 岩	Q23 覆土

### 第2567号土坑 (第444図)

位置 調査区の南東部, D14 f6 区。

重複関係 第429号住居跡の北壁を掘り込んでいる。東側部分で第2428号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径 (0.72)m, 短径 (0.50)mの楕円形と推定され、深さは45cmである。

長径方向 [N-42°-E]

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

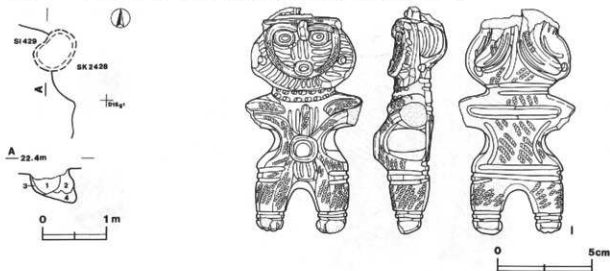
覆土 4層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 土偶1点が出土している。1のミミズク形土偶は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉(安行1式期)と考えられる。



第444図 第2567号土坑・出土遺物実測図

第2567号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第444図 1	土偶	11.8	6.2	3.1	(167)	80	胴部は縄文の施された袋帯で覆取られ、ボタン状の目と口を有している。肩部は張り、頸部はくびれて脚部となる。底部は腹れ、中央部にボタン状の足付文を施している。蓋部は頸位の沈線により区画されている。縄文は早期縄文である。非形類。	D P 24 覆土 安行1式

第2764号土坑（第445図）

位置 調査区の南東部，D14f6区。

重複関係 南東部分で第2810号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

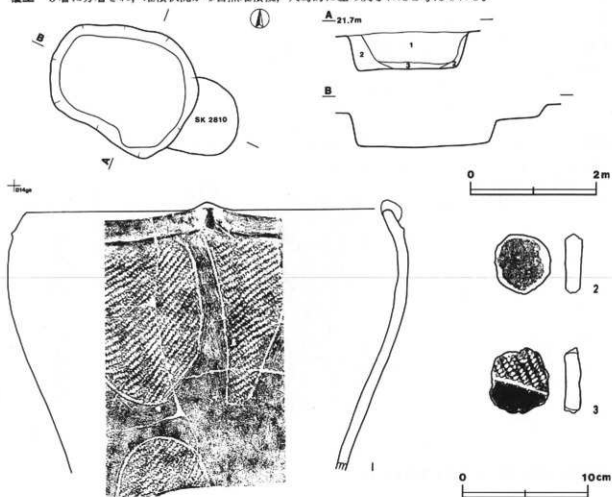
規模と平面形 長径2.37m，短径1.82mの楕円形で，深さは55cmである。

長径方向 N-64°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積後，人為的に埋め戻されたと考えられる。



第445図 第2764号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片139点、土器片円盤1点、土器片鉢1点が出土している。第445図1の深鉢の胴部から口縁部の破片、2の土器片円盤、3の土器片鉢は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第2764号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第445図 1	深 鉢	A (29.0)	胴部から口縁部の破片。小波状口縁を呈し、口縁部は内彎する。縦隆起線により縦状の無文帯が区画される。胴部は2帯構成で、沈線によりY字状の文様が施されている。縄文はR Lの単純縄文である。	粉粒・色母にふい褐色 普通	P120 10% PL09 覆土 加曾利EⅣ式
	縄文土器	B (21.4)			

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形 状 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第445図2	土器片円盤	4.8	4.5	1.4	(33.0)	95	無文。	D P 25 覆土
3	土器片鉢	5.2	4.7	1.3	(37.0)	95	沈線及び単純縄文R L。	D P 26 覆土

第2772号土坑（第446図）

位置 調査区の南東部、D14e4区。

規模と平面形 径1.15mの円形で、深さは76cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

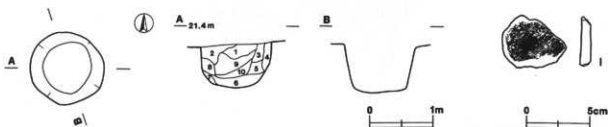
覆土 10層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられるが、攪乱されている可能性がある。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物少量、焼土粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化物多量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子微量、炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・炭化物中量、焼土粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物中量

遺物 縄文土器片74点、土器片鉢1点が出土している。第446図1の土器片鉢は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第446図 第2772号土坑・出土遺物実測図

第2773号土坑（第447図）

位置 調査区の南東部，D14es区。

規模と平面形 径2.53mの円形で，深さは76cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は南壁を掘り込み，長径69cm，短径51cmの楕円形で，深さは確認面から105cmである。P<sub>2</sub>は西壁を掘り込み，径44cmの円形で，深さは確認面から79cmである。

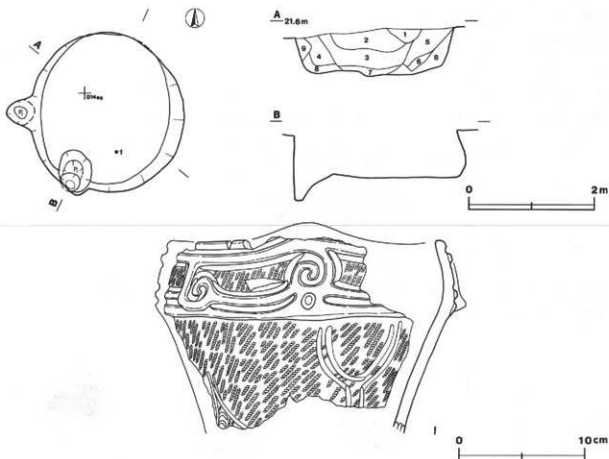
覆土 9層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |                                |
|---|-----|--------------------------------|
| 1 | 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量            |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量            |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量     |
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子少量 |
| 5 | 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量            |
| 6 | 褐色  | ローム粒子少量，焼土粒子中量，粘土微量            |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量            |
| 8 | 褐色  | ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 9 | 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子少量                 |

遺物 縄文土器片71点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第447図 第2773号土坑・出土遺物実測図



### 第2773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447回 1	深鉢 縄文土器	A (21.0) B (15.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し、口縁部はわずかに内彎する。底状口縁。口縁部は強縁と沈帯で渦巻文及び区画文を施す。区画内にLRの単部縄文が施されている。口縁部と胴部は大い隆帯で区画され、胴部にはLRの単部縄文を地文に沈帯がY字状に施されている。	砂粒・長石・石英 スコリア にふい橙色 普通	P121 20% P159 覆土 加賀料E I式

### 第2775号土坑 (第448回)

位置 調査区の南東部, D14e4区。

規模と平面形 長径1.64m, 短径1.17mの楕円形で、深さは36cmである。

長径方向 N-32°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

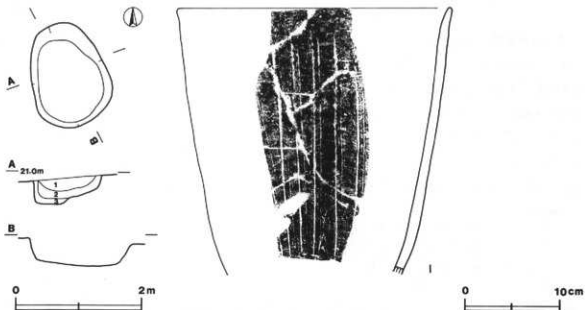
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片31点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

### 第2775号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448回 1	深鉢 縄文土器	A (29.0) B (27.9)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに外傾して口縁部に至る。胴部には平数竹管による平行沈帯文が縦位に施されている。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P122 25% P159 覆土 堀之内I式



第448回 第2775号土坑・出土遺物実測図

### 第2799号土坑（第449図）

位置 調査区の南東部，D14as区。

規模と平面形 径1.30mの円形で，深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層されるが，攪乱のため堆積状況は不明である。

#### 土層解説

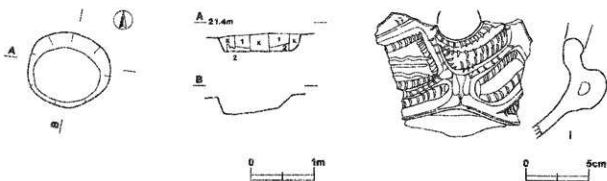
- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 2 褐色 スコリア微量

遺物 縄文土器片33点が出土している。第449図1の深鉢の口縁部片は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

#### 第2799号土坑出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第449図 1	深鉢 縄文1型	B (9.2)	把手を有するL様部片。口縁部は内傾する。L様部は4ゼミをもつ縁部に沿って爪彫文が施されている。口縁部文様部と胴部を区画する隆線は下方に突出している。以下は断文である。	砂粒・スコリア 褐色 薄黄	P123 5% P159 覆土 阿玉台Ⅲ式



第449図 第2799号土坑・出土遺物実測図

### 第2807号土坑（第450図）

位置 調査区の南東部，D14ca区。

重複関係 第2808号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.03mの円形で，深さは56cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム中ブロック微量

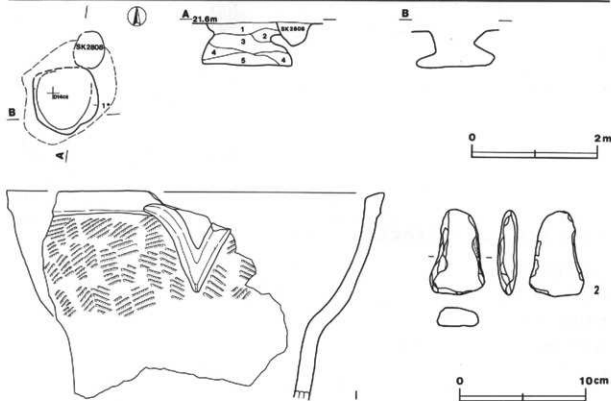
遺物 縄文土器片90点，打製石斧1点が出土している。第450図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の打製石斧は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

### 第2807号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (16.7)	胴部から口縁部の破片、胴部下位はわずかに外傾して立ち上がり、中位で屈曲し、口縁部に至る。口縁部はわずかに肥厚し、陰帯によるV字状文を施している。地文は無筋縄文である。	砂粒・雲母・石英 スコリア に多い褐色 普通	F124 10% PL60 覆土 阿玉台B式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第450図2	打製石斧	5.8	4.4	1.5	(62.0)	緑色凝灰岩	Q26 覆土



第450図 第2807号土坑・出土遺物実測図

### 第2811号土坑 (第451図)

位置 調査区の南東部、D14c7区。

規模と平面形 長径1.19m、短径0.90mの楕円形で、深さは22cmである。

長径方向 N-62°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され、堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 極研赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量  
2 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

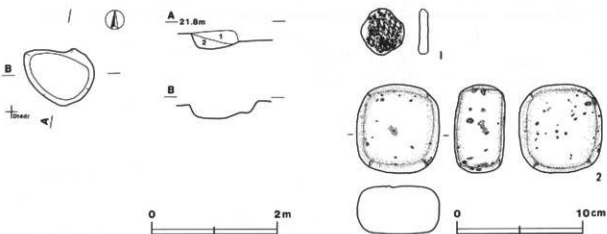
遺物 縄文土器片27点、土器片円盤1点、磨石1点が出土している。第451図1の土器片円盤、2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2811号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長 さ	幅	厚 さ				
第451図1	土器片円盤	3.7	3.5	0.8	(12.0)	95	単節縄文R.L.	DP30 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)		
第451図2	磨 石	7.1	6.6	4.0	(327.0)	安山岩	Q27 覆土



第451図 第2811号土坑・出土遺物実測図

第2826号土坑 (第452図)

位置 調査区の南東部, D14e7区。

重複関係 第2827号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径 [1.88] mの円形と推定され、深さは63cmである。

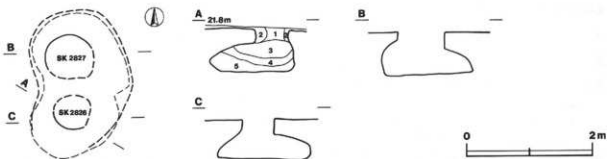
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され、覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量, ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量



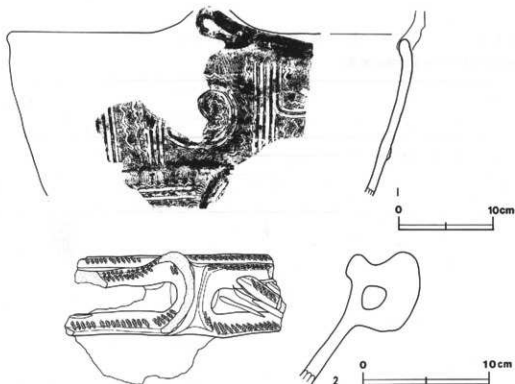
第452図 第2826・2827号土坑実測図

遺物 縄文土器片41点が出土している。第453図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式）と考えられる。

#### 第2826号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第453図 1	深鉢 縄文土器	A (42.0) B (19.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。波溝部に陰帯で渦巻文が施されている。胴部に陰帯を巡して、口縁部文陰帯を形成している。口縁部には沈線により文様が施されている。胴部には陰帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母 にふい赤褐色 普通	F125 10% P160 覆土 阿玉台Ⅳ式
2	深鉢 縄文土器	B (10.3)	胴部から口縁部の破片。楕状把手を有し、口縁部は内彎する。把手を起点に、R.Lの車筋縄文を施した陰帯を巡している。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英 スコリア にふい褐色 普通	F126 10% P160 覆土 阿玉台Ⅳ式



第453図 第2826号土坑出土遺物実測図

#### 第2827号土坑（第452図）

位置 調査区の南東部，D14d7区。

重複関係 南側部分を第2826号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径 [0.75] mの円形と推定され、深さは69cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

遺物 縄文土器片19点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

### 第2839号土坑（第454図）

位置 調査区の南東部，D14 a 8 区。

重複関係 北側部分で第2863号土坑と，西側部分で第2838号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径 [3.00] m，短径 [2.28] mの楕円形と推定される。深さは62cmである。

長径方向 N-86°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は南側に位置し，長径56cm，短径49cmの楕円形で，深さは45cmである。P<sub>2</sub>は中央部に位置し，径42cmの不整形で，深さは83cmである。

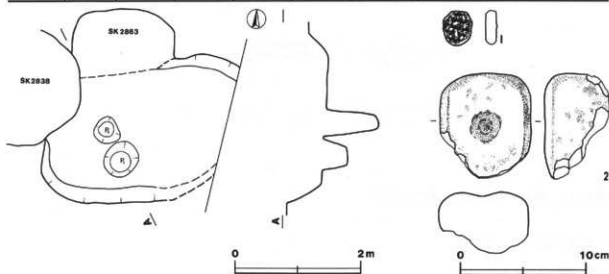
遺物 縄文土器片156点，土器片円盤1点，磨石1点が出土している。第454図1の土器片円盤，2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

#### 第2839号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第454図1	土器片円盤	2.7	2.3	0.9	(7.0)	95	単筋縄文R.L.	DP31 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第454図2	磨石	(8.4)	7.3	5.2	(335.0)	安山岩	Q28 覆土 凹石裏用



第454図 第2839号土坑・出土遺物実測図

### 第2840号土坑（第455図）

位置 調査区の東部，C14 g 5 区。

規模と平面形 径1.36mの円形で，深さは112cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 楕円状である。

覆土 8層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

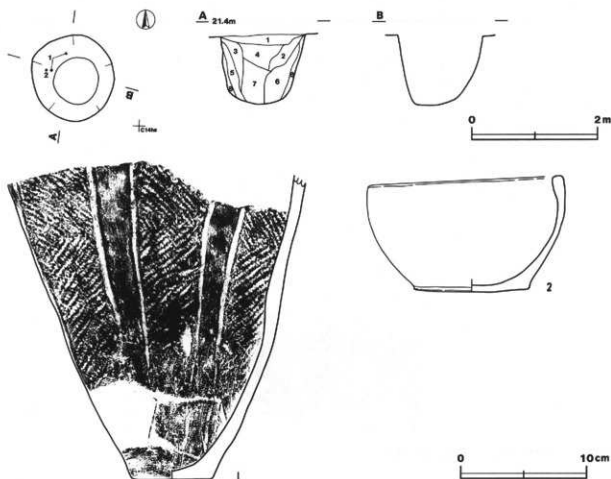
- |   |       |                              |
|---|-------|------------------------------|
| 1 | 暗褐色   | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色   | ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子微量      |
| 3 | 暗褐色   | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色   | ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色    | ローム粒子少量、ローム小ブロック中量           |
| 6 | 褐色    | ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 暗褐色   | ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | にぶい褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック中量、焼土粒子微量    |

遺物 縄文土器片11点が出土している。第455図1の深鉢の底部から胴部の破片と2の鉢は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2840号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第455図 1	深鉢 縄文土器	B 24.3 C 6.4	底部から胴部の破片。胴部は内彎気味に立ち上がる。R.Lの単純縄文を地文に、幅広い2本沈線の帯状整面文が施されている。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	F127 55% P.L60 覆土 加曾利EⅡ式
2	小形鉢 縄文土器	A 15.5 B 9.2 C 9.2	胴部は外傾して立ち上がり、上位で内彎し口縁部に至る。口唇部はやや肥厚する。無文である。	砂粒・長石・雲母スコリアにぶい褐色普通	F128 95% P.L60 覆土 加曾利EⅡ式



第455図 第2840号土坑・出土遺物実測図

### 第2841号土坑 (第456図)

位置 調査区の東部, C1417区。

規模と平面形 長径2.13m, 短径1.50mの楕円形で, 深さは56cmである。

長径方向 N-55°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。北側に位置し, 長径51cm, 短径41cmの楕円形で, 深さは77cmである。

覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

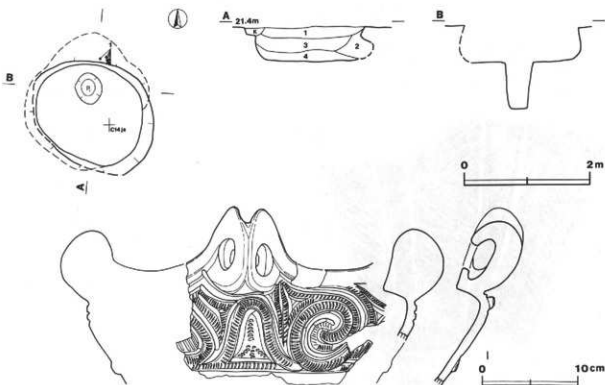
- |   |     |                                  |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子少量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色  | ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量         |

遺物 縄文土器片70点が出土している。第456図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中幹式期)と考えられる。

#### 第2841号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第456図 1	深 鉢 縄文土器	B (19.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。縦溝状把手を有する。口縁部にはキザミをもつ隆帯により渦巻文, あるいは区画文が施され, 区画内には沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	F129 20% PL60 覆土下層 中幹式群行



第456図 第2841号土坑・出土遺物実測図



第2844号土坑（第457図）

位置 調査区の東部 C1416区。

規模と平面形 長径2.58m、短径2.22mの楕円形で、深さは90cmである。

長径方向 N-17°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 所堀色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、埴土粒子・炭化粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、埴土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・埴土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・埴土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量、埴土粒子・炭化粒少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・埴土粒子・炭化粒子微量

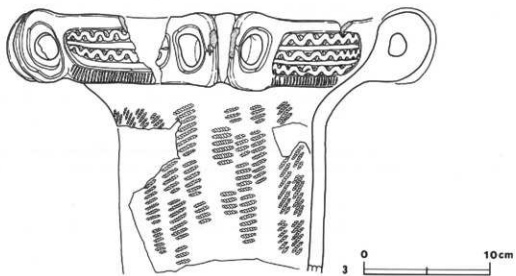
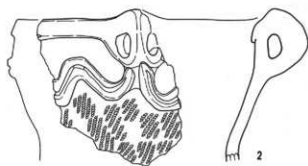
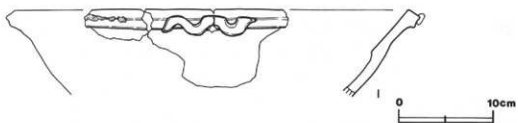
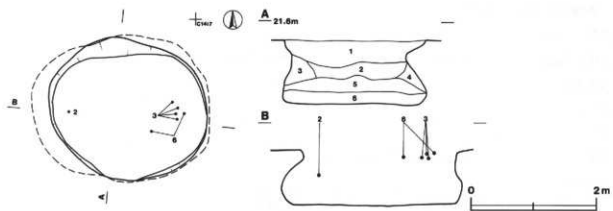
遺物 縄文土器片206点、土器片円盤1点が出土している。第457図1の浅鉢、2・3の深鉢の胴部から口縁部の破片、第458図4の深鉢の口部から胴部の破片、5の把手部片、6の深鉢の底部から胴部の破片及び9の上唇片円盤は覆土から出土している。7は深鉢の口縁部片で、横位と斜位の沈線及び交互斜突文が施され、その上から沈線が施された隆帯が貼り付けられている。8は把手部片で、沈線による渦巻文及びギザミが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中鉢式期）と考えられる。

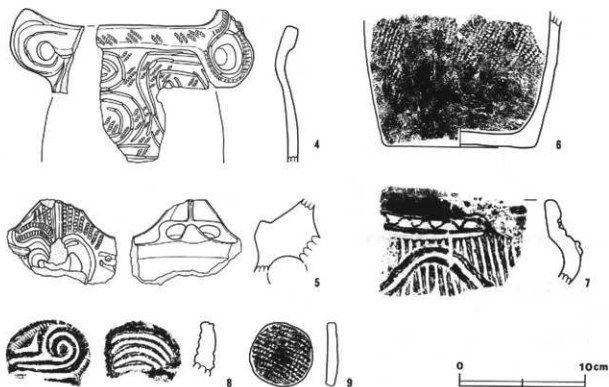
第2844号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)		器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色澤・状態	備 考
		長 さ	幅 寸			
第457図 1	浅 鉢 縄文土器	A (14.2)	胴部から口縁部の破片。キリッパ形の器形で、口縁部は外傾する。口縁部外側には隆帯が波状に貼り付けられている。赤褐色。		砂粒・長石・雲母 に多い赤褐色 普通	P131 5% 覆土 P.L61
		B (5.6)				
2	深 鉢 縄文土器	A (25.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内傾する。胴縁状把手を有する。口縁部には把手トから隆帯の施された隆帯が波状に貼り付けられている。胴部にはRシの単筋縄文が施されている。		砂粒・長石・雲母・ 石英・スコリア 灰褐色 普通	P122 5% 覆土 中鉢式16行
		B (12.6)				
3	深 鉢 縄文土器	A (25.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はほぼ垂直に立ち上がり、くびれて口縁部になる。口縁部には4部位の横状把手が付く。1部位には沈線による長径四角区画内に交互斜突文が施され、区画下にはギザミが施されている。胴部にはRシの単筋縄文が施されている。		砂粒・長石・ スコリア 褐色 普通	P130 30% 覆土 中鉢式
		B (12.0)				
第458図 4	深 鉢 縄文土器	A (10.5)	胴部から口縁部の破片。胴部は内傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部には把手トからの隆帯状把手をもつ。全面にRシの単筋縄文が施され、胴部には沈線による曲線の文様が施されている。		砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P131 30% 覆土 中鉢式
		B (12.1)				
5	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	胴縁状把手破片。表面には結節沈線文及び沈線が施されている。裏側には2部位の大きめの四角斜突文が施されている。		砂粒・長石・雲母 に多い褐色 普通	P169 5% 覆土 中鉢式
6	深 鉢 縄文土器	B (10.0)	胴部から胴縁の破片。胴部は復元的に立ち上がる。地文はRシの単筋縄文である。		砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P133 30% 覆土 中鉢式
		C (11.9)				

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	形 状 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		長 さ	幅 寸	厚 さ				
第458図9	上唇片円盤	3.1	4.9	0.8	(29.0)	95	単筋縄文L.R.	D.P.32 覆土



第457图 第2844号土坑·出土遗物实测图(1)



第458図 第2844号土坑出土遺物実測図(2)

第2848号土坑 (第459図)

位置 調査区の東部, C14g6区。

重複関係 南側部分で第2849号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.97m, 短径1.58mの楕円形で, 深さは71cmである。

長径方向 N-44°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は南東壁際に位置し, 長径55cm, 短径44cmの楕円形で, 深さは30cmである。P<sub>2</sub>は北西壁際に位置し, 長径58cm, 短径24cmの不整形円形で, 深さは79cmである。

覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

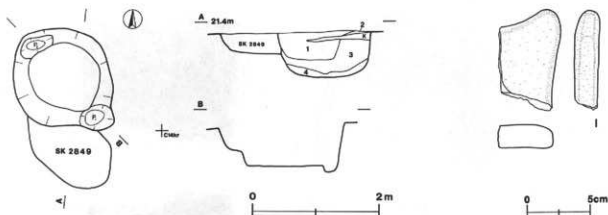
- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム少ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 縄文土器片34点, 岩版1点が出土している。第459図1の岩版は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物と覆土の類似から縄文時代中期と考えられる。

第2848号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第459図1	岩版	7.9	5.0	1.9	(118.0)	砂口岩	Q29 覆土



第459図 第2849号土坑・出土遺物実測図

第2853号土坑 (第460図)

位置 調査区の東部, C14g7区。

規模と平面形 長径3.27m, 短径2.66mの楕円形で, 深さは120cmである。

長径方向 N-77°-E

壁 袋状である。

底 ほぼ平坦である。

覆土 6層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

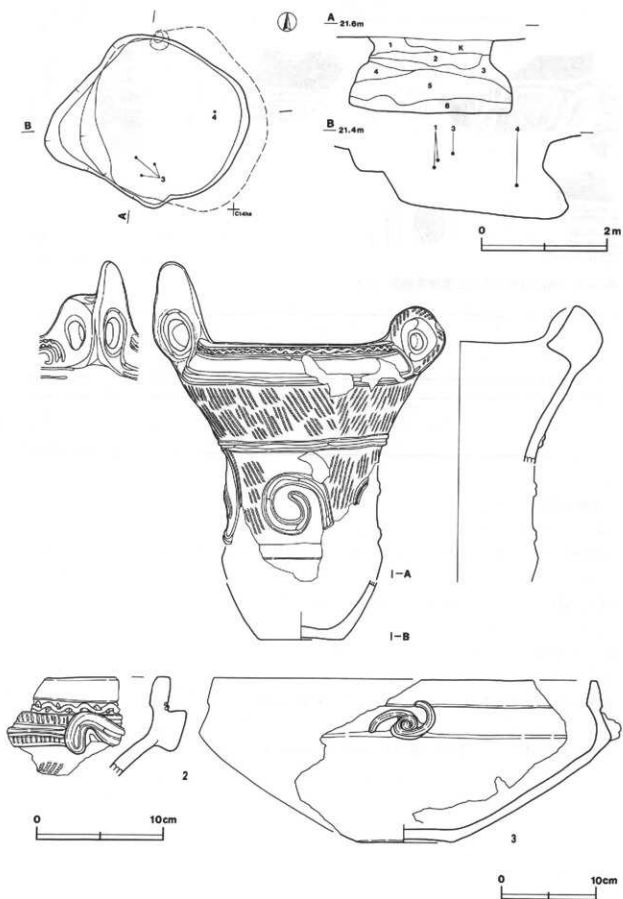
- |        |                      |       |                        |
|--------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量         | 4 黒褐色 | ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量    |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量     |
| 3 黒褐色  | 炭化物少量                | 6 黒褐色 | ローム粒子・ロームブロック中量, 炭化物微量 |

遺物 縄文土器片189点, 土器片鏝1点が出土している。第460図1の深鉢, 2の深鉢の胴部から口縁部の破片, 3の浅鉢の底部から口縁部片, 第461図4の浅鉢の口縁部片及び9の土器片鏝は覆土上層から中層にかけて出土している。5~8は深鉢の口縁部片である。5はキザミをもつ隆帯及び沈線で区画されている。6は交互刺突文及び横位の沈線が施され, 地文を条線文に, 山形沈線文が施されている。7は横位の沈線及び交互刺突文が施され, R Lの単節縄文の隆起手法の帯縄文には浅い沈線が施されている。8はキザミをもつ平行沈線, 及びキザミをもつ隆帯が施されている。

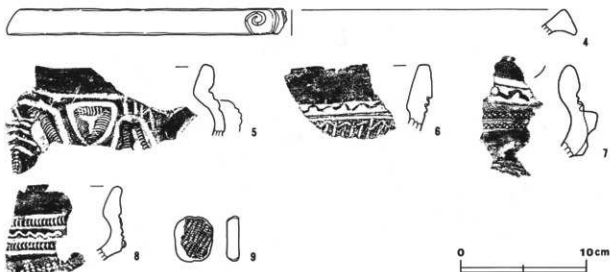
所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中鉢式期)と考えられる。

第2853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・地成	備考
第460図 1	深鉢 縄文土器	(A) A 21.5	胴底面を呈し, 口縁部はソロバン玉状で, 大小二つの把手を有する。口縁部は把手から狭く沈線により区画され, 口縁部直下に交互刺突文が施されている。区画内は無文である。地文は条線文で, 隆帯により口縁部と胴部を区画している。胴部には, 沈線をもつ隆帯が縦手状に施されている。	砂粒・長石・雲母 にふいふ褐色 普通	P135 A-B P L 61 80% 覆土上層 中鉢式併行 AとBは同一個体
		B (34.0)			
		(B) B (6.3)			
2	深鉢 縄文土器	B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部には, 交互刺突文及びキザミ目が施され, 沈線の描かれた隆帯が横S字状に施されている。胴部にはR Lの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 石英・スコリア にふいふ褐色 普通	P170 5% 覆土 中鉢式併行
第461図 3	浅鉢 縄文土器	A (39.6)	底部から口縁部片。胴部は外反して立ち上がり, 口縁部は屈曲して内彎する。口縁部には隆帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P136 25% P L 61 覆土上層 中鉢式併行
		B 17.3			
		C 10.0			



第460图 第2853号土坑·出土物实测图(1)



第461図 第2853号土坑出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 4	浅鉢 縄文土器	A (57.2) B (2.7)	口縁部片。沈澱による渦巻文が施されている。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 に多い褐色 普通	P137 5% 覆土中層 中峠式群行

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第461図9	土器片鉢	3.7	3.2	0.9	(14.0)	95	半段縄文R.L.	DP33 覆土

#### 第2854号土坑 (第462図)

位置 調査区の東部, C14is区。

重複関係 西側部分を第2855号土坑に掘り込まれている。北側部分で第2856号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.00m, 短径1.44mの不定形で、深さは44cmである。

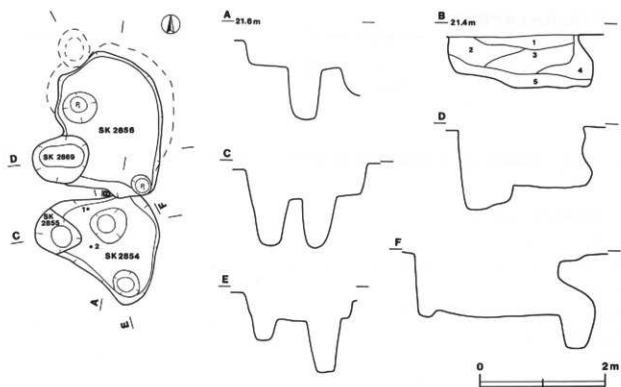
長径方向 N-59°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

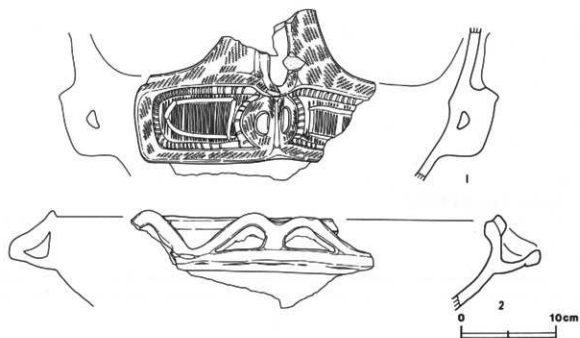
底 平坦である。

遺物 縄文土器片49点が出土している。第463図1の深鉢の口縁部片及び2の浅鉢の胴部から口縁部の破片は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。



第462图 第2854·2856号土坑实测图



第463图 第2854号土坑出土遗物实测图

### 第2854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)		器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
		長さ	幅			
第463図 1	深鉢 縄文土器	B (18.0)		山形状把手をもつ口縁部片。LRの単筋縄文が施された把手につながる隆帯で区画文が施されている。区画に沿って押し引き刺突文が施され、区画内に縦位の細い辻線が施されている。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P138 5% P L61 覆土 中鉢式移行
2	浅鉢 縄文土器	A (45.4)		胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に隆帯が山形状に貼り付けられている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にふい褐色 普通	P139 20% P L61 覆土 中鉢式移行
		B (9.5)				

### 第2856号土坑 (第462図)

位置 調査区の東部, C14区。

重複関係 南西部分を第2869号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2854号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.31m, 短径1.63mの楕円形で、深さは100cmである。

長径方向 N-28°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は南東壁際に位置し、径34cmの円形で、深さは12cmである。P<sub>2</sub>は北西壁際に位置し、径54cmの円形で、深さは30cmである。

覆土 5層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

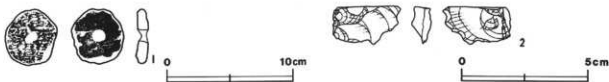
1 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子少量, ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	5 褐色	ローム粒子少量, ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量		

遺物 縄文土器片428点, 土器片円盤1点及び剥片1点が出土している。第464図1の土器片円盤と2の剥片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

### 第2856号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第464図1	土器片円盤	4.4	4.1	0.9	(23.0)	95	単筋縄文LR。	D P34 覆土
図版番号	器種	計測値				石質	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第464図2	剥片	2.65	1.5	1.35	(2.62)	黒曜石	Q30 覆土	



第464図 第2856号土坑出土遺物実測図



第2858号土坑 (第465図)

位置 調査区の南東部, D14a5区。

重複関係 第2870号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長さ2.30m, 短径(1.30)mの楕円形と推定され, 深さは75cmである。

長径方向 N-43°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され, 堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

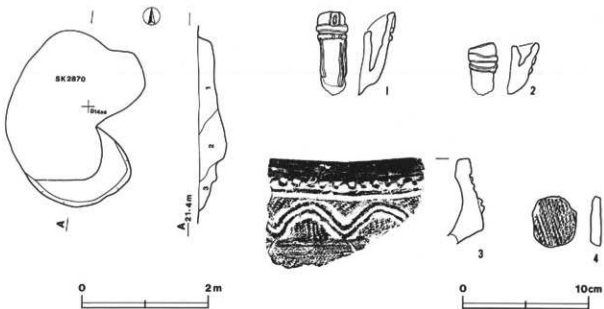
遺物 縄文土器片239点, 土器片円盤1点が出土している。第465図1・2の把手と4の土器片円盤は覆土から出土している。3は浅鉢の口縁部片で, 交互刺突文を施している。地文はR Lの単節縄文で, 沈線をもつ隆帯が波状に施されている。4は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中鉢式期)と考えられる。

第2858号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	深鉢 縄文土器	B (6.8)	把手部片, 細い粘土紐が横位と縦位に貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母 にふい白色 普通	P140 5% 覆土 中鉢式併行
2	深鉢 縄文土器	B (4.3)	把手部片, 細い粘土紐が横位に施されている。	砂粒・長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P141 5% 覆土 中鉢式併行

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第465図4	土器片円盤	4.0	3.05	0.9	(16.0)	95	刺突文。	D P35 覆土



第465図 第2858号土坑・出土遺物実測図

### 第2859号土坑（第466図）

位置 調査区の東部，C14b7区。

重複関係 北西部分で第2860号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.63m，短径2.15mの楕円形で，深さは116cmである。

長径方向 N-84°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P<sub>1</sub>は東壁際に位置し，長径80cm，短径70cmの不整楕円形で，深さは16cmである。

禮土 11層に分層され，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

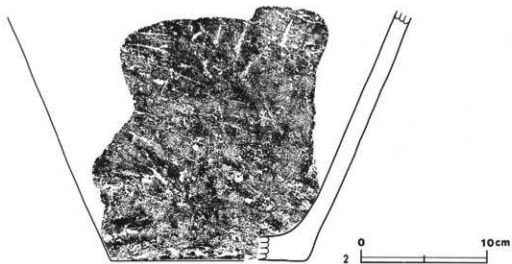
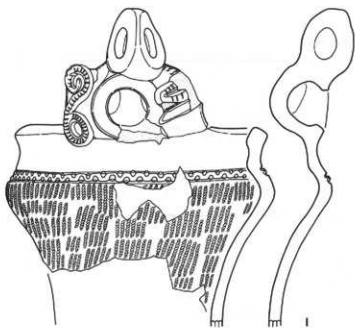
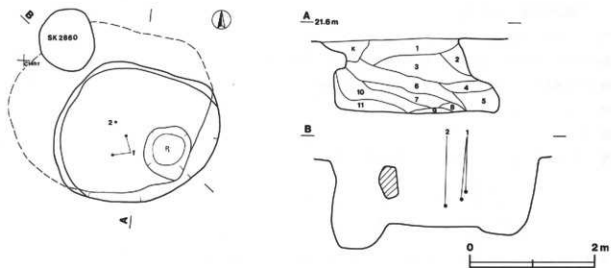
- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム中ブロック中量（5層より締まりが強い）
- 10 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片159点が出土している。第466図1の深鉢の胴部から口縁部の破片及び2の深鉢の底部から胴部の破片は覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中鉢式期）と考えられる。

#### 第2859号土坑出土遺物観察表

図版番号	形 種	計測値(cm)	器形及び文様の概要	胎土・色調・焼成	備 考
第466図 1	深 鉢 縄文土器	A 20.1 B (25.4)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で，口縁部に紐跡状把手が1か所付く。把手にキザミ目をもつ隆帯がS字状に貼り付けられている。口縁部は無文である。口縁部と胴部は交互斜線による連続口の字文で区画され，胴部にはR1の平節種文が施されている。	砂粒・劣母 にぶい褐色 普通	F142 30% PL61 覆土中層 中鉢式
2	深 鉢 縄文土器	B (19.1) C (15.6)	底部から胴部の破片。胴部は片破して持ち上がり，無文である。	砂粒・長石・漂白・ 石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	F143 10% PL61 覆土中層



第466图 第2859号土坑·出土器物实测图

### 第2862号土坑（第467図）

位置 調査区の南東部，D14a1区。

重複関係 南西部分で第2785号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.34mの円形と推定され，深さは49cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |     |                   |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量     |
| 2 | 褐色  | ローム粒子中量，ロームブロック少量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子多量，ロームブロック中量 |
| 4 | 褐色  | ローム粒子多量，ロームブロック少量 |

遺物 縄文土器片32点，剥片1点が出土している。第467図1・2の深鉢は底面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台IV式期）と考えられる。

### 第2862号土坑出土遺物観察表

図収番号	器種	計測値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8部 1	深鉢 縄文土器	A (32.6)	胴部から口縁部の覆片，胴部は直線的に立ち上がり，口縁部には4か所の山形突起の把手をもつ。全周にL.Rの単筋縄文が施されている。オサミヨをもちょう形三角形の底面により口縁部支線帯が構成され，胴部は無文で，断面がマボウズの隆帯及び沈帯により胴部と区画されている。胴部にはJ字状の突起を有する隆帯が取り付けられ，隆帯に沿って沈帯が施されている。	砂状・灰石 にふい褐色 普通	P144 40% P.L62 底面 阿玉台IV式
		B (47.0)			
2	深鉢 縄文土器	A (22.4)	胴部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。底文はL.Rの単筋縄文で，二本の隆帯により口縁部支線帯が作られ，隆帯に沿って曲線的な沈帯文が施されている。胴部には沈帯により底面が施されている。	砂粒・灰石・石英・ 滑石 にふい赤褐色 普通	P145 60% P.L62 底面 阿玉台IV式
		B (25.1)			
		C 9.5			

### 第2867号土坑（第468図）

位置 調査区の南東部，D14a7区。

規模と平面形 径1.64mの円形で，深さは85cmである。

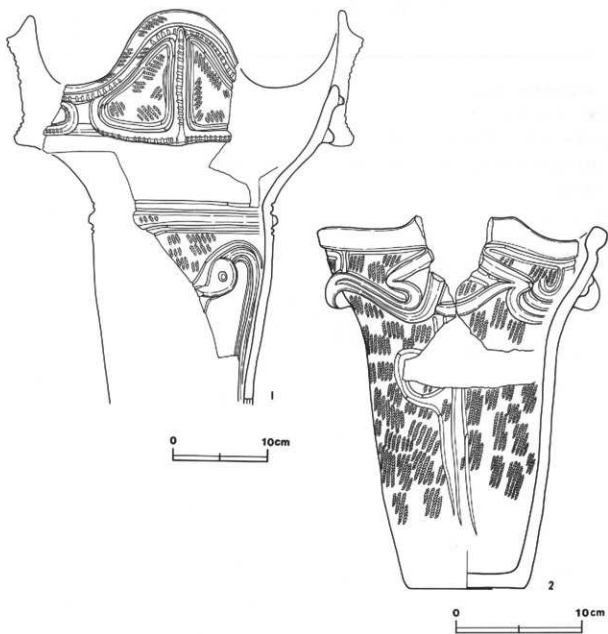
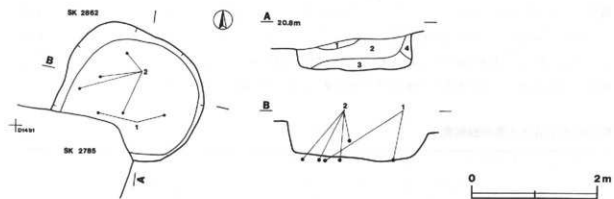
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |     |                   |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量     |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量       |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量       |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量，ロームブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック中量   |
| 6 | 褐色  | ローム粒子・炭化物少        |



第467图 第2862号土坑·出土遗物实测图

遺物 縄文土器片422点が出土している。1は浅鉢の底部片口縁部の破片で、底面から出土している。第468図2の深鉢の口縁部片、3の深鉢の把手部片は覆土から出土している。4・5は深鉢の口縁部片である。4は幅広い爪形文及び波状沈線が施されている。5は爪形文及び沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台皿式期）と考えられる。

#### 第2867号土坑出土遺物観察表

図像番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第468図 1	浅鉢 縄文土器	A (51.4) B 16.0	底面から口縁部片。底部は小さい。口縁部には4単位と推定される突起をもつ。赤砂灰。	砂粒・長石・雲母 にふい褐色 普通	P146 40% PL62 底部 阿玉台皿式
2	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。隆帯を溝巻状に貼り付けた突起をもつ。突起から続く隆帯が口縁部以下がり。口縁部には半線竹筥による結晶沈線文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P171 2% 覆土 阿玉台皿式
3	深鉢 縄文土器	B (10.7)	把手部片。隆帯により文様を施し、隆帯に沿ってキズミが施されている。	砂粒・長石・ スコリア にふい赤褐色 普通	P174 2% 覆土 阿玉台皿式

#### 第2870号土坑（第469図）

位置 調査区の南東部、D13j/s区。

重複関係 南側部分で第2858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.03m、短径 [1.50] mの不定形で、深さは92cmである。

長径方向 N-0°

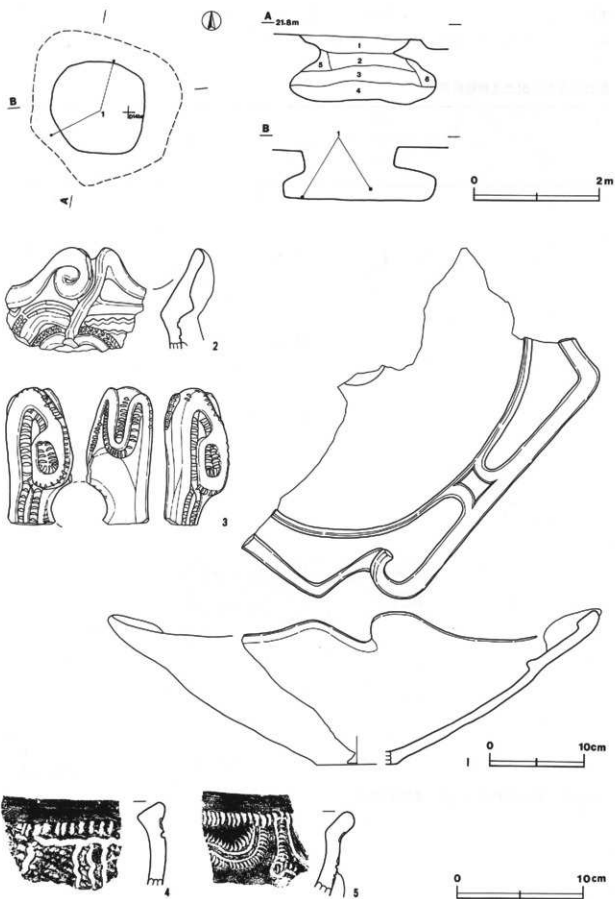
壁 袋状である。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子微量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



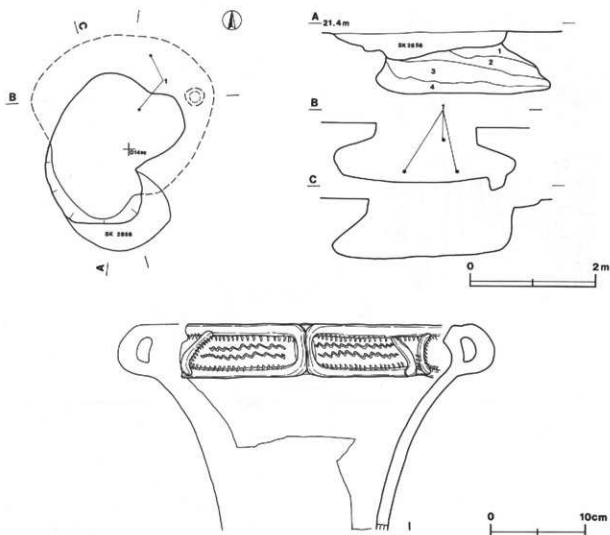
第468图 第2867号土坑·出土遗物实测图

遺物 縄文土器片37点が出土している。第469図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

### 第2870号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1	深鉢 縄文土器	A (31.0) B (21.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部に楕円把手を有し、把手につながる隆帯で口縁部に栴形区画文が施され、区画内に爪形文及び山形沈線文が施されている。口縁部文様帯と胴部を区画する隆帯は下方に突出している。胴部は無文である。	砂粒・長石・雲母に多い褐色 普通	F147 15% F162 覆土下層 阿玉台Ⅲ式



第469図 第2870号土坑・出土遺物実測図



### 第2871号土坑（第470図）

位置 調査区の東部，C14h3区。

重複関係 西側部分で第2875号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.51mの円形と推定され，深さは61cmである。

壁 袋状である。

底 皿状である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は北壁際に位置し，径38cmの円形で，深さは83cmである。P<sub>2</sub>は東壁際に位置し，径24cmの円形で，深さは23cmである。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

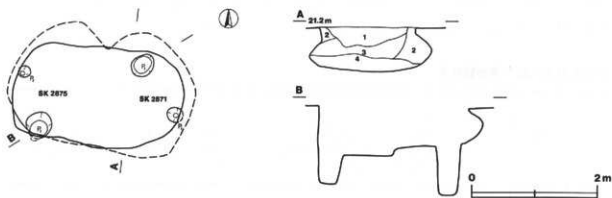
- 1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片80点が出土している。第471図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

### 第2871号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第471図 1	深鉢 縄文土器	B (8.1)	胴部から口縁部の破片。沈線の施された隆帯による渦巻文が施された突起をもつ。口縁部には隆帯による山形文が施されている。口縁部と胴部はキズをもつ隆帯で区画され，胴部には縦位の赤線が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい褐色 青透	P172 5% 覆土 中幹式併行



第470図 第2871・2875号土坑実測図



第471図 第2871号土坑出土遺物実測図

### 第2875号土坑（第470図）

位置 調査区の東部，C14h3区。

重複関係 東側部分で第2871号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.44mの円形と推定され，深さは80cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は南壁際に位置し，径42cmの円形で，深さは49cmである。P<sub>2</sub>は西壁際に位置し，径20cmの円形で，深さは42cmである。

所見 本跡の時期は，遺構の形態から縄文時代と考えられる。

### 第2899号土坑（第472図）

位置 調査区の東部，C14e5区。

重複関係 南側部分で第2903号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.53mの円形で，深さは64cmである。

壁 袋状である。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

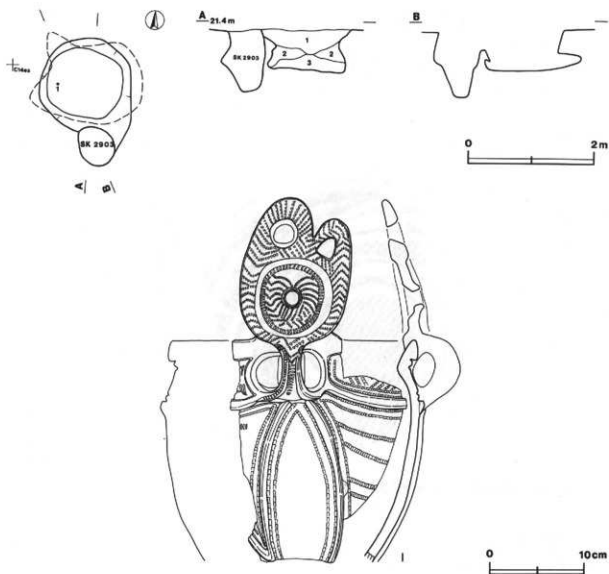
- 1 黒褐色 ローム粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片153点が出土している。第472図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

### 第2899号土坑出土遺物観察表

図表番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	深鉢 縄文土器	A (33.0) B (38.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎する。口縁部に、出筋が双線で、孔をもつ把手を有し、全面に刺突文が施されている。腰帯による口縁部区画文内には、平織竹管による筋部沈線文が施されている。胴底には断面コマゴコ状の隆帯を垂下させ、隆帯に沿って平織竹管による筋部沈線文が施されている。横位の筋部沈線文もみられる。	砂粒・灰石・炭粉 褐色 普通	P148 20% P152 覆土 阿玉台Ⅱ式



第472図 第2899号土坑・出土遺物実測図

第2900号土坑（第473図）

位置 調査区の北東部，B14j5区。

規模と平面形 径1.53mの円形で，深さは45cmである。

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |  |
|---|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量                     |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 縄文土器片50点が出土している。第473図1は深鉢の口縁部付近の破片で，2本1組の微隆起線文により渦巻文を施し，地文としてRLの単節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第473図 第2900号土坑・出土遺物実測図

第2905号土坑 (第474図)

位置 調査区の東部, C14e3区。

規模と平面形 長径2.04m, 短径1.64mの楕円形で, 深さは54cmである。

長径方向 N-46°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

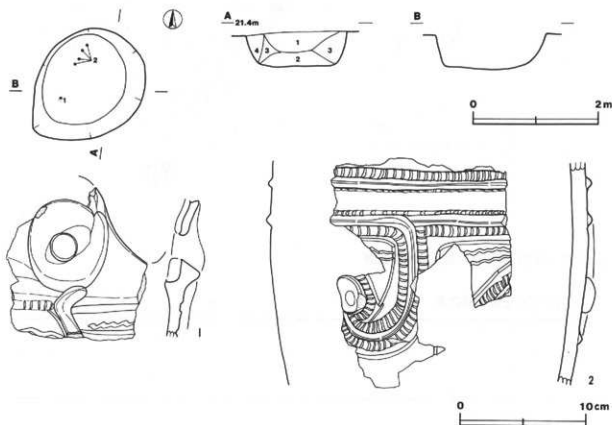
遺物 縄文土器片5点が出土している。第474図1の把手をもつ口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期前葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。

第2905号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	土 土・色 調・地 成	備 考
第474図 1	深 鉢 縄文土器	B (11.1)	把手をもつ口縁部片。断面三角形の隆帯が孔を巡り, 口縁部の隆帯につながる。口縁部には押引き刺突文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英・ 富母・スコリア にふい赤褐色 普通	P173 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 2	深鉢 縄文土器	B (18.1)	割部片、隆帯が横位あるいはJ字状に残され、隆帯に沿って幅広い爪形文が残されている。区画内に隆帯による山形沈線文が残されている。	砂粒・長石 におい褐色 普通	F149 10% 覆土 阿玉台遺式



第474図 第2905号土坑・出土遺物実測図

#### 第2910号土坑 (第475図)

位置 調査区の東部, C14g2区。

重複関係 南側部分を第2909号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径0.86m, 短径0.47mの不定形で、深さは98cmである。

長径方向 N-45°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 凹凸である。

覆土 2層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

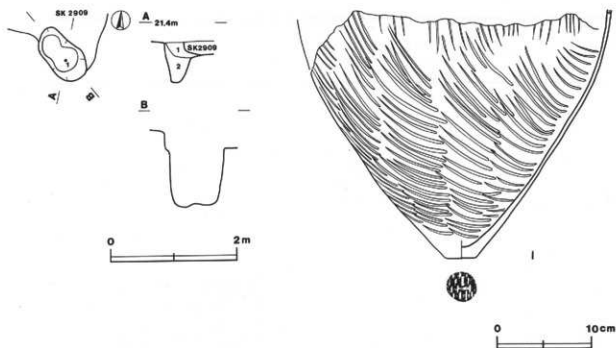
##### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片2点が出土している。第475図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉(安行2式期)と考えられる。



第475図 第2910号土坑・出土遺物実測図

第2910号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第475図 1	浅鉢 縄文土器	B (26.4) C 3.0	底部から胴部の破片。底部は小さく、胴部には斜行する条線文が施されている。	砂粒・長石・パミスに多い灰色 普通	P150 30% PL62 覆土 安行2式

第2912号土坑 (第476図)

位置 調査区の東部, C14b4区。

重複関係 南西部分で第2916号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.36m, 短径1.15mの楕円形で、深さは41cmである。

長径方向 N-39°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片66点が出土している。第476図1の浅鉢は底面付近から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E1式期)と考えられる。

第2912号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	浅鉢 縄文土器	A 27.8 B 16.5 C 10.7	胴部上位でくの字状に屈曲し、口縁部は内傾する。屈曲部から口縁部にかけてR1の単筋縄文が施されている。	砂粒・長石・石英・パミス・糠 褐色 普通	P151 90% PL62 底面 加曾利E1式